

九州共立大学

経済学部

2023 年度

カリキュラムマップ

經濟・經營学科 専門教育科目

<p>学是 (学則第1条の2)</p>				<p>本学は、建学の精神「自律処行」、すなわち自らの良心に従い事に処し善を行うことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる人材を育成する。</p>				
<p>経済学部の人材養成及び 教育研究上の目的等 (学則第3条の3)</p>				<p>経済学部は、学是「自律処行」の精神に基づき、少人数制によるキャリア支援教育、総合教養教育、経済学・経営学の専門教育等を通じて、質の高い学士力を有し、多様化し複雑化する現代社会に適應できる、幅広い職業人を養成することを目的とする。</p> <p>【経済・経営学科】 経済・経営学科は、経済学領域・経営学領域を広く学び、環境や消費者保護、企業倫理などの公共の視点に立ち、社会におけるさまざまな問題を解決できる経済・生産活動の担い手となる人材を養成することを目的とする。</p> <p>【地域創造学科】 地域創造学科は、経済・経営学の科目を基礎に、地域創造に関する専門的知識を学び、PBL(Problem-Based Learning)やアクティブラーニング型の授業を重視した教育課程により、地域を構成する多様なステークホルダーと協働し地域社会の振興と発展に寄与できる実践力を身につけた人材の養成を目的とする。</p>				
<p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー：DP)</p>				<p>経済・経営学科は、総合的な教養、経済分野での多様な専門知識を身につけ、社会におけるさまざまな問題を解決できる経済・生産活動の直接的な担い手となる人材を養成することを目指す。この基本理念をもとに、以下を満たした学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。</p> <p>【主体性・協働性・倫理性】 経済・生産活動の担い手として、高い倫理性をもって自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。</p>				
<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー：CP)</p>				<p>経済・経営学科は、大学の教育課程編成・実施の方針(CP)に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。</p> <p>【教育内容】 1. キャリア教育科目を含めた総合共通科目、専門教育科目、自由選択科目を配置し、6つの領域(生活経済、金融・会計、公共マネジメント、経営管理、スポーツビジネス、ビジネス実務)で求められる幅広い知識を修得する科目を配置する。 2. 専門教育科目は、「経済学関連科目」、「経営学関連科目」、「演習科目」を中心に、ビジネス社会の汎用的科目群を体系的に配置する。3. さらに専門教育科目では、社会人として必要とされる能力の可視化として、資格取得を目指す科目を配置する。これらの科目を通して、国内外において活かせる「課題探求能力」、「課題解決能力」、「調査・分析能力」、「コミュニケーション能力」、「実践力」を育む。</p> <p>【教育方法】 1. 主体的な学びの力を高めるためにアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施する。 2. グループ学修においては、協働性・協調性を身につけ、課題解決能力や実践力が身につけられるよう指導する。 3. 演習においては個別の習熟度を見極め、きめ細やかな個別指導を実施する。</p> <p>【教育評価】 1. 各授業は、シラバスに基づいた到達目標に対応した評価方法を導入し、厳格な成績評価によって単位を付与する。 2. 4年間の学修成果は、卒業要件の各区分単位を満たしたことにより認定する。</p>				
<p>経済学部のカリキュラム</p>				<p>卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕</p>				
科目区分	授業科目名	配当年次	開講学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性・倫理性】 経済・生産活動の担い手として、高い倫理性をもって自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。 ※「倫理性」は2023年度以降の入学生より適用
コア科目群	職業人入門	1年生	前	この講義では、九州共立大学に在籍する4年間に「何を、どのように学び、どんな成果を得るのか」を知り、職業人(ビジネスパーソン)としての意識を涵養することを目標とします。そのため、経済・経営学科の6領域についても、理解を深めたいと考えています。各領域ではどんな力やどんな資格が身につけられ、卒業後はどんな職業についているのか、理解してもらいたいと思います。そういうことを意識しつつ、我が国の経済や組織の経営で現実に行き起きていることを知り、興味を持ってもらうことからはじめます。そのため、経済学部教員のみならず、外部の専門家をゲストに迎え、より身近な話題を提供します。	1 経済や経営の動きに興味を持つことができる。 2 経済や経営の動きへの興味を深めることができる。 3 経済や経営の動きを理解するために、今後、どんな理論を学んでいくのか理解できる。 4 経済・経営学科の6領域を理解できる。	◎	○	○
コア科目群	職業人入門(再)	2年生	前	職業人(ビジネスパーソン)としての社会から求められる社会人基礎力について内容の理解及び実行できることを目標に解説する。	職業人として求められる社会人基礎力(「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」)について内容の理解及び実行できる。	◎	○	○

コア科目群	経済学概論	1年生	前・後	経済学は難しいと、学生からも社会人からもいわれている。これは経済学特有の言葉に慣れ親しんでいないことが大きな理由である。したがって、経済学を学ぶためには、経済学特有の言葉に慣れ親しむことが望ましい。経済学概論は、経済学特有の言葉に慣れ親しむことを目標として、講義を行なう。ミクロ経済学入門などでも、経済学特有の言葉は紹介されるが、ミクロ経済学入門などよりも、より現実の経済に則した題材を基にして紹介していく。	・経済の動きに十分な関心を持つことができる。・経済学特有の言葉を用いることができる。・経済現象の理解ができる。	◎	○	○
コア科目群	経済学概論（再）	2-4年生	前	本講義では、経済学の基本的な概念や基本的な語句を学ぶ。例えば、「需要」と「需要量」は相違する概念であり、違った意味内容であることなどを説明する。基本的な概念や基本的な語句は、英語の単語と同様に、覚えなければいけないものであることを強調し、講義を行なっていく。また、計算を苦手とする学生は、乗数効果の説明に際しては計算を行なうので、そのことに留意して欲しい。	・社会経済現象に対して関心を持つことができる。・自分の考えを経済学の言葉で説明できる。	○	◎	
コア科目群	経済学概論（留）（再）	2-3年生	後	世界経済や社会の動きに関連する経済現象を取り上げ、その現象を経済理論の観点から分析し、今後の動向を考える。また、その過程で、経済学特有の言葉（専門用語）や計算方法を学ぶとともにさまざまな概念を理解し、経済学者はどんな言葉でその現象を把握しようとしたのかを考える。なお、本講義では、経済現象を多面的に分析する方法などに焦点を当てながら講義を進め、これからの経済学の専門分野の勉強につなげる第一歩としたい。	①経済学の基本的な概念や専門用語を理解し、説明することができる。②経済学で使用される計算をできるようになる。③市場の調整過程について説明できるようになる。④経済現象を価格弾力性の概念で分析し、その現象に対する対応策を提示できる。⑤IS-LMモデルにおける均衡国内所得や均衡利子率を計算できるようになる。⑥IS-LMモデルにおける政策の効果について説明できるようになる。	◎	○	○
コア科目群	経営学概論	1年生	前	本講義は、主に経営学を初めて学ぶ学生諸君を対象とした「導入科目」であり、その基本分野である「企業システム（会社の成り立ち）」、「経営戦略」（企業成長の方法）、「経営組織（戦略達成のための組織デザイン）」、「経営管理」（モチベーションとリーダーシップ）の基礎的知識（理論）を幅広く解説します。経営学という「学問そのもの」にまずは興味・関心をもってもらうことが目標ですが、それに加えて受講学生の皆さんが現実の会社経営や産業のあり方について十分な基礎的理解を得られるよう、できる限り多くの企業／業界の事例を取り上げていく予定です。	・経営学の各領域における基本的な理論／考え方について、その内容・目的等を適切に説明できる。・新聞・雑誌等に掲載される企業・業界関連記事の概要を理解し、その要点を適切に説明できる。・マネジメント検定試験（大学生修得レベル）の出題領域に対応する必要知識の40％程度を習得できる。	◎	○	
コア科目群	経営学概論（再）	2-4年生	後	現代におけるわれわれの便利な生活は、企業によって支えられているといっても過言ではない。こうした企業がどのような経営活動を行っているのかについて関心をもつようになると、経営学に関する知識が必要となってくる。本講義では、経営学の基礎概念・理論などを紹介・解説しながら、経営学の基礎知識を学んでいく。	経営学の基礎的な概念・知識を理解し、説明することができる。	◎	○	
コア科目群	簿記入門	1年生	前	複式簿記の構造、財務諸表の内容、簿記一巡の手続きを中心に理解する。前半では、複式簿記の構造、財務諸表の内容、勘定科目の内容について説明する。これによって、複式簿記の構造に関する総論的・各論的な知識を得ることができる。後半では、簿記一巡の手続きについて説明する。これによって、仕訳、試算表の作成ができるとともに、複式簿記の構造について理解することができる。また、日商簿記初級の出題範囲を網羅していることから、それについて解答できる。【担当：正田、岡部】 ※岡部クラスは、金融機関に管理職含め約25年、税理士として14年（兼任）した経験を活かして理論と実践の融合した授業を展開する。	1.複式簿記の構造について、説明することができる。2.簿記一巡の手続きについて、説明することができる。3.学習範囲の仕訳について、説明することができる。	◎	○	○
コア科目群	初級簿記	1年生	後	複式簿記の構造、財務諸表の内容と作成方法、簿記一巡の手続きについて理解する。前半では、複式簿記の構造、主要簿及び補助元帳・補助記入帳について説明する。複式簿記の構造に関する総論的・各論的な知識を得ることができる。後半では、英米式決算法と財務諸表の作成方法について説明する。財務諸表の作成が出来るとともに、複式簿記の構造について理解することができる。また、日商簿記検定3級の出題範囲を網羅していることから、それについて解答できる。【担当：正田、水島】	1.複式簿記の構造について、説明することができる。2.会計処理のルールとその考え方について、具体的に述べる事ができる。3.財務諸表について、正確に作成することができる。4.財務諸表作成に関する具体的な会計処理について、正確に行うことができる。5.簿記一巡の手続きについて、説明することができる。	◎	○	○
コア科目群	職業と経済	1年生	後	本講義では我が国の産業・職業構造の変化と、働く上で必要な知識や技能の習得の観点から解説する。どのような職業があるのかについて説明し、仕事の特徴やキャリア形成、賃金の特徴、求められる技能や形成方法について考察する。さらに、少子高齢化の影響、情報通信技術の進歩による仕事や働き方の変化について取り上げる。	① 職業とは何か、様々な職業の特徴について理解することができる。② 労働経済学の初歩的な知識を身につけることができる。③ 自らの職業選択を今後考えていく上で必要となる基礎知識について理解することができる。	◎	○	○

コア科目群	統計学入門	2年生	前	近年、新聞やテレビ、インターネットにおいて、平均気温、アンケート調査、内閣支持率など、数多くの統計データを目にします。「統計」と聞くと、理系分野のような印象をもっている人もいかもしれませんが、経営や商品開発など、統計的な考え方はどの分野においても今や欠かせないものとなっています。そこで、本講義では、データを収集し、その得られたデータをどのように活用すれば良いのかというデータの分析方法の基礎を学びます。データの特性を読み取り、データ分析から問題を解決する力を身につけましょう。	1. データの種類とそのまとめ方について理解できる 2. 記述統計学と推測統計学の違いを理解できる 3. 平均・分散(標準偏差)の意味を理解し、データの特性をつかむことができる 4. 推定の意味を理解し、データを分析することができる	○	◎	
コア科目群	ミクロ経済学入門	2年生	前	本講義では、ミクロ経済学の基礎知識を習得し、経済学の基本的なものの見方や考え方を身につけ、消費者行動、生産者行動、完全競争市場に関する理論体系を学習する。そのことにより、社会の現実的な課題に対して問題意識を持ち、それらを専門的な知識に基づいて考察し、経済学が私たちの身近な問題にいかに関わっているのかを理解できるようにする。ミクロ経済学の基礎を学ぶことにより、現実経済で生じる問題を体系的に考察することができるよう解説する。実務教員による授業なので、現実適用的な内容を取り上げると同時に、ブラクティカルな思考法を皆さんに求めます。	①ミクロ経済学の基礎知識を習得し、経済学の基本的なものの見方や考え方を理解できる。 ②消費者行動、生産者行動、完全競争市場に関する理論を理解できる。 ③余剰の概念を用いて政策の効果を考察できる。 ④経済学の理論的基礎を学び、その理論の構造や分析方法を理解し、現実の経済問題について経済学的な視点から自分なりに考えることができる。	◎	○	○
コア科目群	マクロ経済学入門	2年生	前	現在、日本は少子高齢化や巨額の財政赤字といった様々な問題を抱えている。本講義では、政府や地方自治体などの公共部門がどのような役割を持つのかをマクロ経済学的視点から解説し、財政赤字の現状などに即して政府のマクロ経済政策の課題とあり方について考察する。また、それらを経済循環として表現する方法にも焦点を当てた上で、財政政策の効果などを分析する。なお、OHCまたはパワーポイントを利用して講義を進める。	①マクロ経済学の基礎理論を理解し、現実経済の動向を分析できる能力を身につける。 ②マクロモデルの違いを説明できるだけでなく、現実経済との関連性を理解できる。 ③日本経済の現状と課題について問題意識を持ち、それらの問題に対して自分なりの分析を実践できる。 ④様々な政策課題に対して問題意識を持ち、その解決策を提案できる。	◎	○	
コア科目群	経済史	2年生	前	経済は、財やサービスが生産され、流通し、そして消費されるという点から見れば、生存に最も必要な人間の営為のひとつです。経済史は、社会的な動物でもある人間の経済について、その歴史を事実を整理、分析、叙述し意味を探ろうとしたものです。経済史は、多様な考えや見方にもとまきなされてきた。たとえば一国、グローバル、政府や企業、産業、経営者、組織や集団、文化、自給自足に関するものまで。この多様さは、人間が、様々な過程を通じ社会生活を送っていることが反映された結果でもあります。この講義では、経済史学に関するいくつかの方法を紹介した上で、具体的な叙述を事例として解説したいと思います。	・物事を見て説明するためには、筋道を立てることが必要であることが理解できる ・多くの事実を情報として知覚し、物の見方を通じ取捨選択する必要性の理解につながる ・経済事象を長期的スパンからストーリーとして見ることができる ・経済を通じて人類共通のシステムを理解することができる	◎	○	○
コア科目群	会社入門	2年生	前	本講義では、現代(日本の)企業システムに関する基礎知識の習得を目指します。前半は、会社(企業)の種類や特徴、社会的な役割などについて学び、中でも「株式会社」と「株式市場」の仕組み、またコーポレート・ガバナンス(会社統治)の問題に重点を置いて解説していきます。後半は、「企業間関係」の問題に焦点を当てて、企業間競争のあり方(競争の意義と問題点)、M&A(企業の合併と買収)、また日本の企業システムに固有のグループ戦略(企業グループの原理、持ち株会社制、系列組織、企業集団など)について解説し、広く(日本の)会社組織の行動原理について学んでいきます。	・株式会社および株式市場、また会社統治の仕組みとその役割など社会人として必要とされる企業関連の基礎的事項について説明できる。 ・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、適切にその理由やポイントを説明することができる。 ・マネジメント検定試験(初級;大学生修得レベル)の「企業論」領域について60%程度の知識を修得することができる。	◎	○	
コア科目群	会計入門	2年生	前	企業を取り巻く様々な利害関係者に対して、いかにすれば当該企業の経営成績や財政状態を適切に伝達することができるかという観点から、まず会計の意義、会計基準、関係法令について学ぶ。そして、利益計算に関する会計処理とそれを支える会計理論、さらに企業の資産・負債・純資産に関する会計処理をもとに貸借対照表の構造を学ぶ。これらをふまえ、ビジネス社会における共通言語といわれる会計情報がどのようにして作成され、伝達されるのかについて理解するとともに、財務諸表からどのようなことが読み取れるのかについても学ぶ。	1. 会計の基礎的概念、基準、制度を理解できる。 2. 損益計算の仕組みや財政状態の構造を理解できる。 3. 財務諸表をもとに企業の経済的実態の基礎的分析ができる。 4. 会計の目的や社会的役割を説明できる。	◎	○	
コア科目群	企業経営入門	2年生	前	本講義は、現代の企業とその経営について「全体の理解を得る」ことを第1の目標とします。一方、企業を取り巻く環境は激しく変化しており、産業界では、新たな経営手法やスキームが次々と開発されています。そこで、企業の事例を踏まえながら、主要概念や用語を講義・解説するとともに、産業界の新トレンドを解説していきます。	1. 経営体や経営学の全体像が理解できる。 2. 経営学の基礎知識や最新知識(概念・用語)が習得できる。 3. 産業界のトレンドが理解できる。	◎	○	○

コア科目群	企業経営入門 (留)	2年生	前	本講義は、現代の企業とその経営について「全体の理解を得る」ことを第1の目標とします。一方、企業を取り巻く環境は激しく変化しており、産業界では、新たな経営手法やスキームが次々と開発されています。そこで、企業の実例を踏まえながら、主要概念や用語を講義・解説するとともに、産業界の新トレンドを解説していきます。さらに、この授業は留学生向けの授業として開講されることから、国際経営比較の視点での解説を加えていきます。	1. 経営体や経営学の全体像が理解できる。 2. 経営学の基礎知識や最新知識(概念・用語)が習得できる。 3. 産業界のトレンドが理解できる。	◎	○	○
コア科目群	商業の歴史	2年生	前	商業は、歴史上、古くから存在していた産業であるとともに、現代の経済においても大きな比重を占めている。しかしながら、こうした特徴をもつ商業の歴史的展開の過程を顧みる機会は少ない。本講義では、商業史を学ぶうえで前提となる商品・貨幣・信用などの概念を説明したのち、前近代から近代における日本の流通・金融・貿易などの分野に焦点をあてる。われわれの日常生活と密接なかかわりをもつ商業を歴史的な観点から考える。	日本における商業の歴史的形成と発展過程について説明することができる。	◎	○	
コア科目群	日本経済論入門	2年生	前	日本経済の戦後から現在までの推移、動向等について基礎的事項を中心に解説する。また、現在の日本経済の諸課題の要因等について、具体的事例を取り入れて解説する。	・戦後から現在までの日本経済の推移、課題等について基礎的事項が理解できる。	◎	○	○
コア科目群	日本経済史	2年生	後	この講義では、日本経済の発展を歴史的に把握することを目標とします。歴史的にみて日本は江戸時代、現代社会に通じる市場経済を軸とした経済社会が成立しました。その後日本は、幕末に開港して世界市場の一環に加わり、さらに明治維新以後の様々な変革を通じて経済の近代化を図りました。そうした史実をふまえてこの講義では、日本における市場経済を軸とする経済発展の礎となった時期である近世(江戸時代)の経済史を講義します。講義は前半部分は近世の経済構造を、後半部分では市場経済、産業の発展を、それぞれ中心に解説します。なお近代については近代日本経済史の授業で講義しますので、この授業はその前提ともなります。	・日本における市場社会の始まりと展開を学ぶことができる ・市場や産業の発展と変遷を学ぶことができる ・現在に通じる長期的スパンから日本経済の展開を知ることができる	◎	○	○
コア科目群	マクロ経済学	2年生	後	本講義では、マクロ経済学の基本的な考え方を学び、経済学的な思考力や分析手法について習得する。応用的なトピックを取り上げながら、経済学の基礎知識や理論に基づき、実際の経済問題について考察することができることを目標とする。日本経済を例として、具体的には、IS-LM分析、AD-AS分析、インフレーションと失業、国際マクロ経済、景気循環、経済成長について学ぶ。現代の抱える諸問題を経済学的な側面から思考し、現実の経済を理解する能力を身につけ、問題に対する広い視野を養うことを目指す。	①マクロ経済学の理論的基礎を学び、日本経済の現状に対してその課題と原因について、自分なりに考えることができるようになる。 ②経済政策の役割を理解し、それらの効果や有効性を把握することで、現実の経済で生じる問題を体系的に考察することができるようになる。 ③社会の現実的な課題に対して問題意識を持ち、それらを専門的な知識に基づいて考察し、経済学が私たちの身近な問題にいかに関わっているのかを理解し、応用できるようになる。	◎	○	
コア科目群	ミクロ経済学	2年生	後	本講義では、ミクロ経済学の諸理論を理解し、経済学の基本的なものの見方や考え方を身につけ、消費者行動、生産者行動、完全競争市場に関する理論体系を学習し、不完全競争市場、公共財、不確実性、ゲーム理論などミクロ経済学のより進んだ内容について学ぶ。そのことにより、社会の現実的な課題に対して問題意識を持ち、それらを専門的な知識に基づいて考察し、経済学が私たちの身近な問題にいかに関わっているのかを理解できるようになる。ミクロ経済学の代表的な理論を紹介し、現実経済で生じる問題を体系的に考察することができるよう解説する。	①ミクロ経済学の基礎知識を習得し、経済学の基本的なものの見方や考え方を理解できる。 ②消費者行動、生産者行動、完全競争市場、不完全競争市場に関する理論を理解できる。 ③余剰の概念を用いて政策の効果を考察できる。 ④経済学の理論的基礎を学び、その理論の構造や分析方法を理解し、現実の経済問題について経済学的な視点から自分なりに考えることができる。 ⑤ミクロ経済学の応用分野を学修するにあたり、必要な基礎知識を身につけることができる。	◎	○	
コア科目群	統計学	2年生	後	データの活用は、できて当然の時代となりました。しかし、データの活用には基礎的な知識を必要とします。本講義では基礎的な知識の修得を目的とします。基礎的な知識の習得のためには、実際に電卓を使って標準偏差等の計算をすることが、習得するのに最も役立ちます。このため、本講義では毎回電卓を持つことを義務とし、持っていない場合には何らかのペナルティを課す予定です。	・データの平均・分散(標準偏差)を求めることができる。 ・独立性の検定ができる。 ・単回帰方程式の計算ができる。	◎	○	

コア科目群	経済とデータ分析	3年生	前	本講義の目的は、受講者が統計リテラシーを高めたうえで、経済統計を用いた各種のグラフ作成と簡便なデータ加工・計算を通じて基礎的な経済分析のスキルを修得することである。具体的な授業課題は、①統計とは何か、どのような特徴を持っているのか、何のために統計を利用するのかについて明確な意識を持つこと、②Excelを利用して、スプレッドシート形式(Excelファイルもしくはcsvファイル)で公表されるデータの整理、変化率や指数などの計算を行い、各種のグラフを作成すること、③複数系列のデータに対する回帰分析を行うことである。授業は講義を交えながら、実習形式で行う。	いくつかの経済統計を具体的な例として挙げ、どのような意図で作成され、どのような目的で使うことができるのかを自分の言葉で説明できる。・データの性質や分析の目的に応じ、折れ線グラフ、棒グラフ、円グラフ、散布図などのうち、どのグラフを選択すべきかについて適切な判断ができ、実際にExcelで作成できる。・Excelの四則演算機能に基づいて、変化率、移動平均、指数などの計算ができる。・Excelのデータ分析機能などを利用して、単純回帰分析を実施することができる。・社会の実データ、実課題を適切に読み解き、判断ができる。	◎	○	○
コア科目群	経済とデータ分析	3年生	前	本講義の目的は、受講者が統計リテラシーを高めたうえで、経済統計を用いた各種のグラフ作成と簡便なデータ加工・計算を通じて基礎的な経済分析のスキルを修得することである。具体的な授業課題は、①統計とは何か、どのような特徴を持っているのか、何のために統計を利用するのかについて明確な意識を持つこと、②Excelを利用して、スプレッドシート形式(Excelファイルもしくはcsvファイル)で公表されるデータの整理、変化率や指数などの計算を行い、各種のグラフを作成すること、③複数系列のデータに対する回帰分析を行うことである。授業は講義を交えながら、実習形式で行う。	いくつかの経済統計を具体的な例として挙げ、どのような意図で作成され、どのような目的で使うことができるのかを自分の言葉で説明できる。・データの性質や分析の目的に応じ、折れ線グラフ、棒グラフ、円グラフ、散布図などのうち、どのグラフを選択すべきかについて適切な判断ができ、実際にExcelで作成できる。・Excelの四則演算機能に基づいて、変化率、移動平均、指数などの計算ができる。・Excelのデータ分析機能などを利用して、単純回帰分析を実施することができる。	◎	○	○
コア科目群	経済学特講Ⅰ(地方公共団体の財政健全化)	3年生	後	当講義では、どのようなルールや仕組みが財政破綻に陥らないように地方公共団体を律しているのか、制度と関連づけて解説する。地方公共団体の自発的な財政健全化を促す仕組みが組み込まれている地方財政健全化制度だけでなく、それと一体的な運営がなされている地方債制度、すべての地方公共団体に必要な財源を保障する地方交付税制度、中心的な財源である地方税制度、財政運営の出発点となる予算編成、歳入と歳出の関係などを扱う。単なる制度解説にはとどまらず、福岡県と県内市町村の実際の決算データを用いて、個々の特徴や問題点も明らかにする。	・地方公共団体の財政運営がどのような制度によって支えられているのかについて、説明できる。・個別の地方公共団体が財政危機に陥ることを回避するための仕組みや、財政状況が悪化した場合に地方公共団体の自発的な財政健全化を促す仕組みについて、説明できる。・福岡県および自分の住んでいる市町村の財政構造の特徴や財政運営上の問題について、説明できる。	◎	○	○
コア科目群	経済学特講Ⅰ(公務員試験対応)	3年生	後	本科目は、公務員(行政職・警察官・消防官等)を目指す学生を対象として、公務員試験の一次試験や二次試験で行われることが多い論文・作文の書き方についての講義を行います。試験の種類によって異なりますが、論文試験・作文試験では、概ね800字～1200字を60分～90分程度で書いていかなければなりません。また、出題テーマも試験によって様々であるため、時事問題を理解した上で、文章の構成の仕方や論理的な書き方を身に付ける必要があります。したがって、これらの対策講座を行います。	① 時事問題を理解し、説明することができる。 ② 文章の構成の仕方や論理的な書き方を身に付ける。 ③ 各公務員の職務内容についてよく理解し文章に反映することができる。	○	◎	○
コア科目群	経営学特講Ⅰ(社会人基礎講座)	3年生	後	本講義は、社会人として必要とされる知識や能力を身に付けることを目的としている。そのためには、社会人基礎力、社会常識、「考える力」について理解を深めるとともに、読み・書きを通して基礎力の向上を目指す。	1. 社会に興味・関心をもてるようになる。 2. 社会人や職業人に必要な基礎知識を理解することができる。 3. 情報を読み解くことができる。	○	◎	
コア科目群	経営学特講Ⅰ(ビジネスとプレゼンテーション)	3年生	後	実社会ではビジネスシーンを中心とした様々な場面で、自らの考えや企画などを関係者に開示しアピールし、理解を得て賛同を獲得することが求められるようになります。アピールコンテンツ自体が正しくかつ魅力的であることが大前提なのは言うまでもありませんが、それを正確にそしてより魅力的に伝えるためには、伝達技法にも留意した合理的・効果的プレゼンテーションが不可欠です。この授業では、そうしたプロセスで必要とされる様々なスキルを、就職活動への応用も意識しながら実践的に学びます。	1. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる。 2. 理解した情報を伝達可能なコンテンツに合理的に再構築できる。 3. 伝達すべき情報コンテンツ及び考えを正確かつ魅力的に構成できる。 4. 伝達すべき情報コンテンツ及び考えを口頭で伝えることができる。 5. プレゼンテーション用アプリケーションの効果的な利用ができる。	○	◎	○
コア科目群	経営学特講Ⅰ(ISO9001)	3年生	後	1. 講師はISO(国際標準化機構)の審査機関であるEQA国際認証センターのコンサルタント活動ならびに内部監査トレーニングの経験を活かし実務の授業を展開する。 2. この科目は、企業や行政機関に導入しているISO規格を内部監査資格を有する人材を在学中に資格取得させる授業である。後期の集中講義(4日間)を受講することにより、品質マネジメントシステム(ISO9001)内部品質監査員の資格(有料)を取得する事ができる。尚、試験の合格点は70点以上とする。	1. 品質マネジメントシステム(ISO9001)内部環境監査員の資格を取得する事ができる。(有料試験合格必須) 2. ISO内部監査員について基本的な知識から習得し、ロールプレイなどを通して実践を行うことで監査に必要な技能を身につけることができる。	◎	○	○

コア科目群	経済学特講Ⅱ（公務員試験対応）	4年生	前	本科目は、公務員（行政職・警察官・消防官等）を目指す学生を対象として、公務員試験の一次試験や二次試験で行われることが多い集団討論や面接対策についての講義を行います。試験の種類によって異なりますが、集団討論や面接においては、時事問題や各公務員の職務内容に関するテーマが話題されたり質問されるため、よく理解しておく必要があります。これらの対策講義を行いますので、公務員を目指す学生は、是非履修してください。	① 時事問題を理解し、説明することができる。 ② 各公務員の職務内容についてよく理解し説明することができる。 ③ 論理的な思考および説明能力を身に付けることができる。	○	◎	○
コア科目群	経営学特講Ⅱ（社会人基礎講座）	4年生	前	本講義は、社会人として必要とされる知識や能力を身につけることを目的としている。そのためには、社会人基礎力、社会常識、「考える力」について理解を深めるとともに、読み・書きを通して基礎力の向上を目指す。	1. 社会に興味・関心をもつようになる。 2. 社会人や職業人に必要な基礎知識を理解することができる。 3. 情報を読み解くことができる。	○	◎	
コア科目群	経営学特講Ⅱ（ビジネスとプレゼンテーション）	4年生	前	実社会ではビジネスシーンを中心とした様々な場面で、自らの考えや企画などを関係者に開示しアピールし、理解を得て賛同を獲得することが求められるようになります。アピールコンテンツ自体が正しくかつ魅力的であることが大前提なのは言うまでもありませんが、それを正確にそしてより魅力的に伝えるためには、伝達技法にも留意した合理的・効果的のプレゼンテーションが不可欠です。この授業では、そうしたプロセスで必要とされる様々なスキルを、就職活動への応用も意識しながら実践的に学びます。	1. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる。 2. 理解した情報を伝達可能なコンテンツに合理的に再構築できる。 3. 伝達すべき情報コンテンツ及び考えを正確かつ魅力的に構成できる。 4. 伝達すべき情報コンテンツ及び考えを口頭で伝えることができる。 5. プレゼンテーション用アプリケーションの効果的な利用ができる。	○	◎	○
領域科目群	会社法	2年生	前	会社法は、企業形態の一つである会社に関する法律です。この会社法は、会社をめぐる様々な利害関係を調整し、法律関係を円滑に処理する役割を担っています。ニュースや新聞紙上でも、株主、株主総会、M&Aといった会社法に関する用語が頻りに登場しますが、会社法は、ビジネスパーソンにとって大変身近な法律であるのです。この授業では、株式会社を中心に会社法の基礎を体系的に理解できるように、税理士としての実務経験を活かし、実践的視点から授業を行います。	本講義は、社会人となった時に知っておきたいビジネスルールとしての会社法の考え方を修得することを目標とします。具体的には次の通りです。① 会社法の基本的仕組みを理解できる。② 会社法の基本的問題に関して認識できる。③ 具体的な問題解決に必要な会社法の仕組みと解釈方法を修得できる。	◎	○	○
領域科目群	金融と会計	2年生	前	実務家教員として金融機関に管理職含め約25年、税理士として15年（兼任）した経験を活かし理論と実践の融合した授業を展開する。本講義では、財務諸表論の初心者から中級者程度の知識を有する学生を対象として、財務会計の制度を分かり易く解説して財務諸表が読めるようになることを目的とする。財務諸表は、企業を取り巻く利害関係者（ステークホルダー）に対して当該企業の財政状態および経営成績に関する真実な情報を提供している。とりわけ、財務諸表は企業外部のさまざまな情報利用者に対して、信頼しうる有用な情報を提供することを使命としているので、理論と実務の両側面からアプローチし学修する。	1. 財務諸表である貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の機能とその関連性が理解できる。 2. 財務諸表は国内の法律や欧米の会計基準の影響を受けるため、会計の理論とその制度を理解できる。 3. 企業の財務諸表に必要な会計処理ができる。	○	◎	○
領域科目群	財政学入門	2年生	前	当講義では、政府の予算制度を中心にして国民経済的な見地から政府活動の実態とその効果について解説する。制度の説明に際しては、現実の予算・決算の資料や最新の統計数値を利用する。理論の解説に際しては、図による説明を基本としつつ、マクロ経済学の考え方を応用して、財政の経済安定化機能を具体的な形で学ぶ。いずれも、受講者の意欲・熱意が何よりも求められる。なお、関連科目である「財政学」ではミクロ経済学の考え方を応用した税制の経済効果の考察を行い、当「財政学入門」で学修する事項との重複部分はない。	・新聞等で報道されている日本の財政状況について、客観的に事実を整理することができる。・日本の財政に関する問題の所在や解決に向けた論点を自分の言葉で説明できる。	◎	○	
領域科目群	民法（総則・物権）	2年生	前	民法は私たちの日常生活に密接に関係する基本的な法律です。この授業では、民法の5つの編のうち、基本的原則を定める第1編「総則」と、物に対する権利を定める第2編「物権」について学びます。法律知識を身につけながら、民法と私たちの身の回りの出来事などがどのように関わっているかを説明します。そのために、以下の方法で行います。・総則・物権に関する基本的な知識を、条文を参照しながら説明する。・総則・物権について、具体例を挙げながら説明する。	①民法の基本的な原則を説明できる。②物権の具体的な内容を説明できる。③総則・物権編の基本的な法律用語を説明できる。④私たちの生活に民法がどのように関わっているかを説明できる。⑤身の回りの問題を法的に捉えて、自分の頭で考えることができる。	○	◎	○



領域 科目群	中級簿記	2年生	前	<p>会計とは経済主体の経済活動を記録・計算・報告する一連の行為である。簿記はその会計実践の中でも、主として記録に関わる知識・技能である。本講義では、まず株式会社に関する組織および会計の特徴を解説する。その上で、株式会社での株式の発行、利益配当、外貨、預金、有価証券、手形、電子記録債権、固定資産、商品売買、リース、配当金、税金等のほか、企業間の連結や本支店間の扱い等についてその会計処理(主として仕訳)および帳票の活用、財務諸表の作成について、演習を通してこれを修得する。</p>	<p>以下により中級レベルの会計知識と技能を身に付けることを目指す。・株式会社の特徴を会計的視点(資金調達、剰余金処分などの視点)で説明できる。・株券発行、剰余金の配当、増減資、預金、外資、手形、有価証券、商品売買、リース、引当金、税金のほか、企業間の連結や本支店間の取扱い等に関する会計処理ができる。・総勘定元帳の各種勘定口座、伝票、仕訳日計表、銀行勘定調整表、試算表、精算表、財務諸表などの会計処理上の意義を理解し、これを作成活用できる。</p>	◎	○	○
領域 科目群	イベント論	2年生	前	<p>味の素㈱でのスポンサー経験、味の素スタジアムでの勤務経験をふまえて、スポーツ、音楽、地域、商業など多彩なイベントの実態を紹介しながら、日本イベント産業振興協会のテキストをベースに授業を進める。2019ラグビーワールドカップ終了後、コロナ禍の影響で2020東京オリンピック・パラリンピックは延期され、それ以外にも様々なイベントが中止、延期、自粛の対象となった。これによりイベントが人々の生活に潤いや絆をもたらす存在であることが再認識された。この講義では、イベントの歴史や成り立ち、開催までの準備や運営方法などを、様々な実例から学ぶ。本講義を通じて上記協会の「イベント検定」の受験が可能となる。</p>	<p>・イベントの基礎知識を習得し、イベントについて説明ができるようになる。 ・イベントの構造を理解し、スタッフとして働く基礎を学ぶことができる。 ・身近にあるイベントの企画や運営を行う基礎を学ぶことができる。 ・イベントに関連する企業や団体について理解を深め、就職活動の対象とすることができる。</p>	◎	○	
領域 科目群	環境のビジネス	2年生	前	<p>企業に求められる社会的責任のうち、特に外部への環境に与える影響とその緩和策について概観する。いくつかの会社のCSR報告書を概観し、その実態を把握する。また国際標準化機構ISO14001の骨格を理解できるようにする。</p>	<p>企業のCSR報告書の構成と内容を理解できる。企業が取り組む環境保全の取り組みを理解する能力を身に付けることができる。企業のCSRを理解することにより我が国の環境行政の在り方と国際貢献について広い知見を持つことができる。</p>	○	◎	○
領域 科目群	人口学	2年生	前	<p>少子化・高齢化が進む中で人口減少は、日本の経済社会に多大な影響を及ぼすことが懸念されている。そのような状況では、人口データの性質を把握し、人口が経済社会に及ぼす影響を客観的に分析する能力とその分析結果の意味を理解する能力が重要と思われる。そこで、本講義では、上記の事を念頭に置いて、人口学で用いられる分析方法や結果の解釈等を体得するための講義を実践的に進める。なお、プリント(ユニバで配布予定)とOHCを利用して講義を進める。</p>	<p>①少子・高齢化の現状及び将来動向についての基礎知識を習得する。②人口モデルの数値から人口変動の動向などを判断することができる。③人口変動と経済社会の関係を把握して、経済社会の将来を見通すことができる。④実践的な分析力を習得し、人口問題の解決に寄与できる能力を身に付ける。</p>	○	◎	
領域 科目群	非営利組織論	2年生	前	<p>今日、非営利組織は社会のニーズに応える新たな存在として関心が高まってきており、行政や営利企業でもない第3の主体として重要な役割を果たすことが期待されている。そこで、地方公務員として、まちづくり、教育、地域医療等に従事したのち、現在NPO法人や株式会社を設立・経営している経験を活かし、それぞれの視点から非営利組織を捉えて、その概要や社会的意義を明らかにしていく。さらに、その実体から見えてくる特徴や課題、可能性を整理しながら非営利組織に対する理解を深めるため、身近な具体的事例を取り上げながら授業を展開していく。</p>	<p>①非営利組織についての実態や特徴を把握して説明できる。②グループワークやグループディスカッションに積極的に参加して、説明・発表ができる。③非営利組織を正しく理解して、将来の具体的な職業をイメージすることができる。</p>	○	◎	○
領域 科目群	憲法	2年生	前	<p>わが国の最高法規である日本国憲法の基本的な考え方を学ぶ。1～9回は基本的人権論(私たちにどのような人権がどの程度保障されているのか)、10～15回は統治機構論(わが国の国のしくみがどのような構造になっているのか)について解説していきます。担当教員は、これまで地方公共団体の行政委員会や審議会の専門委員を務めた経験があり、人権への配慮や行政運営に関わってきた経験を交えながら講義を行う。基本的な条文解釈・判例評釈・学説を積極的に理解し、基礎知識を事例に当てはめ、自ら論理的に考え、他者に説得力をもって説明できるように、講義を進めていく。指定テキストを必ず持参すること。</p>	<p>①憲法の個人の尊厳原理は、多様な価値観を尊重し、自己の価値観に基づき自己の意見を述べ、他者とのコミュニケーションの中で主体的に人格形成に取り組むことを求めている。講義を通じ理解・実践できるようになる。②人権問題、政治的法的紛争に対し、憲法上の知識を活用し、論理的に考え、自ら答えを導き出せるようになる。社会人として、広く社会的事象に目を向け、バランスよく、的確な判断をしていくために必要な価値基準を学び取ることを目標にする。③憲法上も経済的自由権がある。学士(経済学)に必要な知識考え方を身に付け、経済学および経営学の学問体系との関連性についても理解できるようになる。</p>		◎	○
領域 科目群	スポーツビジネス入門	2年生	前	<p>「スポーツ×○○」とスポーツをコンテンツとして扱うあらゆる形態のビジネスを総称してスポーツビジネスと言います。プロスポーツからアマチュアスポーツに関わるあらゆる方面で仕事をしてきた経験を生かして、実際にどのようなビジネスがあるのかを本授業では概観していきます。ビジネスの主体として自分の立ち位置を考える習慣を身につけましょう。2022年度では、これまで以上に時事的な社会全体の動きを見ながら、その中でスポーツビジネスがどのように動いていくのかについても考えていくことにします。</p>	<p>(1)「スポーツビジネスとは？」と問いかけられた時に概要を説明できる。(2)スポーツを「する」という関わり方以外のスポーツの活用方法について、ビジネスの側面から具体的な事例を2つ以上説明できる。(3)スポーツに関わる仕事に就くというイメージも持つことができる。(4)スポーツビジネスの収益システムにおけるBtoB、BtoCの具体的な事例を最低1例ずつ紹介できる。(5)授業で紹介された実際のスポーツビジネスの事例をより深く理解するための質問を最低2つ考えることができる。</p>	◎	○	

領域科目群	ビジネス実務総論A	2年生	前	本講義では、ビジネスパーソンとして必要な資質や役割を理解し、ビジネスの現場で行動・活躍できる人材の育成を目標とする。ビジネス社会における実務、そのマネジメント、ビジネス社会を取り巻く環境、企業組織、ビジネスパーソンのキャリアなどについて理解を深め、ビジネス実務の基本から応用にいたるまで、幅広く修得することを目的とする。	・ビジネスパーソンとしての役割を理解し、ふさわしい立ち居振る舞いができる。 ・ビジネス実務を通して、自分の意見をエピソードを交えて発表することができる。 ・ビジネス実務を通して、チームの中でお互いに教え合うことができる。 ・ビジネス実務を通して得た思想を自分の人生に活かすことができる。	○	◎	○
領域科目群	ビジネス実務総論A	2年生	前	本講義では、学生生活の中で、得ておくべきビジネス実務に関する知識を会得するため、ビジネスの実践を「ことば」で理解し、世の中のビジネスがどのようにできているのか、その仕組みなどを学び(インプット)、出席者によるプレゼンテーション(アウトプット)を行う。アウトプットすることで自分の考えがまとまり、他者の発表を聞くことで、「このアイデアを取り入れよう」「自分だったらこうする」と参考にできる。様々な「ことば」や「理論」「仕組み」を知っておくと、今後のビジネスの様々なシーンで活用できる。本講義では、インプットとアウトプットの循環を重視する。	①:ビジネスの実践シーンで使用される「ことば」について具体的事例を用いて、説明できるようになる。②:日常生活においての「ビジネス」のフレームが利用されている状況などについて視野を広く持てるようになる。③:アウトプットをすることで吸収力が高まり、パワーポイント(ppt)を使った発表力が高まる。④:海外の市場の性質を理解し、説得力を持った発表ができる。	○	◎	○
領域科目群	日本経済論	2年生	後	日本経済の現状や諸課題等について解説する。また、具体的な事例も含めて解説する。	日本経済の現状や諸課題について理解できる。	◎	○	○
領域科目群	金融論入門	2年生	後	・金融の定義、目的と機能、および経済社会に対する効果を取り上げる。 ・主に4つの側面から金融を分析し、理解することを狙う。第1:まず初めに金融業界・業態の全体像を俯瞰して、それぞれが果たしている金融機能を見る。第2:金融取引をする際の基本的構成要素の経済学的な意味を解説する。第3:資金需給のニーズや、そのための仕組みを解説する。第4:金融のマクロ経済学的な側面について学習する。・教員のコンサルティング会社およびデータ分析会社での経験を基に、授業にロジカル・シンキングの視点を取り入れます。	・必要最小限度の金融リテラシーを理解している。 ・イメージではなく、経済学の基礎に基づいて金融の機能と効果を理解している。 ・各金融業態や金融機関の目的、機能と特徴を理解している。 ・金融機関、金融政策およびマクロ経済に及ぼす影響について理解している。	○	◎	○
領域科目群	商法総則	2年生	後	本講義は、商法「第一編総則」を対象とします。商法は、商人及び企業取引に関する法律ですが、その基礎をなす商法総則の基本概念・制度趣旨を中心に講義を行います。平成17年の会社法制定により、現在、商法総則の規定の大部分は、個人商人にのみ適用されますが、商法総則と会社法総則の多くは共通していることから、個人商人特有の問題に關し、会社組織との対比を念頭におきながら講義を行います。また、税理士としての実務経験を活かし、実践的視点からも授業展開を行います。	本講義は、社会人となった時に知っておきたいビジネスルールとしての商法の考え方を修得することを目標とします。具体的には次の通りです。① 商法の基本的仕組みを理解できる。② 商法の基本的問題に關して認識できる。③ 具体的な問題解決に必要な商法の仕組みと解釈方法を修得できる。	○	◎	○
領域科目群	経済政策入門	2年生	後	本講義では、経済政策に関わる諸問題を理解するうえで必要となる経済政策のミクロ的基礎やマクロ的基礎について学ぶ。その上で経済問題が生じる原因を理解し、それらを解決するための政策のあり方や問題点を解説し、政策の効果および有効性を検討する。これらのことにより、日本経済が直面している諸課題や現状を理解し、社会の現実的な課題に対して問題意識を持ち、それらを専門的な知識に基づいて考察できるようになる。本講義では、財政政策や金融政策を柱とするマクロ経済政策について取り上げる。	① 経済学や経済政策に興味・関心を持つことができる。② 経済学の基礎理論、経済学の基本的な考え方、経済政策のミクロ的基礎やマクロ的基礎について理解できる。③ 経済政策の役割を理解し、それらの効果や有効性を把握することで、現実の経済で生じる問題を体系的に考察することができるようになる。	◎	○	○
領域科目群	環境経済学入門	2年生	後	本講義では、環境保全と経済活動の密接な関係や様々な環境問題を分析するために必要とされる経済学的手法を学ぶ。環境経済学の課題を幅広く理解し、実践に活かせる問題解決能力を養う。私たちの生活と環境問題との関わりを考察しながら、環境問題が発生する原因とメカニズムを理解し、環境問題を解決するための基本的な考え方や環境政策手段についての基礎理論を学ぶ。具体的な環境政策の方向性や課題を明らかにし、さらに環境が持つ価値を経済的に評価する手法や適用事例を学ぶ。	① 環境と経済の關係について、環境問題が社会・経済に及ぼす影響を説明できる。② 環境保全のための経済的手法や専門的知識を習得し、応用できる。③ 環境問題への関心を高め、経済学の応用を通じて環境問題の現状や環境政策の意義・役割について理解を深め、環境問題を解決するための対策を自分なりに提示することができる。	◎	○	○
領域科目群	財政学	2年生	後	当講義では、租税と社会保障に焦点を当て、各制度の内容と経済効果を解説し、財政の資源配分機能と所得再分配機能を学ぶ。理論の解説に際しては、ミクロ経済学の考え方を応用する一方、経済効果については図を用いた説明を基本とする。なお、「財政学入門」では、マクロ経済学の考え方も応用して、予算制度を中心に政府の経済活動を国民経済的見地から考察するのに対して、当講義「財政学」ではミクロ経済学の考え方を応用して、税制の経済効果の考察を行う。また、「租税制度」が各種租税の実際の制度内容を理解することを重視するのに対して、当講義では経済効果などの理論的な理解を重視する。受講者の意欲・熱意が何よりも求められる。	・新聞等で報道されている日本の税制と社会保障について、客観的に事実を整理することができる。 ・問題の所在や解決に向けた論点を自分の言葉で説明できる。	◎	○	

領域科目群	民法(債権)	2年生	後	民法は私たちの日常生活に密接に関係する基本的な法律です。この授業では、民法の5つの編のうち、第3編「債権」について学びます。「他人に対して特定の行為を請求できる権利(債権)」を学ぶことで、法律知識を身につけると同時に、身の回りの問題について法的観点から自分の頭で考えることができることを目指します。そのために、以下の方法で行います。・債権に関する基本的な知識を、条文を参照しながら説明する。・債権について、具体例を挙げながら説明する。	①様々な債権について具体的な内容を説明することができる。②債権分野に関する基本的な法律用語を説明することができる。③債権が私たちの生活にどのように関わっているのかを説明することができる。④身の回りの問題を法的に捉え、自分の頭で考えることができる。	○	◎	○
領域科目群	上級簿記	2年生	後	工業簿記は、材料を仕入れ、機械などを利用して加工し、製品を作り販売する製造業で用いられる簿記である。これらを複式簿記の原理に基づいて知識と技術を詳しく説明し、記録・計算をする。前半では、実際原価計算における費目別計算及び部門別計算について、その内容と考え方を説明する。これによって、原価計算の計算段階に関する知識を修得する。後半では、実際原価計算における製造別計算及び標準原価計算について説明する。これによって、原価管理ができ、原価計算制度に関する知識を修得する。	1. 原価計算の目的と原価計算制度の分類について、説明することができる。2. 実際原価計算の手続きについて、具体的に述べるができる。3. 財務諸表について、正確に作成することができる。4. 標準原価の算定について、正確に行うことができる。5. 原価差異の算定および分析について、説明することができる。6. 日商簿記検定2級工業簿記の出題範囲とその内容を網羅しており、それらについて解答できる。	◎	○	○
領域科目群	産業組織論入門	2年生	後	産業組織論はミクロ経済学の応用分野の一つであり、産業・市場構造、消費者行動や企業行動の分析に焦点を当て、経済理論を用いて企業の戦略的行動、政府の競争政策などを説明しようとするものである。本講義では、市場構造の変化が経済厚生にどのような影響を与えるか、企業戦略が経済厚生に及ぼす影響などを考察する。ここでは、ミクロ経済学の基礎概念を学ぶことにより、特にゲーム理論の手法を用いて現実の社会・経済現象をどのように説明できるのかについて解説する。完全競争市場、独占市場と寡占市場の理論の基礎を解説し、垂直的統合、カルテル、合併・買収などに関するトピックスについても取り上げる。	① 産業組織論の基礎的な考え方を理解できる。② 企業の行動、企業間競争を経済学的に考えることができる。③ 不完全競争(独占、寡占)の理論について説明できる。④ 独占や寡占による弊害やその解決策を議論できる。	○	◎	○
領域科目群	経済統計	2年生	後	経済統計データを活用する場合、誰がどのような目的で、どのような調査方法で収集、整理されたものか、対象であるデータの性質を的確に理解し、経済分析に利用しなければならない。しかし、そのためにはまず中央値や平均値や標準偏差などを基にした基礎知識を持っていることが望まれる。その上で、経済データの分析方法とその結果の意味するところを理解することが重要である。統計学の内容を習得していることを前提として、電卓を使って経済統計に基づく分析方法・結果の解釈等を体得するための講義を行なう。	・統計的な見方、考え方を会得できる。・統計を使った文章を見て、どこに問題があるか理解できる。	◎	○	
領域科目群	経済学史	2年生	後	経済社会を運営するには様々なやり方があることを学ぶ。第一に考えるべきは、自由なのか、平等なのか。どんな社会を作り、どんな原理で経済が運営されれば、人々は幸福になれるのか。経済の根本思想について学ぶ。	代表的な経済思想の特徴を説明できる。また、その思想がどんな時代状況から生まれてきたのか、説明できる。	◎	○	○
領域科目群	公共経済学入門	2年生	後	本講義では、市場メカニズムの機能とその限界、政府の経済的役割などについて体系的に学ぶ。市場の機能と市場の失敗を踏まえたうえで、市場の失敗を是正するため、市場に対して政府がどのように介入すべきなのかを考察する。また、政府の経済活動が家計や企業の経済活動にどのような影響を与えるのか、具体的な事例を挙げて説明する。さらに、公共財や公共支出の評価、及び規制や課税の経済的効果などについて学ぶ。なお、プリント(ユニバで配布予定)とOHCを利用して講義を進める。	①公共経済学の基礎理論やその応用方法を理解し、説明することができる。②現実の経済問題について自分なりの解決策を提示できる問題解決能力を身につける。③専門用語を正しく理解した上で、専門用語を実践的な分析に活用できる。	◎	○	
領域科目群	経営史	2年生	後	現代社会において重要な位置を占めている会社は、資本主義経済のもとで営利目的をもって生産活動を行う組織体ととらえることができる。本講ではこうした会社が歴史的にどのように形成されてきたのかを概観する。現代企業の代表的存在である株式会社が制度として成立・発展するプロセスをふりかえり、その歴史的意義について考える。	株式会社の特徴と歴史的な形成過程について、説明することができる。	◎	○	
領域科目群	北九州の自然と環境	2年生	後	北九州市およびその周辺都市で形成される地域は、人口約200万人を抱える北九州都市圏である。また、北九州市には公害を克服した洞海湾があり、多様な自然がエコタウンや北九州空港などの産業をバランスよく配置された地域である。これらの特徴を学び、理解することで、地域の循環システムやそれに基づいた豊かな自然環境の重要性とそれらを保全することの大切さについて説明する。	1. 北九州の多様な自然について理解し、具体的にその説明ができる。2. 北九州市の環境に対する取り組みを理解し、具体的な事例について説明ができる。3. 地域の自然環境とその保全の必要性を理解し、その手法について説明ができる。	◎	○	○

領域 科目 群	公共マネジメント論	2年生	後	現代社会には、様々な社会問題、環境問題が顕在している。それらの問題を取り除く手法は行政依存から脱し、地域を構成する様々な主体が協働し、経営やまちづくりに新しい付加価値をつけたり、時代に相応しい価値観を創出したりするデザインが必要である。この授業では、地域資源や人材を資産と考え、その資産を活用した産業振興や安全安心なまちづくりなど様々な具体的な取組事例や政策推進の手法としての「公共」について学ぶとともに、北九州市において、約20年に渡る市民参加型のまちづくりの実践を踏まえ、成果だけでなく困難な点なども紹介しながら経営やまちづくりに自らの関わり方を考える。	・経営やまちづくりにおいて、経済性や合理性だけでなく、地域性や将来性を考慮し、理論的かつ実践的に把握・理解する。・地域の現状を客観的に認識し、様々な課題に対し、地域の資産や人材を協働により解決しながら豊かな地域づくりに向けて取り組める人材に自らがなることを目指す。・特定の地域を設定し、その地域の課題を整理しながら成果を導く具体的な提案ができる。	○	◎	○
領域 科目 群	販売管理論	2年生	後	本講義は、「身の回りにある小売業を経営学の視点で学ぶ」をテーマに講義を行う。なお、本講義はパワーポイントを使用するため、履修者は講義が始まるまでにユニバーサルパスポートから講義資料を印刷し持参すること。※履修者の数に応じて、講義の進め方や課題方法などを変更することがある。	本講義は、上記テーマより経営学の基本知識及び小売業の実態を理解することを目的とする。具体的には、経営学の理論に加え、新聞・雑誌の記事、場合によっては映像資料を活用することで、小売業及び店舗経営についての理解を深める。授業の理解度は、課題の提出(レポートと宿題)と試験で評価する。▶宿題は、時事問題から出題する。▶課題レポートは10月から12月の間に月1回の頻度で実施。※履修者の7割が、テストと課題の合計点数が及第点(合格ライン)に達しない場合、授業中に配布するミニッツペーパーの内容(平常点)を加点する。	◎	○	○
領域 科目 群	ビジネスとICT	2年生	後	高度情報化社会における社会人が修得しておくべきICT(情報通信技術)活用技能に焦点をあて、講義、演習を通じて知識の理解と技術の修得を図る。・インターネットの各種脅威を知り、情報資産を守るための対策について理解する。・Microsoft Wordの機能を活用した、見栄えのよい文書を作成方法を修得する。・Microsoft Excelの機能を活用した、各種表計算、データ処理方法を修得する。	・テキストを熟読し、主体的に課題に取り組む姿勢を身につける。・インターネットの脅威から情報資産を守るための対策を講じることができる。・Microsoft Windowsの基本操作をマスターする。・Microsoft Wordを使って各種文書を作成できる。・Microsoft Excelを使って、計算式や関数を組み合わせた表計算を行うことができる。・Microsoft Excelで作成した表やグラフをMicrosoft Wordに取り込むことができる。	◎	○	○
領域 科目 群	ビジネスとICT	2年生	後	本講義では、コンピュータの基本操作、Webによる情報検索、情報セキュリティ、ファイルシステム、ビジネスメールの基礎、Word、Excel、PowerPointなどの基本操作方法と活用方法を学び、Microsoft Officeを社会生活や学生生活に於ける研究活動等に利用していくための基礎知識を身につける。企業SEとしての経験を活かし、実務に近い演習を行う。	1.基本的なコンピュータの操作ができる。2.Webによる様々な情報検索ができる。3.ビジネスメールの送受信ができる。4.Wordを用いて、簡単なビジネス文書が作成できる。5.Wordを用いて、オリジナルPOP広告が作成できる。6.Excelを用いて、簡単なデータ分析表・グラフが作成できる。7.PowerPointを用いて、効果的なプレゼンテーションができる。	○	◎	○
領域 科目 群	ビジネスとICT	2年生	後	本講義では様々なビジネス(実務)場面での活用を想定した情報通信技術(ICT)活用の手法を学ぶ。スモールビジネスを立ち上げて収益を上げるまでを仮想的に体験するなどの課題設定で、実践的な演習を行う。必要なスタ管理を行いつつ①情報収集、②情報整理、③企画、決定、④情報発信、⑤効果の測定、⑥行動修正、といったサイクルでの課題解決を求める。また、これら課題解決に必要なPC技能(ワープロ、表計算ソフトなど)の演習を行う。	1. 他人の権利、自分の権利、どちらも尊重した上でICTを活用できる。2. ICTを活用して必要な情報の収集・整理を行うことができる。3. ビジネスに有用な意思決定・分析の手法を活用できる。4. グループワークにおいて適切な意思疎通の手法を活用できる。※受講人数が少ないクラスではグループワークを実施しない場合がある。5. ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンソフトの操作に習熟することができる。	○	◎	○
領域 科目 群	ビジネスとICT	2年生	後	本講義では、ICTの歴史や技術要素についてやコンピュータの基本操作、Webによる情報検索、Excel、PowerPointなどの基本操作方法と活用方法を学び、社会生活や学生生活に於ける研究活動等に利用していくための基礎知識を身につける。また、プレゼンにおける資料のデザインや発表の態度なども身につける。	Webから効率的に情報収集できるとともに、注意すべき事項を理解できる。Excelを使って、計算式や関数を組み合わせた表計算を行うことができる。Excelを使って、適切な表やグラフを作成することができる。PowerPointを使って、適切な資料を作成することができる。	○	◎	○
領域 科目 群	ビジネスのデザイン	2年生	後	本講義では、日本や世界におけるビジネスのデザインに注目していく。各業界の産業構造や主力商品などを中心に、どのような商品が主流かなどについても着目する。また、他国や他地域のビジネスを理解するうえで必要な言語や文化などの理解(異文化理解、異分野理解)にも注力する。講義を通じて、自分自身が興味を持つ分野についてのビジネスモデルをイメージできるようにヒントを模索する。	①:日本や世界の産業構造がどのようになっているかを説明できる。②:ビジネスの前提となる異文化理解、異分野理解について説明できる。③:自分の興味分野のビジネスデザインについて述べる事ができる。④:具体的なビジネスモデルをイメージできる。	○	◎	○
領域 科目 群	スポーツビジネス	2年生	後	スポーツビジネスでは、実際のプロスポーツ球団の運営について学んでいきます。福岡ソフトバンクホークス、アビスパ福岡、ギラヴァンツ北九州、ライジング福岡等の在籍のプロ球団とは、ホーム戦におけるイベント企画でコラボレーションしたり、ファンクラブ増員企画を提案したりした経験を持つ教員が、今年度はまた新しいプロ球団とのネットワークを構築していきます。フットサルやバレーボール、卓球等のプロリーグに加盟している地元の球団について調べていきましょう。また、球団に対する企画書を作成して実際に提案することを目標とします。	(1)日本のプロスポーツリーグについて概要を説明できる。(2)福岡県内に存在するプロスポーツ球団について少し詳しく説明できる。(3)それぞれの球団が抱える課題を抽出できる。(4)その課題を解決できる(かもしれない)企画を立案できる。(5)企画書を作成して球団に提案できる。	○	◎	○

領域 科目 群	スポーツコーチング	2年生	後	新たな時代のスポーツのコーチングは、単に専門的な技術を教えるだけにとどまらず、人間としての態度や行動などが幅広く求められている。本講義では、日本スポーツ少年団の指導者育成の講師、中学校部活動や障害の有無にかかわらず子どもから高齢者までのスポーツ指導に携わってきた経験を活かした授業を展開する。さらには、スポーツの意義や価値、社会に求められている背景と役割等を学びながら、スポーツコーチングの基本について理解を深めていく。	①スポーツコーチングとは何か理解する。②コーチとして態度や行動がどうあるべきかを理解する。③実施の現場で、より良いコーチングができることを目指す。	○	◎	○
領域 科目 群	スポーツビジネス実践	2年生	後	本授業では、実際のプロスポーツ球団が抱えている課題について、学生ならではの感性で考えていきます。私は例えばリーグに関しては、選手の指導や育成、ホーム戦への集客イベント等を過去に何度も経験しており、それらのことを通じて直接球団中枢の役員とも具体的に話ができる人脈を有しています。そこで皆さんには、1)スポンサー獲得、2)チケット販売企画、3)PR企画(SNS活用)、4)+α(ゲーム外イベント)企画、5)その他のジャンルより1つ選んで、自分なりの企画を練ってもらいます。完成した企画については、授業内で球団関係者を含む学外の方を招いてプレゼンしてもらいます(必須)。	(1)球団のステークホルダーについて概説できる。(2)プロ球団の経営改善に貢献できる企画立案にチャレンジできる。(3)企画をプレゼン資料にまとめることができる。(4)自分の企画を上手にプレゼンテーションできる。	○	◎	
領域 科目 群	ビジネス実務総論B	2年生	後	本講義では、ビジネスパーソンとして必要な資質や役割を理解し、ビジネスの現場で行動・活躍できる人材の育成を目標とする。ビジネス社会における実務、そのマネジメント、ビジネス社会を取り巻く環境、企業組織、ビジネスパーソンのキャリアなどについて理解を深め、ビジネス実務の基本から応用に至るまで、幅広く修得することを目的とする。	・ビジネスパーソンとしての役割を理解し、ふさわしい立ち居振る舞いができる。 ・ビジネス実務を通して、自分の意見をエピソードを交えて発表することができる。 ・ビジネス実務を通して、チームの中でお互いに教え合うことができる。 ・ビジネス実務を通して得た思想を自分の人生に活かすことができる。	○	◎	○
領域 科目 群	ビジネス実務総論B	2年生	後	本講義では、ビジネス全般に対する見識を深めることを目標とする。ビジネスに対する見識を深めることにより、他者に対しての説得力を持った説明を行うことができるようになる。ビジネスモデルやビジネスプランを検討することで、ビジネスにおいての未来に向けた戦略や考え方について、説得力を持ったプレゼンテーション、発表ができることを目指す。「ビジネス」という視点から世の中を学び、視野を広げることで、今後の人生をより豊かなものにする。	①:身近なビジネスの具体的事例について、説得力を持った説明ができるようになる。②:日常生活について視野を広く持てるようになる。③:自分の興味分野について、ビジネスという視点から捉えられるようになる。	○	◎	○
領域 科目 群	金融論	3年生	前	・金融論の基礎を学ぶ。ミクロ経済学・マクロ経済学の理論を下敷きにして、金融システム、参加主体の行動、金融規制や政策の仕組みを理解します。 ・金融論を「お金について学ぶ」と認識することは間違いではありませんが、表面的です。より踏み込むならば、「お金を融通することの経済機能(お金の貸し借りがどの様な経済的効果・効用があるのか?)を分析することが大切です。 ・教員のコンサルティング会社およびデータ分析会社での経験を基に、授業にロジカル・シンキングの視点を取り入れます。	・金融の基本機能のほか、企業や家計の金融資産選択などの金融行動の理論を習得できる。また、金融や金融商品、金融市場についての基本的な知識(金融リテラシー)の習得を目指す。	○	◎	○
領域 科目 群	西洋経済史	3年生	前	・本授業科目は講義形式(対面授業)で実施する(ただし、状況次第で変更もありうる)。 ・教科書を使用し、その内容・順序に沿って授業を進める。毎回の授業では、「授業レジュメ」を使用する。 ・本授業科目の目的は、ヨーロッパ世界がいかなる経緯で形成されたのか、を知ることにある。現在に続くヨーロッパ世界の出発点は中世にあり、古代世界(ギリシア・ローマ世界)が没落した結果、それとは大きく異なる原理をもつヨーロッパ世界が誕生した。本授業科目では、古代世界没落の要因を探るとともに、中世世界の形成過程及びその特質を考察する。以上の内容を、社会・経済的視点から分析する。	(1)ヨーロッパ世界の形成過程を知ることによって、現在のヨーロッパ世界の特質を理解することができる。(知識・技能) (2)日本とヨーロッパの歴史を比較することで、日本の社会・経済を相対的に見る視座を身に付けることができる。(主体性・協働性・倫理性) (3)高校(地歴・公民)・中学(社会)の教職を志望する場合、必要な専門知識を習得することができる。(知識・技能)	◎		○
領域 科目 群	地域経済論	3年生	前	本科目は、「広義の地域経済学」の入門程度の内容を扱う。ここでいう「広義の地域経済学」は、およそ「狭義の地域経済学」と「都市経済学」から構成される。このうち、「狭義の地域経済学」は、地域の経済構造や経済成長を分析しつつ、地域の経済問題(地域間経済格差など)に対する政策を論じようとする、主に第二次世界大戦後に発展した経済学の一分野である。他方、「都市経済学」は、対象とする地域を都市に絞って、都市の空間的経済構造、すなわち種々の経済活動の土地利用構造の経済学的分析を中心として、土地利用と関連して生じる都市問題を解明し政策の在り方を論じようとするものである。	①まず本科目でいう「地域」とは何を指すのかを理解できる。②日本の地域構造の特徴を理解し、その概要を説明できる。③日本の地域別の産業構造の特徴を理解し、自分の言葉で述べることができる。④日本の地域間の経済格差を理解し、なぜそういった格差が生み出されたのかを自分の言葉で述べることができる。⑤日本の地域問題に対する国(中央政府)の果たしてきた、もしくは果たすべき役割を理解したうえで、客観的な論評を行うことができる。	◎	○	○

領域 科目 群	経済政策	3年生	前	本講義では、日本経済の現状について説明し、現在の日本が抱える社会課題を解説する。私たちの身近にある問題を通して、政府の果たす役割や課題について考察し、経済政策の効果および有効性を検討する。日本の産業政策の特徴とその変化、そして経済発展への影響について説明し、経済安定化のための財政政策や金融政策の効果について解説する。さらに、貿易政策、社会保障政策、農業政策、地域政策、地球温暖化対策、開発援助政策についても取り上げる。	①日本経済の現状と政策課題、経済政策の意義を理解できる。②経済政策の役割を理解し、それらの効果や有効性を把握することで、現実の経済で生じる問題を体系的に考察することができるようになる。③様々な社会問題の影響を踏まえた経済政策のあり方や政府の役割について自分なりの考えを示すことができるようになる。	○	◎	○
領域 科目 群	環境経済学	3年生	前	本講義では環境問題について経済学の観点からどのようにアプローチできるのかを学ぶ。私たちの日常生活と環境問題がどのように関わるのかを理解し、実際にどのような環境保全への取り組みを行っているのかを明らかにする。環境政策分析のための基礎理論や経済的手法の特徴と有効性を考察し、さらに環境問題について消費者や企業の視点から取り上げる。具体的な環境保全に向けた対策として、廃棄物政策や地球温暖化対策およびエネルギー政策などに焦点を当てる。	①環境問題と経済活動との関係や政策手段について学び、経済学的な思考力や分析手法を身につけることができる。②環境問題について高い関心を持ち、専門的な知識と理解を深めることができる。③現実の環境問題について習得した学習内容を発展・応用し、自分なりの解決策を提示することができる。	○	◎	○
領域 科目 群	公共経済学	3年生	前	現在、日本は少子高齢化や巨額の財政赤字といった様々な問題を抱えている。本講義では、市場経済において政府や地方自治体などの公共部門がどのような役割を持つのか、経済学的視点から学ぶ。政府のマクロ経済政策の課題とあり方について解説し、財政赤字問題や公的年金制度の現状などを取り上げる。また、それらを経済循環として表現する方法にも焦点を当てた上で、財政政策の効果や分析手法を学ぶ。なお、プリント(ユニバで配布予定)とOHCを利用して講義を進めます。	①公共経済学の理論的基礎を学び、日本経済の抱える問題に対して自分なりの考えを持つことができる。②公共政策の現状と課題について具体的に説明できる。③様々な政策課題に対して問題意識を持ち、その解決策を提案できる。	◎	○	
領域 科目 群	租税制度	3年生	前	当講義では、日本の税制について、税目ごとの拠り所となる考え方、基本的な機能と具体的な算出の仕組み、最新の制度改正の内容、諸外国との差異と共通点などについて学ぶ。また、関連科目である「財政学」とは共通の項目も取り扱うが、「財政学」ではミクロ経済学の考え方を応用した租税の経済効果の考察に重きを置くのに対して、当講義「租税制度」においては、各種租税の実際の制度内容について理解することを重視する。受講者の意欲・熱意が何よりも求められる。	・わが国の租税制度の内容や課題に関する新聞記事を理解できる。・当該記事の論点を整理するのに必要な見識を習得している。	◎	○	
領域 科目 群	スポーツマネジメント	3年生	前	本講義では、文部科学省が推進する総合型地域スポーツクラブの設立・運営に、地方自治体担当者、同事業に取り組むNPO法人代表としてかかわった経験を活かした授業を展開する。授業では、今後の日本スポーツを支える「地域スポーツ」のマネジメントを中心に基本的なスポーツマネジメントを学んでいく。また、地域スポーツの現場に携わる人々が直面した問題をわかりやすく解説し、『指定管理者制度』『管理業務委託』など地方自治体と他のビジネスとの共通点や相違点等を見極めつつ、組織での問題解決の応用力も身に付けていく。	・授業に臨む真剣な姿勢を具体的な行動で示すことができる。・自分の考えを持ち、人前で発表できる。・他者の考えを興味を持って真剣に聞くことができる。・重要事項をメモに残す習慣を身に付けて実践することができる。・情報化社会に対応できる基礎力を高めることができる。	○	◎	○
領域 科目 群	スポーツ施設管理	3年生	前	(公財)日本スポーツ施設協会認定のスポーツ施設管理士の資格取得を目指した講義を行う。協会の刊行する「公認体育施設管理士教本」をテキストとして用いる。味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザでの勤務経験をベースに、テキスト内容の基礎を学びながら、実際の現場での施設管理のポイントについて実例を挙げながら解説する。資格の取得だけでなく、スポーツ関連企業への就職や、公務員としてスポーツ関連部門で働く際も有益な内容を取得できることを目指す。	・スポーツ施設についての基礎的な知識を身に付けることができる。・施設の維持管理・運営についての総合的な知識が習得できる。・スポーツビジネスを支えるスポーツ施設について視野が深まる。・検定試験に合格することで体育施設管理士の資格を取得できる。	○	○	◎
領域 科目 群	近代日本経済史	3年生	前	この授業では、幕末期から第二次世界大戦後の高度経済成長期における、日本経済の歴史的展開を対象として講義します。日本は欧米列強の圧力により幕末に開港し、世界資本主義の一環に加わりました。ほどなく明治維新を迎え、欧米の制度や技術を取り入れ、殖産興業や産業革命を通じ、それまで在来的な産業が中心だった産業構造の近代化を図りました。その後日本は重化学工業化、戦時・戦後復興を経て、高度経済成長を迎えます。この講義ではそうした見通しのもと、幕末開港から高度経済成長の時期を対象に、近代日本経済の発展を学びます。	近代日本経済史を学ぶことにより、欧米列強中心の世界経済、国際政治において、日本が自国の力で経済発展を成し遂げたことを説明できます。それにより、外国で活動する時、あるいは外国人に日本を説明する際に必要な基本的知識を付けることができます。また、現代における情報社会の前提としての、財やサービスの世界的な広がりや端緒を、日本を事例に知ることができます。これにより、私たちが人類史においてどの地点にいるのかを探ることができます。さらに、この授業を通じて、北九州市がかつて四大工業地帯の一角であり、その成り立ちと発展を具体的に知ることができます。	◎	○	○
領域 科目 群	東洋経済史	3年生	前	本講座では、日本、韓国、中国、アジアニーズ4か国・地域、アセアン4か国を東アジアと定義し、東アジア地域の発展段階において、世界経済と日本経済の影響を受けながら変化してきた歩みを学ぶとともに、東アジア諸国経済の特徴、日本経済との相互依存関係の実態及びその背景を確認する。	・世界情勢と日本経済の影響を受けながら東アジア地域の経済が形成されてきた成長の歩み・背景・要因を理解することができる。・東アジア地域の歴史的なアプローチによる理解及び専門的な知識を通じて、近年の経済実態と問題点及び課題を把握することができる。・近年の東アジア諸地域の経済動向と世界経済との相互関係を理解し、今後の行方を推論することができる。	◎	○	

領域 科目群	行政法(作用法・組織法)	3年生	前	わが国の法律の大半を占める行政法の基礎ともいえる行政作用法を中心に学びます。1・2、7～15回は行政法の基本原理や行政作用法(行政活動をどのように法律でコントロールしていくのか)、3～6回は行政組織論(国や地方公共団体の行政はどのようなしくみになっているのか)、について解説していきます。担当教員は、これまで地方公共団体の行政委員会や審議会の専門委員を務めた経験があり、行政運営に関わってきた実務経験を交えながら講義を進めます。基本的な条文解釈・判例評釈・学説を積極的に理解し、基礎知識を事例に当てはめながら、論理的に考え答えを導くことのできる能力の習得を目指します。教科書を必ず持参してください。	①行政を身近な存在として理解できるようになると共に、内閣や地方公共団体の首長や議会の運営実態をより深く理解することを目標とする。②行政処分や行政上の強制手段といった権力的行政活動のみならず、行政契約・行政計画・行政指導のような非権力的行政活動をも理解し、行政活動の領域が拡大するとともに、行政法による適切なコントロールの手法についても、事例を通じて理解し自ら判断できるようになることを目標とする。③現代行政国家において、国民・住民と行政との法的関係について、広い視野をもって理解・判断できるようになることを目標とする。		◎	○	
領域 科目群	労働と法	3年生	後	大学を卒業して社会に出ると、何十年も働いてことになるが、その際、必ず身につけておかねばならない「雇用の基本ルール」を学習する。アルバイトを含め「雇われて働く」際には、労働契約を結ぶが、雇い主と雇われる労働者の間には、隔絶した力の差があるから、全て本人任せにすると、契約の内容＝労働条件は、労働者に一方的に不利なものになってしまうだろう。そこで、「雇用の最低条件」を保障する仕組みが必要になるが、これを担っているのが、労働基準法を中心とした労働法である。授業では、現行ルールの大きな枠組みと、主要な判例法理を学ぶが、それだけではなく、背後にある我が国の「働き方」の問題点についても考えていく。	1. 雇用の基本ルールを、条文に則して、説明できる。2. どのような紛争が雇用の現場で生じ、それに対して裁判例はどのような処理をしているか、レポートにまとめることができる。3. 労働法令と判例法理の理解を通じて、現在、どのような労働政策がとられているか、今後どうすべきか、意見を述べるができる。		○	◎	○
領域 科目群	環境科学	3年生	前	環境とは何か?地球の循環システムはどのようなメカニズムで機能しているか?様々な学問分野がどのような視点でアプローチしようとしているかについて説明する。地球の循環システムとしての環境と人間や社会との関わりを中心に理解できることを目指し、人間社会に関する基礎的事項である生活圏・産業圏の環境、さらにこれらに関連する法規、自然災害が人間社会に及ぼすリスクについて学ぶ。	1. 環境と人間社会との関わりについて理解し、説明できる。2. 生活圏・産業圏を起源とする環境要因と関連する法規について説明できる。3. 環境に関連する社会的事象について説明できる。		○	◎	○
領域 科目群	民法(親族・相続)	3年生	前	この講義では、民法のうち夫婦・親子・相続等家族関係を規律する「親族・相続」について、基本的事項および重要判例を中心に授業を行います。私たちの家族に関する出来事が、民法においてどのように規定されているかを具体的な事例を通して、また、税理士としての実務経験を活かして実践的視点からも解説を行います。なお、当該科目は、公務員試験等において出題されることが多い科目です。したがって、公務員(行政職等)を目指す学生は履修をおすすめします。	本講義は、民法(親族・相続)に関連する基本的知識の修得と今日の課題に対する考察力を養うことを目標とします。具体的には次の通りです。①民法(親族・相続)の基本的仕組みを理解できる。②民法(親族・相続)の基本的問題に関して認識できる。③具体的な問題解決に必要な民法(親族・相続)の仕組みと解釈方法を修得できる。		○	◎	○
領域 科目群	地方自治体の財政	3年生	前	科目名「地方自治体の財政」は本学固有の呼称であり、学問分野としては「地方財政論」に対応する。主な考察対象は、個別の都道府県及び市町村に共通して適用される予算制度、実際の歳入と歳出、国と地方(全都道府県及び全市町村の集合概念)の役割分担、国から地方への財源移転である。これらにかかわる諸制度の総称が地方財政制度であり、具体的な内容と住民の生活を支えるうえで果たしている役割を理解することに重きをおく。なお、当講義では幅広く総論的に地方財政を解説するのに対して、後期に開講する「地方公共団体の財政健全化」では健全な財政運営を維持・促進するための仕組みと福岡県と県内60市町村の最新の財政状況に焦点を当てる。	・国との関係に注意を払いながら、地方財政を支える地方財政計画、地方税体系、地方交付税制度について、自分の言葉で説明できる。・新聞等で報道されている地方財政問題について、特に重要なことは何であるか、論点を絞り込むことができる。・上記の問題が何に起因しているのか、解決に向けて何が求められるのかを説明することができる。		○	◎	○
領域 科目群	日本経営史	3年生	前	現代の日本企業は、大きな変動期を迎えている。今後の日本経済や企業経営を考えるとき、歴史をふりかえってみることが今ほど必要な時期はないといえよう。本講義では、日本における企業経営の形成と発展の過程を、資本主義経済とのかかわりで検討する。その際、経営環境としての社会経済の状況をふまえて、日本的な企業経営の形成を歴史的な視点から考察することにした。ここでは、近世から近代の時期に焦点をあてる。	日本における企業(株式会社)の歴史的な形成過程について、説明することができる。		◎	○	
領域 科目群	管理会計論	3年生	前	現代の管理会計の技法と実務について理解する。前半では管理会計の基礎について説明する。これによって、管理会計に関する総論的な知識を得ることができる。後半では、経営計画とコントロール、経営意思決定のための会計について説明する。これによって、管理会計に関する各論的な知識を得ることができる。	1. 管理会計の必要性について、説明することができる。2. 管理会計のフレームワークについて、具体的に述べるができる。3. 管理会計の技法について、列挙・使用することができる。4. 管理会計の技法について、経営戦略の策定に関係づけることができる。5. 管理会計の技法について、マネジメント・コントロールに関係づけることができる。		○	◎	○

領域 科目 群	流通管理論	3年生	前	私たちが商品を購入するまでには、様々なモノや人が関わり、色々な段階での売買取引を経て流通し、私たちの手元に届いています。本講義では、流通政策の概念や形成メカニズムについての基礎的な説明をしたうえで、日本における流通政策の特徴とその意義を中心に学び、国による流通政策の違いとその背景を明確に理解することを目指します。	・流通政策に関する基礎的な知識を身に付け、流通に関する重要な用語とその内容について理解することができる。・流通政策が必要になった社会的背景と政策意義について理論的に説明することができる。	◎	○	○
領域 科目 群	ビジネスコーチング	3年生	前	・コーチング研修を企業等で行っている経験を活かし、実務に近い演習も行う。・企業経営者として、人材育成の実践経験を踏まえ、実例をあげながら授業を行う。・コーチ資格(CPCC)保持者として、高いクオリティのコーチング実演を行う。	・コーチングの基本的な概念を理解できる。・コーチングの基本的なスキルを使えるようになる。・コーチングを活かしたチーム運営ができるようになる。	○	◎	○
領域 科目 群	経営者論	3年生	後	企業経営をよりよく理解するために、実際に企業を経営している方や事業を行っている方の体験談を聞くことはきわめて有益である。本講義では、第一線で活躍されている経営者の方が講師となり、どのような経緯で経営者となったのか(自分史)、経営理念、経営者として必要なことなどを学ぶ。統括教員および講師による各回の講義は、集中講義形式で行われる(土曜日2～4限を予定)。	1. 企業経営の最前線を知ることができる。2. 経営者としてどのような素養が必要であるかを知ることができる。3. いわゆる「経営力」とは何かについて理解することができる。		◎	○
領域 科目 群	経営戦略論	3年生	前	「経営戦略」は、企業組織が自身を取り巻く環境状況(の変化)に適応しながら「長期的な生存および成長」を実現するための「指針」あるいは「選択」を意味します。本講義では、企業(グループ)全体の存続と成長の指針となる「全社戦略」、また個別事業レベルにおける競合他社に勝つ方法を扱う「競争戦略」、また近年注目を集めている「利益獲得の方程式」としての「ビジネスモデル」の問題等を取り上げ、現実の企業行動事例をできる限り豊富に交えながら、「優れた戦略」とは何か(その条件)、またそれを生み出すための方法や考え方(理論)について解説していきます。	・経営戦略領域における基本学説の目的と内容、それぞれの長所/短所について説明できる。・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動の諸事例について、その理由・ポイントを説明することができる。・マネジメント検定試験(初級:大学生修得レベル)における「経営戦略」分野の必要知識のうち70%を習得することができる。	◎	○	
領域 科目 群	マーケティング論	3年生	前	商品を作るだけではなく、消費者に買ってもらうなければ意味がありません。マーケティングとは、簡単に説明すると商品を売るための作戦・仕組みづくりを考えることです。本講義では、マーケティングにおける基礎概念を中心に説明し、マーケティングの意義、代表的なマーケティング戦略手法について事例を通して学んでいきます。	・マーケティングに関する基礎的な用語の意味を理解し、自分の言葉で説明することができる。・市場における競争優位実現のためのマーケティング戦略の意義について理論的に説明することができる。	◎	○	○
領域 科目 群	経営組織論	3年生	後	本講義では、現代社会を支える重要な基盤としての(企業)「組織」について、その基本論理(主要学説)について解説するとともに、現代(日本)企業が直面する組織の諸問題について考えていきます。具体的な内容として、モチベーションとリーダーシップ、組織的意思決定等を基本とする「ミクロ的組織課題」から、多様な組織構造のデザイン(職能部門制、事業部制等の組織構造の基本型から持株会社制やネットワーク組織まで)とその進化について考える「マクロ的組織課題」まで幅広く取り上げて解説していきます。また、学習成果を活かす場としてのチーム演習型の授業回(所定のテーマに関するチーム討議)等の機会も設定しています。	・習得した組織理論(モチベーション、リーダーシップ、組織デザイン等)を用いて身近な問題解決に貢献したり、新聞・雑誌等に掲載された企業事例についてその理由・ポイント説明できるようになる。・マネジメント検定試験(初級:大学生修得レベル)の「経営組織」領域に関する知識の70%程度を習得することができる。・グループ・ディスカッションなどの方法を学び、それを効果的に実践することができる(状況により変更の可能性あり)。	◎	○	○
領域 科目 群	スポーツビジネスインター シップ	3年生	前	スポーツアドバイザー及びスポーツビジネス関連会社の経営者としての経験や人脈を生かした演習型の授業です。プロスポーツ球団(ギラヴァンズ北九州)経営における実務体験を含む内容をメインとしてプログラムが構成されています。Jリーグ関連の最新情報に触れることができ、球団運営に関する研修プログラムを体験することで、「自分が」球団職員の一員として責任ある業務を果たすだけの能力を持っているかについても判断することができます。実際に、本授業を履修してJリーグ球団に就職した卒業生も複数います。ただし、現場実習(学外)がメインとなりますので、必ず出席してください。【担当:森部、下田】	(1)報告・連絡・相談・確認・準備・指示等のビジネス実務能力を身につけることができる。(2)状況を判断しながら質問したり、議論したりすることができる。(3)根拠を持って自分の意見を述べることができる。(4)与えられた課題や業務について遅滞なく適切に対処することができる。(5)イベントにおいて担当した業務の報告書をまとめて後輩にお手本を示すことができる。	◎	○	○
領域 科目 群	サービス実務総論	3年生	前	サービス業に従事する人材として、求められる資質・知識・接遇・接客マナーなどを理解し、実践的に活用できるおもてなし能力を育成する	・サービススタッフの心構えが理解できる。・サービススタッフの専門知識が理解できる。・サービススタッフの言葉遣いや立ち居振る舞いを学び、実践できる	○	◎	○
領域 科目 群	ビジネス実務演習A	3年生	前	本講義ではビジネスパーソンとして必要な資質や役割を理解し、ビジネスの現場で行動・活躍できる人材の育成を目標とする。ビジネスにおける実務、そのマネジメント、ビジネスを取り巻く環境、企業組織、ビジネスパーソンのキャリアなどについて理解を深め、ビジネス実務の基本から応用に至るまで幅広く習得することを目的とする。	・ビジネスパーソンとしてふさわしい立ち居振る舞いができる。・ビジネス実務の定義を説明できる。・ビジネスパーソンとしての仕事の仕方や役割を理解する。・ビジネスパーソンとしての話し方や聞き方を実践できる。・ビジネス実務を通して、自分の意見をエピソードを交えて発表することができる。・ビジネス実務を通して、チームの中でお互いに教え合うことができる。・ビジネス実務を通して得た思想を自分の人生に活かすことができる。	○	○	◎



領域科目群	ビジネス実務演習A	3年生	前	本講義では、ビジネス実務に関連したアウトプット(表現)の鍛錬を行う。アウトプット力の向上はビジネスパーソンとして有用なスキルとなる。身近な例を用いて、説得力のある表現ができるように、様々なテーマや話題を用いて、発表を行う。これまでの授業で学んできた概念を具体的な場面に適用できるようにすることを目標とする。	①:社会的事象をアウトプットに繋げられるような思考力が身に付く。②:今後のビジネスに繋がる戦略を組み立てられるようになる。③:プレゼンテーションを行うにあたり、pptの様々な表示の仕方が身に付く。④:プレゼンテーションに対し、積極的な姿勢で臨めるようになる。	○	○	◎
領域科目群	ビジネス法務	3年生	後	現代ビジネスのあらゆる場面で法令遵守(コンプライアンス)が求められています。本講義では、皆さんが社会に出て仕事に携わる場合に最低限必要とされる基本的な法的知識を身につけてもらい、企業やそこに従事する構成員としての従業員が守らなければならない法律の基本を習得していきます。社会・経済生活の具体的な場面において、法的な判断を適切に行えるようになることを目的としています。担当教員は、これまで金融機関や一般企業の取締役や執行役を務め、ビジネス法の実践の経験があり、講義中はそれらの内容にも言及していきます。指定テキストに沿って講義を進めていきますのでテキストを持参してください。	①職場で必要となる実践的な法律知識を説明できる。②ビジネスの実務と各法律の連携を説明できる。③経営や業務に必要な問題意識をもち実践できる。④法的トラブルを未然に回避する基礎能力を養うことができる。	○	◎	
領域科目群	国際金融論	3年生	後	グローバル化した今日の世界経済では、「モノ」「ヒト」「カネ」「情報」が、国境を越えて行き来している。その中でも、「カネ」すなわち資金の国際的な移動は、世界経済に大きな影響力を持っている。本講義の目的は、国際金融取引の基礎知識を学習して、国際化した社会に対応できる素養を身につけることである。本講義の内容は、外国為替レート、国際収支表の概要、貿易取引の実務、為替レートの決定要因、為替レート変動の影響、国際収支の決定要因などである。	本講義の到達目標は、①国際金融にかかわる報道や平易な内容の文献が理解できること、②社会人として国際金融にかかわる問題に直面したときに、自ら対応を考え、人と議論して解決を提示できるようになること、である。	◎	○	○
領域科目群	人的資源管理論	3年生	後	人的資源管理(Human Resource Management:HRM)は、経営資源である「ヒト」を対象にし、彼ら・彼女らが持つ能力を最大限に引き出すことで企業の利潤拡大に貢献する。本講義では基本的な理論に加え、新聞、雑誌の記事及び研究動向を取り上げることで、理論と実践を統合した複合的視点の構築を目指す。場合によっては映像資料(経済番組のオンデマンド配信や関連するyoutube動画を含む)を取り扱うこともある。講義はパワーポイントを使用する。講義資料は授業目日にLUNIPAに掲載するので、各自印刷し持参すること。※履修者の数に応じて、講義の進め方や課題方法などを変更することがある。	・人的資源管理の用語の意味を理解または説明できる・管理の歴史を理解する・日本企業の特長、環境要因及び人事制度について理解または説明できる・現代社会における働き方の変容を理解または説明できる上記の目標は中間・期末テスト及び課題(レポートと宿題)より評価する。▶レポートは10月から12月の間、月1度実施する。▶宿題は時事問題から出題する。(教員が必要と判断した場合)※履修者の7割が、テストと課題の合計点数が及第点(合格ライン)に達しない場合、授業中に配布するミニツペーパーの内容(平常点)を加算する。	◎	○	○
領域科目群	都市経済学	3年生	後	ミクロ経済学の基本的な概念を復習しつつ、その知識を用いながら、私たちの社会に存在する「都市」がなぜ存在し、どのように作り出され、そこではどんな問題が起こっているのかについて専門的に学んでいく講義である。	1.都市経済学の意義でもある「都市(あるいはその地域)だから生じる経済現象」について論理的に説明できる 2.得た知識をもとに皆さんが主体的に「あるべき街の理想像」や「様々な都市で発生する経済問題に対する解決策」について論じることができる	○	◎	○
領域科目群	社会保障論	3年生	後	社会保障は、様々なリスクに、個人単位ではなく社会全体で共同して備えるために用意されている公的なセーフティネットである。保育・医療・年金・介護など人生のどこかで必ず利用する非常に身近な存在である反面、対象とする範囲は広く、制度も複雑で、全体像を理解するのは容易ではない。そこで、この授業では、社会保障制度の趣旨と我が国の現行システムの全貌をつかみ、同時に、日本社会の成熟化に対応した「現代型社会保障」についても論じていく。	1. 各種の社会保障制度の概要を説明できるようになる。 2. 社会保障を実現する手段(社会保険方式と税方式、雇用者モデルと地域モデル、金銭給付と現物給付など)の利害得失について、説明できるようになる。 3. 現行制度の中で、時代や社会状況にマッチしていない部分を指摘し、今後、どのような設計にすればいいのか、レポートにまとめることができる。		◎	
領域科目群	国際経済学	3年生	前	2国2財1生産要素モデルを用いて、自由貿易が望ましいことを説明します。また、自由貿易が実現していない時には、その代替として直接投資が見られます。直接投資の特徴について説明します。	・国際経済関連のニュースに関心を持つことが出来るようになる。	◎	○	
領域科目群	税務会計論	3年生	後	実務家教員として金融機関に管理職含め約25年、税理士として15年(兼任)した経験を活かし理論と実践の融合した授業を展開する。本講義では、税務会計論の初心者から中級者程度の知識を有する学生を対象として、税務会計の制度を分かり易く解説して別表四が作成できるようにすることを目的とする。現代の税務会計の技法と実務について理解する。前半では、法人税の概要について説明する。これによって、税務会計に関する総論的な知識を得ることができる。後半では、法人税の計算について説明する。これによって、税務会計に関する各論的な知識を得ることができる。とりわけ、理論と実務の両側面からアプローチし学修する。	1. 税務会計の必要性について、説明することができる。 2. 税務会計のフレームワークについて、具体的に述べることができる。 3. 税務会計の技法について、列挙・使用することができる。 4. 税務会計の技法について、税制改正の背景に関係づけることができる。 5. 税務会計の技法について、タックス・プランニングに関係づけることができる。	○	◎	○

領域 科目群	経営管理論	3年生	後	経営学における経営資源は、ヒト(人的資源)、モノ(物的資源)、カネ(貨幣的資源)の3要素があります。本講義では、経営管理の基礎と経営資源の中のカネ(貨幣的資源)と経営について、企業経営における消費税との関わりを中心に実務上の課題と解決策を学びます。	・経営管理や税法に関する基礎知識を身につけ、ケースにより最適な税務経営戦略を選択することができる。・講義で学んだ経営管理や税務経営戦略の基礎的な用語の意味を理解し、自分の言葉で説明することができる。	◎	○	○
領域 科目群	財務管理論	3年生	前	現代の財務管理の技法と実務について理解する。前半では、財務の基礎、財務分析と資金管理について説明する。これによって、財務管理に関する総論的な知識を得ることができる。後半では、投資決定と企業価値、資金調達とペイアウト政策について説明する。これによって、財務管理に関する各論的な知識を得ることができる。	1.財務管理の必要性について、説明することができる。2.財務管理のフレームワークについて、具体的に述べるすることができる。3.財務管理の技法について、列挙・使用することができる。4.財務管理の技法について、資本調達の現状に関係づけることができる。5.財務管理の技法について、ファイナンス・リスクに関係づけることができる。	○	◎	○
領域 科目群	地域とスポーツ	3年生	後	福岡県内のスポーツビジネスのあらゆるジャンルのテーマを挙げ、その中からそれを構成する組織や企画意図などを推察し、実際に取材などで検証し、最終的に業務企画書などにまとめる。スポーツビジネスの仕組みなどを研究する。オリジナルのイベント企画書の作成など。	業務企画書の作成方法、取材方法などを会得することができる。個人(もしくはチーム)で情報収集した後、企画の主旨、内容を伝えることができる。学生同士の評価により、より高いレベルを目指すことができる。	○	◎	○
領域 科目群	スポーツと法	3年生	後	スポーツに関連する事故・紛争にはどのようなものがあるのだろうか。また、それらを回避するにはどのような対策や解決方法があるのだろうか。地方公務員としてスポーツ振興やスポーツ施設の建設・管理等のほか、NPO法人代表としてスポーツ施設の管理運営にかかわってきた経験をもとに授業を展開する。また、スポーツにかかわる者が直面しうる人権問題等を、具体的事例を参照しながら解説を加えて、スポーツと法の間を整理しながら授業を進めていき理解を深める。	・授業で取り扱う基本的事例について、その論点を理解して問題の所在を的確に把握できる。・問題に対しての自分の意見をまとめることができる。	○	◎	○
領域 科目群	企業と社会	3年生	後	本講義は、現代の企業とその経営について「全体の理解を得る」ことを第1の目標とします。一方、企業を取り巻く環境は激しく変化しており、産業界や学会では、新たな経営手法やスキームが次々と開発されています。そこで、企業の事例を踏まえながら、主要概念と用語を講義・解説するとともに、産業界の最新トレンドを解説していきます。	1.経営体や経営学の全体像がわかる。2.経営学の基礎知識や最新知識(概念・用語)が習得できる。3.産業界のトレンドが理解できる。	◎	○	○
領域 科目群	企業と社会(留)	3年生	後	本講義は、現代の企業とその経営について「全体の理解を得る」ことを第1の目標とします。一方、企業を取り巻く環境は激しく変化しており、産業界や学会では、新たな経営手法やスキームが次々と開発されています。そこで、企業の事例を踏まえながら、主要概念と用語を講義・解説するとともに、産業界の最新トレンドを解説していきます。さらに、この授業は留学生向けの授業として開講されることから、国際経営比較の視点での解説を加えていきます。	1.経営体や経営学の全体像がわかる。2.経営学の基礎知識や最新知識(概念・用語)が習得できる。3.産業界のトレンドが理解できる。	◎	○	○
領域 科目群	産業組織論	3年生	後	産業組織論はミクロ経済学の応用分野の一つであり、各産業の市場構造、消費者行動や企業行動の分析に焦点を当て、経済理論を用いて企業の戦略的行動、政府の競争政策などを説明しようとするものである。本講義では、市場構造の変化が経済厚生にどのような影響を与えるか、企業戦略がどのように経済厚生へ影響するのかなどを考察する。ここでは、ミクロ経済学の基礎概念を学ぶことにより、特にゲーム理論の手法を用いて現実の社会・経済現象をどのように説明できるのかについて解説する。本講義では、カルテル、合併・買収、イノベーションと研究開発、特許と知的財産権、ネットワーク効果、広告などに関するトピックスについて取り上げる。	① 産業組織論の基礎的な考え方を理解できる。② 企業の行動、企業間競争を経済学的に考えることができる。③ 不完全競争(独占、寡占)の理論について説明できる。④ 独占や寡占による弊害やその解決策を議論できる。⑤ 規制や競争政策の現状と課題について説明できる。	○	◎	○
領域 科目群	交通論	3年生	前	・公務員、交通事業者、NPOの職員として交通に必要な知識を習得し、専門家養成を目指す。・交通が抱えている問題を認識し、人口減少に向けた持続可能な移動手段構築などの各種問題について、具体例を挙げつつ説明する。	・人口減少に向けた持続可能な交通に必要な基本的な知識を習得し、交通の専門家として問題解決の技術手法を身につけることができる。・人口減少に対して交通問題を解決するために、交通に関連する知識を用いて、論述できるようになる。	◎	○	○
領域 科目群	ゲーム理論	3年生	後	ゲーム理論は数学に基づいた学問であることに留意してください。授業は簡単な説明の後、あてられた人が練習問題を解くという形で進めていく予定です。ゲームは非協力ゲームにおける同時手番と逐次手番について練習問題を行なう予定であることを理解した上で参加してください。	ゲームを自分で作成できる能力を持つことができる。自分で作成したゲームを自分で解くことのできる能力を持つことができる。	◎	○	○

領域 科目群	会計監査論	3年生	後	現代の会計監査の理論と制度について理解する。前半では会計監査の必要性および会計監査の制度について説明をする。これによって、会計監査に関する総論的な知識を得ることができる。後半では監査基準の体系、監査手続、監査報告書の構成について説明する。これによって、会計監査に関する各論的な知識を得ることができる。	1. 会計監査の必要性について、説明することができる。 2. 会計監査の制度について、具体的に述べるができる。 3. 監査基準の体系について、説明することができる。 4. 監査手続について、監査要点と関係づけることができる。 5. 監査報告書について、作成・解釈することができる。	○	◎	○
領域 科目群	医療・福祉マネジメント	3年生	後	教員の実務経験としては、看護師として10年以上の経験と社会福祉士として在宅の福祉の分野で8年経験しており、医療と福祉の両分野の経験に基づいた講義を行います。医療と福祉のマネジメントに必要な社会保守制度の概要を理解できるように、わかりやすく解説いたします。また医療・福祉の分野では、医療知識や関係法規など専門的で高度な知識が求められます。医療・福祉分野の特殊性を十分理解できる内容を教示いたします。医療福祉の業界は日々変化しており、医療福祉マネジメントでは医療福祉の現状と政策に加え、事例でのリアルな講義を行います。	・社会保障を学ぶことで、社会人として社会に目を向けた生き方、日本社会の持つ課題を知ることができる。・福祉の各分野を学び、日本社会実情や社会の動きを知ること、社会貢献することの意義を知ることができる。	◎	○	○
領域 科目群	行政法(救済法)	3年生	後	前期の行政法(作用法・組織法)の内容を踏まえ、本講義では、違法・不当な行政活動が行われた場合に、私たち国民はどのように対応すればよいのか、その方法について理解を深めていきます。具体的には、①行政機関自体に対し行政活動の是正を求める「行政不服申立て」、②裁判所を用いて行政処分は是正を求める「行政事件訴訟」、③行政活動によって生じた損害の賠償を裁判所に請求する「国家賠償」や「損失補償」について学んでいきます。担当教員は、これまで地方公共団体の行政委員会や審議会等の専門委員を務めた経験があり、行政運営に関わってきた実務経験を交えながら講義を進めます。講義は指定テキストを使用しながら進めていきます。	①現代行政国家において、国民・住民と行政との法的関係について、広い視野をもって理解・判断できるようになる。 ②法令の解釈を通じて、論理的思考かつ行政(公益)目的を常に念頭に置き、法的紛争を解決に導くことのできる基礎的素養を身につける。 ③判例の理解を通じて、行政訴訟に対して、どの救済制度を適用するのが適切であるかを判断できるようになる。	○	◎	
領域 科目群	生産管理論	3年生	後	1. 日本が開発した科学技術とそれを基盤とした産業について学ぶ。 2. 日本の科学技術と産業の歴史を理解する。 3. 日本の科学技術と産業が世界に及ぼした影響について理解する。 4. 日本のものづくりを生産管理の理論と実践の観点から学ぶ。	1. 産業技術の基礎が理解できる。 2. 日本の基幹産業のひとつである自動車産業の歴史と現状が理解できる。 3. 持続可能な社会が求める産業技術の在り方を理解できる。 4. 生産管理の基本的知見を獲得する。	○	◎	○
領域 科目群	ビジネス実務演習B	3年生	後	本講義ではビジネスパーソンとして必要な資質や役割を理解し、ビジネスの現場で行動・活躍できる人材の育成を目標とする。ビジネスにおける実務、そのマネジメント、ビジネスを取り巻く環境、企業組織、ビジネスパーソンのキャリアなどについて理解を深め、ビジネス実務の基本から応用に至るまで幅広く習得することを目的とする。	・ビジネスパーソンとしてふさわしい立ち居振る舞いができる。・ビジネス実務の定義を説明できる。・ビジネスパーソンとしての仕事の仕方や役割を理解する。・ビジネスパーソンとしての話し方や聞き方を実践できる。・ビジネス実務を通して、自分の意見をエピソードを交えて発表することができる。・ビジネス実務を通して、クラスの中でお互いに教え合うことができる。・ビジネス実務を通して得た思想を自分の人生に活かすことができる。	○	○	◎
領域 科目群	ビジネス実務演習B	3年生	後	本講義では、ビジネス実務に関連したアウトプット(表現)の鍛錬を行う。アウトプット力の向上はビジネスパーソンとして有用なスキルとなる。身近な例を用いて、説得力のある表現ができるように、様々なテーマや話題を用いて、発表を行う。	①:社会的事象をアウトプットに繋げられるような思考力が身に付く。②:今後のビジネスに繋がる戦略を組み立てられるようになる。③:プレゼンテーションを行うにあたり、様々な表示の仕方が身に付く。④:プレゼンテーションに対し、積極的姿勢で臨めるようになる。	○	○	◎
領域 科目群	サービス実務演習	3年生	後	サービス業に従事する人材として求められる資質、知識、接客、接客マナーなどを理解し、実践的に活用できるおもてなし能力を育成する。プリントやDVDなどを使ってサービス業界の理解を進め、さらに演習を交えることで体験型の修得も目指す。	・サービススタッフの心構えを理解できる。・サービススタッフの専門知識を理解できる。・サービススタッフの言葉遣いや立ち居振る舞いを理解し、実践できる。・ビジネス電話検定A級に合格できる。・サービス接客検定準1級に合格できる	○	○	◎
実践 科目群	ワークショップA【ステ企】	1年生	前	本授業は担当教員のキャリア(スポーツビジネス関連企業経営・スポーツビジネス関係情報開発経験等)を生かして、主にスポーツビジネス領域におけるビジネス実務能力を高めていきます。その手法としてPBL(Project or Problem Based Learning)を用いて、体験を通じながら学びを深めます。第15回授業終了時点では、学外でも十分に通用するレベルのビジネス実務能力を身に付けることを目指します。	(1)授業の目的を正確に把握し、準備をして臨むことができる。(2)準備した内容を基に、授業内で積極的に行動することができる。(3)毎回の活動記録を正確に残すことができる。(4)個人課題とグループ課題のどちらにも計画的に取り組むことができる。	○	◎	○
実践 科目群	ワークショップA【ステ公】	1年生	後	この科目は、公務員等志望者対象ワークショップです。講義と実習から構成されます。警察官や消防官、県や市の行政職員といった公務員等の職業は、地域住民が、快適で安心して安全に暮らすことのできる生活環境をつくるために、地域のために働く極めて社会貢献性の高い職業です。したがって、将来、公務員等を目指す人は、社会貢献マインドを身に付ける必要があります。本科目では、様々な研修等を通して知識及び技術を身に付け、ワークショップBにおいて取り組むべき真の社会貢献を考えたいきます。【担当: 森江、後藤、入江】	①社会貢献活動について知り、その活動の目的について理解することができる。 ②大学生として自分たちができる真の社会貢献について考えることができる。 ③社会貢献マインドを養うことができる。 ④社会貢献活動におけるルールとマナーを身に付けることができる。 ⑤公務員等社会貢献性の高い職業に就こうとする意欲が高まる。		○	◎

実践 科目 群	ワークショップA【セバ】	1年生	後	本授業は、1年次という早い時期からイベントの企画やそれら実際の運営に携わるなど社会体験を増やすために用意された能動的学修(アクティブ・ラーニング)のひとつである。地域連携・地域貢献をテーマとして、用意されたプロジェクトから複数選択し、課題解決の意識を高める機会を提供する。問題基盤型学習やサービスマーケティングなどを取り入れて、前に踏み出す力の涵養に力点を置いて、行っていく。	1. 地域住民の生活課題について、具体的に説明することができる。 2. 地域連携・地域貢献活動の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、推論できる。 3. 社会体験・地域イベントの効果について、地域活性化と関係づけることができる。 4. 地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。 5. 大学での学びを社会貢献活動と関係づけることができる。	○	◎	○
実践 科目 群	ワークショップA【ステ教】	1年生	後	教員としての経験を活かし、授業を展開する。 本授業は講義および実習形式で実施する。教師になるということを一度間いなおし、学外実習(スクールヘルパー等)を行い、自らの考えを深めることを目的とする。学外実習は北九州市立小中学校でのスクールヘルパーを予定している。学外実習前には、事前学習を行い、理解を深める。スクールヘルパー経験者(先輩)の話聴き、実習計画を立て実習先をみずから選定する。実習後は実習の内容および成果をまとめて、報告し振り返る。	1 教師になるということについて考えを深めることができる。 2 経験に基づいて考えを構築し表現することができる。 3 表現力を高めることができる。 4 コミュニケーション能力・調整能力を高めることができる。 5 課題を発見し、解決策を考えることができる。	◎	○	○
実践 科目 群	ワークショップB【セバ】	2年生	前	ワークショップBセバレポート方式は、演習形式で行います。指導教員は実業家としての経験を持ち、これまでに多くの企業と様々な案件でコラボレーションしてきました。そのうち、企業や企業が取り扱う商品やサービスのブランディングに関して、特に知的財産権の取得や強化は重要な仕事でした。これからの時代においても知的財産権については、ビジネスの世界において重要度を増していくものと思われます。受講者の皆様には知的財産権を理解して、自らも商標や意匠、特許等を取得できるようになって欲しいと思います。授業では、実際に取得を目指すためのアイデアを考案していく取り組みをします。	(1)出席管理及び活動内容のチェックができる (2)毎回の課題を正確にクリアできる (3)終了した課題を他の受講者に対してプレゼンテーションできる (4)自分が考案したアイデアを外務に対して発信できる(コンテスト応募等)	◎	○	○
実践 科目 群	ワークショップB【ステ公】	2年生	前	この科目は、公務員等志望者対象ワークショップです。講義と実習から構成されます。 警察官や消防官、県や市の行政職員といった公務員等の職業は、地域住民が、快適で安心して安全に暮らすことのできる生活環境をつくるために、地域のために働く極めて社会貢献性の高い職業です。したがって、将来、公務員等を目指す人は、社会貢献マインドを身に付ける必要があります。本科目では、ワークショップAにおいて学んだ知識をもとに、ボランティア活動等を実際に行い、社会貢献マインドを養ってください。【担当:森江、入江】	①社会貢献活動について知り、その活動の目的について理解することができる。 ②大学生として自分たちができる真の社会貢献について考えることができる。 ③社会貢献マインドを養うことができる。 ④社会貢献活動におけるルールとマナーを身に付けることができる。 ⑤公務員等社会貢献性の高い職業に就こうとする意欲が高まる。	○	○	◎
実践 科目 群	ワークショップB【ステ企】	2年生	後	ワークショップAを発展させながら主にスポーツビジネス領域におけるビジネス実務能力を高めていきます。本授業はスポーツビジネス関連企業経営、スポーツビジネス関係情報商材開発経験を生かして、PBL(Project or Problem Based Learning)を用いて、体験を通じながら学んでいながら、積極的に学外でのチャレンジ(ビジネスプランコンテスト等への参加)も行います。	(1)授業の目的を正確に把握し、準備をして臨むことができる。 (2)準備した内容を基に、授業内で積極的に行動することができる。 (3)毎回の活動記録を正確に残すことができる。 (4)個人課題とグループ課題のどちらにも計画的に取り組むことができる。 (5)Aを超える学習の成果を残すことができる。	○	◎	○
実践 科目 群	ワークショップC【セバ】	3年生	前	ワークショップCセバレポート方式は、演習形式で行います。指導教員はこれまでに実業家や研究者としての経験を生かして、多くの企業や行政団体とコラボレーションしてきました。そのうち、地方創生や地域貢献に関して、特に福岡県や福岡市の健康増進イベントにプランを入れたり、イベントブースの出店をしたりした他、地元北九州では過去9年間継続して高齢者に対する健康教室を担当してきました。本授業では、この高齢者に対する健康教室イベントの内容を復習し、ブラッシュアップさせる活動に取り組みます。	(1)出席管理及び活動内容のチェックができる (2)毎回の課題を正確にクリアできる (3)終了した課題を他の受講者に対してプレゼンテーションできる (4)自分が担当した業務をマニュアル化できる	○	○	◎
実践 科目 群	ワークショップC【ステ公】	3年生	前	この科目は、公務員等志望者対象ワークショップです。講義と実習から構成されます。 警察官や消防官、県や市の行政職員といった公務員等の職業は、地域住民が、快適で安心して安全に暮らすことのできる生活環境をつくるために、地域のために働く極めて社会貢献性の高い職業です。したがって、将来、公務員等を目指す人は、社会貢献マインドを身に付ける必要があります。本科目では、ワークショップA、Bにおいて学んできました。身に付けた社会貢献性をもって自治体、警察、消防等のインターンシップに参加し、さらに職業意識を高めていきたいと思います。また、引き続き社会貢献活動も行います。【担当:森江、入江】	①社会貢献活動について知り、その活動の目的について理解することができる。 ②大学生として自分たちができる真の社会貢献について考えることができる。 ③社会貢献マインドを養うことができる。 ④社会貢献活動におけるルールとマナーを身に付けることができる。 ⑤公務員等社会貢献性の高い職業に就こうとする意欲が高まる。	○	○	◎

実践科目群	ワークショップC【ステ企】	3年生	前	ワークショップは経験を通じた学習であり、受け身で授業を聞くのではなく、自ら考え能動的に動く形で行われる。ワークショップCでは、ワークショップA、Bで行った活動を基に、自ら社会で起きている問題や課題に対して、どのように解決していくのかを考え、実践を通じて学習していく。スポーツ、イベント、地域活性化、食などをテーマに、学生の立場でどんな役割が演じられるのかを考えていく。(ステップアップ方式では、1年次のA→2年次のBの履修者のみCを履修できる。	・ワークショップとはなにかを理解できる。・相手の意見を聞くこと、自分の意見を主張することができる。・イベントの裏方の重要性や役割について理解し、体験することができる。・地域の問題に感心を持ち、それを解決する方法について考えることができる。・チームで課題に取り組むことの重要性を理解し、それに沿って行動できる。	○	○	◎
実践科目群	ワークショップD【ステ企】	4年生	前	ワークショップは経験を通じた学習であり、受け身で授業を聞くのではなく、自ら考え能動的に動く形で行われる。ワークショップDでは、ワークショップA、B、Cで行った活動を基に、自ら社会で起きている問題や課題に対して、どのように解決していくのかを考え、実践を通じて学習していく。スポーツ、イベント、地域活性化、食などをテーマに、学生の立場でどんな役割が演じられるのかを考えていく。(ステップアップ方式では、1年次のA→2年次のB、3年次のCの履修者のみDを履修できる。	・ワークショップとはなにかを理解できる。・相手の意見を聞くこと、自分の意見を主張することができる。・イベントの裏方の重要性や役割について理解し、体験することができる。・地域の問題に感心を持ち、それを解決する方法について考えることができる。・チームで課題に取り組むことの重要性を理解し、それに沿って行動できる。	○	○	◎
実践科目群	ワークショップD【セバ】	4年生	前	この講義は社会体験学習として、スポーツをはじめとするイベントや、地域活性化への取組に対する理解を深めてもらう。スタッフとしてイベントを体験しながら、裏方の重要性や具体的な業務内容を理解し、また地域の抱える課題や歴史についても現場で学べる時間を設けたい。大学で学んだ経済学の実践の場として知識やスキルを身につけてもらう。	・経済学における実践的な活動がわかる。・チーム活動やスタッフの役割が理解できる。・地域を活性化するための様々な活動について理解できる。・スポーツを通じた街づくりについて考え、提案を行うことができる。	○	○	◎
実践科目群	ワークショップD【ステ教】	4年生	前	教員としての経験を活かした授業展開とし、この科目は、講義と実習とで構成される。講義では、教職を目指すものの心構えや教職についての基礎的な知識を修得する。実習では実際の学校現場体験から、教育を行う側の感覚を味わう。これらの講義と実習を通して、4年次の教職への希望(意識)を自己の真摯な目的意識へと高めていくのがねらいである。この科目はステップアップ方式を採るので、3年次のワークショップCを修得せずして4年次のワークショップDは履修できない。必修科目ではないが、教職を希望する気持ちのある者はぜひ履修することを勧める。	1 教職の魅力について、自分なりの説明ができる。 2 なぜ、教職に就こうとしているのか、説明ができる。 3 教職に携わる者の心構えについて考えることができる。 4 教員としてのベースとは何かについて考えることができる。 5 教職の基本的な仕組みについての授業(講義)が理解できる。 6 学校現場体験で教職についての魅力を実感できる。	○	○	◎
実践科目群	ワークショップD【ステ公】	4年生	前	ワークショップA～Cにおいて、社会貢献活動に取り組んできましたが、本科目では取り組んできた社会貢献活動について概念化していきます。まず、これまでの活動を分析し、課題や今後の可能性、特徴を整理します。次に、この授業を通して果たしたい役割を明確化し、PDCAを回しながら最後の社会貢献活動に取り組んでいきましょう。概念化したものについては、学生研究報告会における発表や、卒論、ゼミ論につなげることを目標とします。	①社会貢献活動について知り、その活動の目的について理解することができる。②大学生として自分たちにできる真の社会貢献について考えることができる。③社会貢献マインドを養うことができる。④社会貢献活動におけるルールとマナーを身に付けることができる。⑤公務員等社会貢献性の高い職業に就こうとする意欲が高まる。	○	○	◎
実践科目群	研究会A(簿記3級①)(前半)	1年生	前	大学での学習の結果を「簿記3級資格取得」で表現できれば、本人が自信を増すことになり就職活動においてもアピールできる こととなる。「簿記」を初めて学ぶ学生が興味を持てるように、簿記検定の基礎となる仕訳と転記を学び、簿記検定に必要な 仕訳及び総勘定元帳の知識を身につける。	1.初めて学ぶ「簿記」に興味を持ち、基本的な知識を修得することができる。2.自らの能力を向上させるために、予復修の課題をこなす。3.社会人としての必要な会計の基礎を理解することができる。4.学習を通じて、継続力・忍耐力を身につけることができる。	◎	○	○
実践科目群	研究会A(社会人基礎講座)(前半)	1年生	前	この講座では、近い将来にやってくる就職(社会人デビュー)に備え、社会人として求められる考え方、社会知識、コミュニケーションの基礎能力について学び、トレーニングします。授業で学んだことを実生活で実践してください。3年次に始まる就職活動にむけての効果的な準備にもなります。本プログラムは、新入社員研修をはじめ企業での研修業務の経験豊富な講師が担当し、毎週2コマ連続で集中的に取り組んでいきます。	1. 社会人として活躍できる人材になるため、自分に必要なものがわかるようになる。 2. 社会人や職業人に必要な考え方の理解を深め、日々の生活で意識できるようになる。 3. 社会人として必要な人間関係の作り方を学び、学生時代から実践できるようになる。		○	◎
実践科目群	研究会A(FP技能検定3級①)(前半)	1年生	前	注意点)原則、FP研究会AとB続けて受講。A、Bの後、後期でC、Dの受講を。A～Dすべて受講することでFP全科目を網羅できる。 国家資格でもあり、金融機関などでも必要度の高まっているファイナンシャルプランナーについて学習する。ファイナンシャルプランに必要な資金計画、年金を中心とした社会保険、生命保険や損害保険の基礎知識をFP実務経験のある講師と実践的な知識と試験対策両面を意識した講義。	・ファイナンシャルプランニング技能士3級試験で合格するための基礎知識の習得することができる。・ファイナンス分野に接することで、2級以上のFP(ファイナンシャルプランニング)資格取得や、経済・金融・財務等其他学部科目における探究心を向上させることができる。	◎	○	○

実践 科目 群	研究会A (スポーツビジネス) (前半)	1年生	前	<p>●スポーツビジネスを中心に、イベント・番組制作など全てのジャンルに対応できる企画の立て方、限定された課題の中で、0からの発想によりアイデアを構築し、企画書を完成させるその企画書を多くの人々に理解してもらうためのプレゼン能力を養う。●情報リテラシー 世の中に数多ある情報をいかに自分のものにするか？見極める力を養う。自己目標とそれを達成するための戦略と行動計画。●33年間のラジオテレビ番組制作、イベントディレクターの経験を活かし、スポーツビジネス企画立案、制作授業について具体的にアドバイスし、スキルを学習する。</p>	与えられた課題の中で、自由な発想と、ニーズに応えられる企画を構築できる。個人(もしくはチーム)で創造した企画の主旨、内容を伝えることができる。学生同士の評価により、より高いレベルを目指すことができる。取組りを見極めて企画をチームで作り上げることができる。	○	◎	○
実践 科目 群	研究会B (スポーツビジネス) (後半)	1年生	前	<p>本講義では、スポーツサプリメントやスポーツの情報教材を多数開発し、流通に乗せてきた教員がそれらの経験を生かして、皆さんがビジネスプランを考案できるように実践的なサポートを行います。「スポーツ×○○」とスポーツをコンテンツとして扱うあらゆる形態のビジネスを総称してスポーツビジネスと言いますが、実際にスポーツをコンテンツとする自分のビジネスモデルを考案してみましょう。何を、誰に、どこで、いくらで、どうやって売れるのか？売れるのか？を細かく検討していきましょう。最終的にはビジネスプラン系コンテストに応募してもらいます。</p>	(1)「スポーツビジネスとは？」と問いかけられた時に概要を説明できる。(2)ビジネスの仕組みを説明できる。(3)ビジネスのモデルを考案できる。(4)学外のコンテストに応募できる。	◎	○	
実践 科目 群	研究会B (簿記3級②)(後半)	1年生	前	<p>大学での学習の結果を「簿記3級資格取得」で表現できれば、本人が自信を贈すことになり就職活動においてもアピールできることとなる。「簿記」を初めて学ぶ学生が興味を持てるように、簿記検定の基礎となる仕訳と転記を学び、簿記検定に必要な仕訳及び総勘定元帳の知識を身につける。</p>	1.初めて学ぶ「簿記」に興味を持ち、基本的な知識を修得することができる。 2.自らの能力を向上させるために、予復修の課題をこなす。3.社会人としての必要な会計の基礎を理解することができる。4.学習を通じて、継続力・忍耐力を身につけることができる。	◎	○	○
実践 科目 群	研究会B (FP技能検定3級 ②)(後半)	1年生	前	<p>注意点)原則、FP研究会AとB続けて受講。A、Bの後、後期でC、Dの受講。A～Dすべて受講することでFP全科目を網羅できる。研究会A未受講でもBのみ受講する場合、その理由等聞く場合がある。国家資格でもあり、金融機関などでも必要度の高まっているファイナンシャルプランナーについて学習する。研究会Aの内容を踏まえ、新たに資産運用(金融)とタックスプランニングについて学習する。資産運用においては株式や投資信託など投資商品の理解をし、FP実務経験のある講師と老後への資産形成はどうあるべきか？考える機会とする。</p>	・ファイナンシャルプランニング技能士3級試験で合格するための基礎知識の習得することができる。・ファイナンス分野に接することで、2級以上のFP(ファイナンシャルプランニング)資格取得や、経済・金融・財務等、その他学部科目における探究心を向上させることができる。	◎	○	○
実践 科目 群	研究会C (簿記3級③)(前半)	1年生	後	<p>簿記のルールに基づき財務諸表が作られ、それを世界中の人が見て経済活動を行う中、「簿記が分からなければ経済が分からない」と言っは過言ではない程、経済を学ぶ上で、簿記は全ての社会人に共通する必要不可欠な知識である。当講義では、日商簿記検定3級に合格するために必要な基礎力を身につけることができ、本格的な試験対策講義を行う研究会D(簿記3級④)に繋げていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。</p>	・合格するために必要な基礎力を身に付けることができる。・学修を通じて、継続力・忍耐力を身に付けることができる。・自らの課題に気づき、克服するための実行力を身に付けることができる。・当講義を通じて自らの将来(就職)を考えることができる。	◎	○	○
実践 科目 群	研究会C (社会人基礎講座) (前半)	1年生	後	<p>この講座では、近い将来にやってくる就職(社会人デビュー)に備え、社会人として求められる考え方、社会知識、コミュニケーションの基礎能力について学び、トレーニングします。授業で学んだことを実生活で実践してください。3年次に始まる就職活動にむけての効果的な準備にもなります。本プログラムは、新入社員研修をはじめ企業での研修業務の経験豊富な講師が担当し、毎週2コマ連続で集中的に取り組んでいきます。</p>	1.社会人として活躍できる人材になるため、自分に必要なものがわかるようになる。2.社会人や職業人に必要な考え方の理解を深め、日々の生活で意識できるようになる。3.社会人として必要な人間関係の作り方を学び、学生時代から実践できるようになる。		○	◎
実践 科目 群	研究会C (FP技能検定3級 ③)(前半)	1年生	後	<p>注意点)原則、FP研究会AとB受講者を対象とする。後期でC、Dを連続受講推奨。すべて受講することでFP全科目を網羅できる。国家資格でもあり、金融機関などでも必要度の高まっているファイナンシャルプランナーについて学習する。研究会A・Bの内容を踏まえ、不動産と相続・贈与について学習する。高齢化社会を迎え、相続を前提とした不動産の活用など時事問題も取り上げ、FP実務経験のある講師と相続対策の方法、自宅(実家)の在り方などについても議論する。</p>	・ファイナンシャルプランニング技能士3級試験で合格するための基礎知識の習得することができる。・ファイナンス分野に接することで、2級以上のFP(ファイナンシャルプランニング)資格取得や、経済・金融・財務等、その他学部科目における探究心を向上させることができる。	◎	○	○
実践 科目 群	研究会C (公務員試験)(前 半)	1年生	後	<p>公務員試験対策として必要な知識を修得することは、広く就職活動などの場面でも非常に有益なものとなります。本講義では各人のやる気を積極的に支援します。この講義は公務員試験合格を目指す学生を対象とした基礎力向上講座です。公務員試験の重要科目である数的推理及び判断推理を中心に基礎知識一問題演習をしていきます。集中的に学習するため、木曜日の3・4限連続で実施します。</p>	1.能力向上に挑戦する意識を高めること。2.能力向上に挑戦できること。3.能力向上に挑戦し続ける方法を身につけること。4.数的推理・判断推理の基本問題を解けるようになること。		◎	

実践科目群	研究会D (簿記3級④) (後半)	1年生	後	簿記のルールに基づき財務諸表が作られ、それを世界中の人が見て経済活動を行う中、「簿記が分からなければ経済が分からない」と言っては過言ではない程、経済を学ぶ上で、簿記は全ての社会人に共通する必要不可欠な知識である。当講義では、日商簿記検定3級に確実に合格するために必要な実践力を身に付けることができ、一つの成功体験として資格を取得し、先に控える就職活動および将来に繋げていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・合格するために必要な実践力を身に付けることができる。・学習を通じて、継続力・忍耐力を身に付けることができる。・自らの課題に気づき、克服するための実行力を身に付けることができる。・当講義を通じて自らの将来(就職)を考えることができる。	◎	○	○
実践科目群	研究会D (FP技能検定3級④) (後半)	1年生	後	注意点)原則、FP研究会A～Cを受講している者を対象とする。国家資格でもあり、金融機関などでも必要度の高まっているファイナンシャルプランナーについて学習する。研究会A～Cで取り上げた分野を中心に、FP実務経験のある講師とFP相談現場を想定しながら、様々な事例を学習する。また、FP3級の試験対策(学科編・実技編)も過去問を使い実施する。注意点)原則、FP研究会A～Cを受講している者を対象とする。	ファイナンシャルプランニング技能士3級試験で合格するための基礎知識の習得、及びファイナンス分野に接することで、2級以上のFP(ファイナンシャルプランニング)資格取得や、経済・金融・財務等その他学部科目における探究心を向上させることができる。	◎	○	○
実践科目群	研究会D (スポーツビジネス)	1年生	後	本授業では、主にスポーツビジネス領域におけるビジネス実務能力を高めていきます。スポーツビジネス関連企業経営、スポーツビジネス関係情報商材開発経験を生かして、PBL(Project or Problem Based Learning)を活用しながら学んでもらいます。特に教員の実務経験を基に提示される複数の課題(候補)の中から最も興味深いテーマの一つを選んで掘り下げていき、ビジネス存続の条件について精査し、既存のスポーツビジネスを発展させる可能性について考察を深めます。	(1)授業の目的を正確に把握し、準備をして臨むことができる。(2)準備した内容を基に、授業内で積極的に行動することができる。(3)毎回の活動記録を正確に残すことができる。(4)個人課題とグループ課題のどちらにも計画的に取り組むことができる。	◎	○	○
実践科目群	研究会E (サービス接遇検定) (前半)	2年生	前	本講義は、ビジネス系検定のサービス接遇検定3級取得を目指している学生を対象に、6月に実施される検定の合格を目指す。実問題の過去問題を用いて解答・解説を行い、各問題のキーワードの理解を深める。過去問題は「選択式」「記述式」、3級、2級に分割し、対策を分析的に示し、できるだけ多くの過去問題に対峙する(3級-1級の問題・解答を幅広く参考にする)。テキストや問題集にある「正解」の世界観に慣れること、より多くの問題を解き、「問題→正解」に繋げるプロセスに馴染むことを目標とする。	①:サービス接遇検定3級に合格できる。②:合格するための解法を「選択式」「記述式」ごとに理解できる。③:サービス業に従事するスタッフの求められる資質・能力が理解できる。④:正しい言葉遣いや態度が理解できる。	○	◎	○
実践科目群	研究会E (公務員試験)	2年生	前	この講義では、公務員試験受験志望者に過去の試験問題を用いながら頻出分野の傾向と対策を行う。公務員試験の知識分野の最重要分野は「社会科学(政治・国際関係・法律・社会・経済)」である。そこで、この講義では社会科学分野の重要領域の解説講義と問題演習を行う。なお、担当者は地方公共団体の審議会委員や専門委員を務めており、政治・行政に関し、実務的な観点からの理解を深められるように配慮する。また、担当者は大手公務員試験受験専門学校にて、長年にわたり社会科学分野の指導経験があり、出題傾向を十分に踏まえた指導を行うことで、問題を読み解く能力を高めていく。	・公共部門で働く、心構えを身につける。・社会科学分野の出題傾向と対策の方法を身につける。・社会科学分野の頻出基本問題に正しく解答することができる。・時間内に問題を解く能力を身につけることができる。・公務員受験志望者間で進路について意見交換し、自己の職業観を深め、他者に説明することができる。	◎	○	
実践科目群	研究会E (スポーツビジネス) (前半)	2年生	前	●スポーツビジネスを中心に、イベント・番組制作など全てのジャンルに対応できる企画の立て方、限定された課題の中で、0からの発想によりアイデアを構築し、企画書を完成させるその企画書を多くの人に理解してもらうためのプレゼン能力を養う。●情報リテラシー 世の中に数多くある情報をいかに自分のものにするか?見極める力を養う。自己目標とそれを達成するための戦略と行動計画。●33年間のラジオテレビ番組制作、イベントディレクターの経験を活かし、スポーツビジネス企画立案、制作授業について具体的にアドバイスし、スキルを学習する。	与えられた課題の中で、自由な発想と、ニーズに応えられる企画を構築できる。個人(もしくはチーム)で創造した企画の主旨、内容を伝えることができる。学生同士の評価により、より高いレベルを目指すことができる。段取りを見極めて企画をチームで作り上げることができる。	○	◎	○
実践科目群	研究会E (大学院)	2年生	前	この講義は、大学院進学を目指している学生に対して、経営学理論を深く勉強してもらい、そのうえ、実際の問題(主要大学院の過去問や例題)を用いて、論述や和訳(英文の翻訳)を演習をしていきます。本年度は、経営戦略、経営管理領域の過去問を演習します。また、小論文の書き方、翻訳時の注意点について説明をした上、受講生の作成した小論文や翻訳の指導を行うほか、大学院受験のアドバイスをいたします。	1.経営学の主要論点がわかる。2.経営学の主要理論がわかる。3.大学院受験に要求される翻訳能力が得られる。4.大学院受験に要求される論述能力が得られる。5.その他、大学院受験要領がわかる。	◎	○	○

実践科目群	研究会E (旅行業務取扱管理者①)	2年生	前	当講義は、旅行業務取扱管理者試験(国内・総合)の重要科目である旅行業法(旅行業法及びこれに基づく命令)および国内観光地理について、国家試験に合格するために必要な知識およびノウハウを身に付けていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・旅行業務を行う上で守るべきルールが定められている法律を修得することができる。・国内の観光資源では、各観光名所をはじめ幅広い知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な基礎力から応用力まで身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。・学修を通じて、継続力・忍耐力を身に付けることができる。・自らの課題に気づき、克服するための実行力を身に付けることができる。	○	◎	○
実践科目群	研究会E (FP技能検定2級①)	2年生	前	国家資格でもあり、金融機関などでも必要度の高まっているファイナンシャルプランナーについて学習する。FP基礎学習(3級程度)を修了している者を対象とする。FP相談現場を想定しながら、FP実務経験のある講師と様々な事例を学習する。また、FP2級の試験対策(学科編・実技編)も過去問を使い実施する。	ファイナンシャルプランニング技能士2級試験で合格するための知識、及び社会・経済情勢を踏まえたFP資格の活用方法を身に付けることを目標とする。	◎	○	○
実践科目群	研究会E (環境・品質ISO)	2年生	前	1. 講師はISO(国際標準化機構)の審査機関であるEQA国際認証センターのコンサルタント活動ならびに内部監査員トレーニングの経験を活かし実務の授業を展開する。2. この科目は、企業や行政機関に導入しているISO規格を内部環境監査資格を有する人材を在学中に資格取得させる授業である。前期の集中講義(4日間)を受講することにより、環境マネジメントシステム(ISO14001)内部環境監査員の資格を取得することができる。(有料)試験の合格は70点以上とする。詳細は掲示板に記載する。	1. 環境マネジメントシステム(ISO14001)内部環境監査員の資格を取得することができる。(有料)試験合格必須) 2. ISO内部監査員について基本的な知識から習得し、ロールプレイなどを通して実践を行うことで監査に必要な技能を身につけることができる。	◎	○	○
実践科目群	研究会F (スポーツビジネス)(後半)	2年生	前	本講義では、スポーツサプリメントやスポーツの情報商材を多数開発し、流通に乗せてきた教員がそれらの経験を生かして、皆さんがビジネスプランを考案できるように実践的なサポートを行います。「スポーツ×○○」とスポーツをコンテンツとして扱うあらゆる形態のビジネスを総称してスポーツビジネスと言いますが、実際にスポーツをコンテンツとする自分のビジネスモデルを考案してみましょう。何を、誰に、どこで、いくつで、どうやって売るのが売れ続けるのか?を細かく検討していきましょう。最終的にはビジネスプラン系コンテストに応募してもらいます。	(1)「スポーツビジネスとは?」と問いかけられた時に概要を説明できる。(2)ビジネスの仕組みを説明できる。(3)ビジネスのモデルを考案できる。(4)学外のコンテストに応募できる。	◎	○	
実践科目群	研究会F (社会人基礎講座)(後半)	2年生	前	この講座では、近い将来にやってくる就職(社会人デビュー)に備え、社会人として求められる考え方、社会知識、コミュニケーションの基礎能力について学び、トレーニングします。授業で学んだことを実生活で実践してください。3年次に始まる就職活動にむけての効果的な準備にもなります。本プログラムは、新入社員研修をはじめ企業での研修業務の経験豊富な講師が担当し、毎週2コマ連続で集中的に取り組んでいきます。	1. 社会人として活躍できる人材になるため、自分に必要なものがわかるようになる。2. 社会人や職業人に必要な考え方の理解を深め、日々の生活で意識できるようになる。3. 社会人として必要な人間関係の作り方を学び、学生時代から実践できるようになる。		○	◎
実践科目群	研究会F (大学院)	2年生	前	この講義は、大学院進学を目指している学生に対して、経営学理論を深く勉強してもらい、そのうえ、実際の問題(主要大学院の過去問や例題)を用いて、論述や和訳(英文の翻訳)を演習していきます。本年度は、経営戦略、経営管理領域の過去問を演習します。また、小論文の書き方、翻訳時の注意点について説明をした上、受講生の作成した小論文や翻訳の指導を行うほか、大学院受験のアドバイスをいたします。	1.経営学の主要論点がわかる。2.経営学の主要理論がわかる。3.大学院受験に要求される翻訳能力が得られる。4.大学院受験に要求される論述能力が得られる。5.その他、大学院受験要領がわかる。	◎	○	○
実践科目群	研究会F (旅行業務取扱管理者②)	2年生	前	当講義は、旅行業務取扱管理者試験(国内・総合)の重要科目である約款および国内観光地理について、国家試験に合格するために必要な知識およびノウハウを身に付けていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・旅行者等と旅行者とのルール(約款)を修得することができる。・海外の観光資源では、各観光名所をはじめ幅広い知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な基礎力から応用力まで身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。・学修を通じて、継続力・忍耐力を身に付けることができる。・自らの課題に気づき、克服するための実行力を身に付けることができる。	○	◎	○
実践科目群	研究会F (実践外国語)	2年生	前	In this begginer course students learn to communicate using American and International English for a range of business situations. The course helps students to participate in various activities such as preparing to meet customers for the first time, making appointments, introducing a company and negotiating with clients. この初級コースでは、学生はさまざまなビジネス状況でアメリカ英語と国際英語を使用してコミュニケーションする方法を学びます。	①ビジネスで使われる英文や英語表現をスムーズに発音することができる。②基本的な英語での質問に回答できる。③テキストで学習した内容、パターンに似た短い英語会話を展開することができる。④英語のビジネスのビジネスの文化について、基本的な事項を理解することができる。⑤授業で学習した問題において、得点の60%程度の取得を目指す。	○	◎	○



実践科目群	研究会F(2級工業簿記)	2年生	前	①テキストを使用することによって、原価計算の問題を可能な限り解いていくことにする。特に計算に興味ある学生の履修が望ましい。②講義は、出席のみだけで、理解できるものではありません。したがって、できる限り、問題意識をもってもらうためにも、講義の内容について課題を提出し、作成してもらうようにする。そのための時間を講義の中で、とるようにする。講義形式で、パワーポイントを利用しながら授業を進めていく。	1. 原価や原価計算に関する基礎的な用語を理解し、他人に説明することができる。2. 材料費や労務費の見方や考え方を理解し、他人に説明することができる。3. 会計情報から製品についての考察ができるようになる。4. 原価がどのように経営に利用できるかを要約し、分析することができる。	◎	○	○
実践科目群	研究会G(秘書検定)(前半)	2年生	後	本講義では、ビジネス系検定の秘書検定3級取得を目指している学生を中心に11月及び2月に行われる検定の合格を目指す。実問題の過去問題を用いて解答・解説を行い、各問題のキーワードの理解を深める。過去問題「選択式」「記述式」、3級、2級に分割し、対策を分析的に示し、できるだけ多くの過去問題に対峙する(3級-1級の問題・解答を幅広く参考にする)。テキストや問題集にある「正解」の世界観に慣れること、より多くの問題を解き、「問題→正解」に繋げるプロセスに馴染むことを目標とする。	①:秘書検定3級に合格できる。②:合格するための解法を「選択式」「記述式」ごとに理解できる。③:ビジネス社会において求められる資質・能力が理解できる。④:正しい言葉遣いや態度が理解できる。	○	◎	○
実践科目群	研究会G(スポーツビジネス)	2年生	後	本授業では、主にスポーツビジネス領域におけるビジネス実務能力を高めていきます。スポーツビジネス関連企業経営、スポーツビジネス関係情報商材開発経験を生かして、PBL(Project or Problem Based Learning)を活用しながら学んでもらいます。特に教員の実務経験を基に提示される複数の課題(候補)の中から最も興味深いテーマを一つ選んで掘り下げていき、ビジネス存続の条件について精査し、既存のスポーツビジネスを発展させる可能性について考察を深めます。	(1)授業の目的を正確に把握し、準備をして臨むことができる。(2)準備した内容を基に、授業内で積極的に行動することができる。(3)毎回の活動記録を正確に残すことができる。(4)個人課題とグループ課題のどちらにも計画的に取り組むことができる。	◎	○	○
実践科目群	研究会G(大学院)	2年生	後	この講義は、大学院進学を目指している学生に対して、経営学理論を深く勉強してもらい、そのうえ、実際の問題(主要大学院の過去問や例題)を用いて、論述や和訳(英文の翻訳)を演習していきます。本年度は、経営組織、人的資源管理、生産管理、その他(イノベーション論)を主として演習を行います。また、小論文の書き方、翻訳時の注意点について説明した上、各自作成した小論文や翻訳の指導を行うほか、大学院受験のアドバイスをいたします。	1.経営学の主要論点がわかる。2.経営学の主要理論がわかる。3.大学院受験に要求される翻訳能力が得られる。4.大学院受験に要求される論述能力が得られる。5.その他、大学院受験要領がわかる。	◎	○	○
実践科目群	研究会G(経営学検定)	2年生	後	本講義は、全国規模で行われる「マネジメント検定」の受験を希望する学生諸君を対象として同検定「Ⅲ級(初級)＝大学生修得レベル」の合格を目標に「専用テキスト」に基づく講義・出題ポイントの解説、また過去問題への挑戦を通じた実践力の養成を目指します。同検定は企業論、経営戦略論、経営組織論、経営管理論、財務管理論等の基本領域によって構成されており、特に「中小企業診断士」等経営系資格の受験希望者、あるいは経営系の大学院進学を目指す学生の試験対策として有効な機会となります。なお、試験対策に特化した科目であるため、受講学生はマネジメント検定の受験が前提となります。	・経営学の主要領域(企業論、経営戦略論、経営組織論、経営管理論、財務管理論等)の重要学説および諸概念について説明できる。・マネジメント検定試験の合格レベル(60点以上)に必要なとされる知識を修得することができる。・中小企業診断士等の経営系資格の受験希望者/大学院進学希望者が試験対策(経営学)として十分な基礎的能力を培うことができる。	◎		
実践科目群	研究会G(スポーツイベント検定)	2年生	後	スポーツイベントはプロ野球、Jリーグ、Bリーグ、ラグビーリーグONEなど福岡県で開催されるプロの試合も数多く、生活を彩る重要なものとなっている。これら大規模イベントから、地域の行事まで、スポーツイベントに関する仕組みや企画、運営方法について学ぶ。イベントの現場ではどのような準備と運営をされているのか、味の素スタジアム、武蔵野の森総合スポーツプラザでの勤務経験を生かして臨場感を持って解説する。特にCOVID-19による影響、対策なども加えて話したい。日本イベント産業振興協会の「スポーツイベント検定」の受験を推奨する。	・スポーツイベントの基礎知識を習得し、イベントについて説明できる。・スポーツイベントの構造を理解し、スタッフとして働く基礎ができる。・身近にある様々なスポーツイベントに応用できるようになる。・スポーツイベントを企画、運営する会社・団体について理解を深め、就職活動の視野に入れる。	○	◎	
実践科目群	研究会G(FP技能検定2級②)	2年生	後	国家資格でもあり、金融機関などでも必要度の高まっているファイナンシャルプランナーについて学習する。FP基礎学習(3級程度)を修了している者を対象とする。FP相談現場を想定しながら、FP実務経験のある講師と様々な事例を学習する。また、FP2級の試験対策(学科編・実技編)も過去問を使い実施する。	ファイナンシャルプランニング技能士2級試験で合格するための知識、及び社会・経済情勢を踏まえたFP資格の活用方法を身に付けることを目標とする。	◎	○	○
実践科目群	研究会H(社会人基礎講座)(後半)	2年生	後	この講座では、近い将来にやってくる就職(社会人デビュー)に備え、社会人として求められる考え方、社会知識、コミュニケーションの基礎能力について学び、トレーニングします。授業で学んだことを実生活で実践してください。3年次に始まる就職活動にむけての効果的な準備にもなります。本プログラムは、新入社員研修をはじめ企業での研修業務の経験豊富な講師が担当し、毎週2コマ連続で集中的に取り組んでいきます。	1. 社会人として活躍できる人材になるため、自分に必要なものがわかるようになる。2. 社会人や職業人に必要な考え方の理解を深め、日々の生活で意識できるようになる。3. 社会人として必要な人間関係の作り方を学び、学生時代から実践できるようになる。		○	◎

実践科目群	研究会H(大学院)	2年生	後	この講義は、大学院進学を目指している学生に対して、経営学理論を深く勉強してもらい、そのうえ、実際の問題(主要大学院の過去問や例題)を用いて、論述や和訳(英文の翻訳)を演習していきます。本年度は、経営組織、人的資源管理、生産管理、その他(イノベーション論)を主として演習を行います。また、小論文の書き方、翻訳時の注意点について説明した上、各自作成した小論文や翻訳の指導を行うほか、大学院受験のアドバイスをいたします。	1.経営学の主要論点がわかる。 2.経営学の主要理論がわかる。 3.大学院受験に要求される翻訳能力が得られる。 4.大学院受験に要求される論述能力が得られる。 5.その他、大学院受験要領がわかる。	◎	○	○
実践科目群	研究会H(金融リテラシー講座)	2年生	後	・金融に関する基礎から証券取引・投資の実際に行き届くまでを取り上げる。 ・経済の基本知識や経済情報の見方、金融の意味、金融機関、金融市場・証券市場を取り上げる。FP検定の「金融資産運用」にも密接に関連している。 ・株式・債券、投資信託の基本的説明や投資の方法、リスクとリターンなどの実際も説明する。証券市場と投資について理解できる構成である。 ・奇数回授業(1,3,5,7,9,11,13回)と14回の講師は、大和証券グループ本社で証券金融ビジネスの最前線にいる担当者である。偶数回授業(2,4,6,8,10,12回)と15回は本学教員が授業を担当する。なお、全ての授業回において本学教員が概要説明を行う。	・経済・金融教育を通じて、学生が自らの判断に基づいて行動し、主体的に生きる力を身に付けることを目的とする。・単に経済問題についての表面的な知識をつけるだけでなく、社会生活の原理原則というものを十分に理解することを目指す。	◎	○	○
実践科目群	研究会H(実践外国語)	2年生	後	英語 I および II で固めた基礎力を土台として、日常的に使われる英文や英語表現を、語学学習における4技能を通してバランスよく学習しつつ、リスニングスキルとスピーキングスキルをさらに涵養することを目指します。アクティブ・ラーニングとして、発話練習、テキストで学んだ短会話の実践なども行います。英語圏諸国の基本的文化理解も、授業時間中に適宜行います。	授業到達目標 ①日常的に使われる英文や英語表現をスムーズに発音することができる。 ②基本的な英語での質問に応答できる。 ③テキストで学習した内容・パターンに似た短い英語会話を展開することができる。 ④英語圏諸国の文化について、基本的な事項を理解することができる。 ⑤授業で学習した問題において、得点の60%程度の取得を目指す。	○	◎	○
実践科目群	研究会H(2級商業簿記)	2年生	後	学生生活の成果を資格取得という形で「見える化」することは、就職活動などの場面で説得力を増すこととなるだけでなく、成功体験が自信にもなると思います。この講義は、日商簿記検定2級商業簿記の検定試験対策を行います。全15回の講義の前半では、簿記一巡の手続きを概観したうえで、諸取引の仕訳についてしっかりと学習し、後半は決算、本文店会計、連結会計に重点を置いて演習中心で学習します。	①簿記や会計の意義を理解できる ②個人企業(初級)または中小企業(中級)レベルの記帳ができる ③個人企業(初級)または中小企業(中級)レベルの決算ができる ④日商簿記検定2級に合格できるスキルを身に付けることができる	○	◎	○
実践科目群	研究会I(旅行業務取扱管理者③)	全学年	前	当講義は、旅行業務取扱管理者試験(国内・総合)の重要科目である国内旅行実務として、JRを中心とした国内運賃および国内観光地理について、国家試験に合格するために必要なノウハウを身に付けていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・旅行業務の取引を行う上で必要不可欠なJR・国内線の計算方法を身に付けることができる。・国内の観光資源では、各観光名所をはじめ幅広い知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な基礎力から応用力まで身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。・学修を通じて、継続力・忍耐力を身に付けることができる。・自らの課題に気づき、克服するための実行力を身に付けることができる。	○	◎	○
実践科目群	研究会I(旅行業務取扱管理者④)	全学年	前	当講義は、旅行業務取扱管理者試験(総合)の重要科目である海外旅行実務について、出入国法令・出入国実務および海外観光地理を中心に国家試験に合格するために必要な知識およびノウハウを身に付けていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・出入国法令として、パスポート(旅券)の申請手続や日本帰国時の税関手続、および出入国実務として、航空時刻表の読み方の知識を身に付けることができる。・海外の観光資源では、各観光名所をはじめ幅広い知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な基礎力から応用力まで身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。・学修を通じて、継続力・忍耐力を身に付けることができる。・自らの課題に気づき、克服するための実行力を身に付けることができる。	○	◎	○
実践科目群	研究会K(生命保険総論)	全学年	前	本講義は、第一生命保険株式会社の寄附講座として開講させていただきます。民間企業での担当職務であった、教育・研修担当、新卒採用担当としての経験を活かし授業を実施したいと考えています。金融商品の一つである生命保険分野について解説し、理解を深めることを目的とします。①生命保険業界・金融業界に対する認識・理解の向上 ②生命保険分野と関連が深い社会保障制度についての理解の向上 ③金融リテラシーの向上 ④キャリア形成に対する意識の向上	①生命保険分野、損害保険分野、金融業界全般についての理解が深まり、金融商品の概要が理解できる。 ②社会保障制度についての概要を理解し、そのなかでも特に「公的年金制度」についての理解を深め、将来準備する金融商品等を理解できるようになる。 ③金融商品の特徴を理解し、「投資」と「投機」の違いを理解できるようになる。 ④自身のキャリア形成を長期的視点で考えられるようになる。	◎	○	○
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	■「卒業研究」(経済・経営学科)は、「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」、「ゼミナールⅢ」及び「ゼミナールⅣ」の単位を修得し、「ゼミナールⅤ」を履修又は単位修得していなければ提出できません。担当教員の指導のもと、別に定める要領に従って提出してください。	これまで学んできた知識をもとに、専門用語を適切に使い、自ら設定したテーマを明確に分析できる。	○	◎	○

実践科目群	卒業研究	4年生	通年	受講者が自ら選択したテーマに関して調査・分析した結果を20ページ以上の卒業論文として執筆することを最終目標とする。受講者には、ゼミナールⅣ、ゼミナールⅤおよびゼミナールⅣ(編入)、ゼミナールⅤ(編入)の授業と並行する形で、テーマ探し・テーマ選択、既存研究のサーベイ、資料・データの収集、分析、論文執筆の順番で取り組みを行うよう促すとともに、それぞれの局面毎に個別面接・個別指導を行う。論文執筆段階に入ったら、研究室や教室での指導に加え、LineやZoomを使った音声通話・ビデオ通話による指導を併用する。	・20ページ以上の卒業論文を執筆する ・論文には、問題提起、主張、根拠、参考文献を盛り込む ・他者の研究成果の利用に際しては、著作権に注意を払って、明示的な引用を行う	○	◎	○
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	■「卒業研究」(経済・経営学科)は、「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」、「ゼミナールⅢ」及び「ゼミナールⅣ」の単位を修得し、「ゼミナールⅤ」を履修又は単位修得していなければ提出できません。担当教員の指導のもと、別に定める要領に従って提出してください。		○	◎	○
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	実務家教員として金融機関に管理職含め約25年、税理士として15年(兼任)した経験を活かして理論と実践の融合したことをベースに集中講義として展開する。「卒業研究」(経済・経営学科)は、「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」、「ゼミナールⅢ」及び「ゼミナールⅣ」の単位を修得し、「ゼミナールⅤ」を履修又は単位修得していなければ提出できません。担当教員の指導のもと、別に定める要領に従って提出してください。	・卒業論文の執筆要領に基づいて、質・量を勘案しながらオリジナリティを創出しながら合格レベルのものを完成させる。	○	◎	○
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	■「卒業研究」(経済・経営学科)は、「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」、「ゼミナールⅢ」及び「ゼミナールⅣ」の単位を修得し、「ゼミナールⅤ」を履修又は単位修得していなければ提出できません。担当教員の指導のもと、別に定める要領に従って提出してください。2年生のゼミでは卒論作成のための基礎知識の習得を行ない、3年生からは卒論作成の準備作業を行ない、実際に作成を始める。	・卒論作成を通じて、適切な情報収集のやり方を習得し、収集したものの分析を行なうことができるようになる。分析したものを日本語の文章にして、論文の形にする。	○	◎	○
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	■「卒業研究」(経済・経営学科)は、「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」、「ゼミナールⅢ」及び「ゼミナールⅣ」の単位を修得し、「ゼミナールⅤ」を履修又は単位修得していなければ提出できません。担当教員の指導のもと、別に定める要領に従って提出してください。		○	◎	○
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	本授業では、①卒業論文の研究テーマが学問的意義を持ち、②先行研究の調査・収集・分析を十分にいき、③論理の展開・論証の仕方が明快であって、④独創性・創造性に富んでいる、卒業論文を作成して、その内容を広く発表することを目的とする。	1. 研究テーマの学問的意義について、具体的に説明することができる。2. 先行研究の調査・分析方法を理解・実施して、その課題について推論することができる。3. 明快な論理の展開・論証の仕方を理解し、それによって相手を説得させることができる。4. 先行研究、客観的な根拠などにもとづき、独創的・創造的な結論を述べることできる。	○	◎	○
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	■「卒業研究」(経済・経営学科)は、「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」、「ゼミナールⅢ」及び「ゼミナールⅣ」の単位を修得し、「ゼミナールⅤ」を履修又は単位修得していなければ提出できません。担当教員の指導のもと、別に定める要領に従って提出してください。		○	◎	○
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	・卒業論文の作成を行う。・就職や進学等を考慮した論文または学習の指導を行う。・卒論作成、就職活動、進学準備はいずれもプロジェクトです。卒業後に社会人として必要になるスキルであるプロジェクト計画/実施/改善スキルを身につけてもらいます(実務能力)。・大学院進学チームは、研究計画書作成を想定して卒業論文を作成する。	・論理的な考えを構築し、文章や資料としてまとめることができる。・プレゼンテーションを効果的に行うことができる。・卒業論文を作成する。・大学院進学チームは、研究基礎力・研究プロジェクトマネジメント能力を身につけることができる。	○	◎	○
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	■「卒業研究」(経済・経営学科)は、「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」、「ゼミナールⅢ」及び「ゼミナールⅣ」の単位を修得し、「ゼミナールⅤ」を履修又は単位修得していなければ提出できません。担当教員の指導のもと、別に定める要領に従って提出してください。	ゼミナールⅣ・Ⅴと同じ。	○	◎	○
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	■「卒業研究」(経済・経営学科)は、「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」、「ゼミナールⅢ」及び「ゼミナールⅣ」の単位を修得し、「ゼミナールⅤ」を履修又は単位修得していなければ提出できません。担当教員の指導のもと、別に定める要領に従って提出してください。		○	◎	○

実践科目群	卒業研究	4年生	通年	テーマ選択から調査、論文作成、作成の相談、ミニプレゼンテーションを通して、自分の主張を文書にまとめることと発表することの一連の流れを学ぶ。	卒業研究の作成を通じて、将来、社会人として自ら考え、行動する能力を養うことができる。	○	◎	○
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	■「卒業研究」(経済・経営学科)は、「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」、「ゼミナールⅢ」及び「ゼミナールⅣ」の単位を修得し、「ゼミナールⅤ」を履修又は単位修得していなければ提出できません。担当教員の指導のもと、別に定める要領に従って提出してください。		○	◎	○
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	主にスポーツビジネス領域における事業の中から研究テーマを設定し、調査を行います。随時進捗報告を積極的に行いながら、卒業論文の形式にまとめていく準備を進めましょう。1～10回で概ね研究テーマの設定と仮説の構築まで行います。11～20回では仮説が成立するかどうかを判定するために必要な資料の収集に専念します。21～30回で論文執筆を進めていきます。完全に個別対応としますので、日頃から教員とのコミュニケーションを大切にして、積極的に取り組んでください。	(1)個人研究のテーマを具体的に設定できる。(2)設定したテーマを明らかにするために必要な調査ができる。(3)研究の進捗状況を早め早めに報告できる。(4)フィードバックされた内容を反映して研究の精度を高めることができる。(5)正しい日本語表現を用いて論文にまとめることができる。	○	◎	○
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	■「卒業研究」(経済・経営学科)は、「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」、「ゼミナールⅢ」及び「ゼミナールⅣ」の単位を修得し、「ゼミナールⅤ」を履修又は単位修得していなければ提出できません。担当教員の指導のもと、別に定める要領に従って提出してください。		○	◎	○
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	■「卒業研究」(経済・経営学科)は、「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」、「ゼミナールⅢ」及び「ゼミナールⅣ」の単位を修得し、「ゼミナールⅤ」を履修又は単位修得していなければ提出できません。担当教員の指導のもと、別に定める要領に従って提出してください。	自分が興味を持った課題に対して、テーマサーベイを行う。その後、①仮説を立て、②資料やデータの調査、③考察を行い、④結論を導き出す。先行研究を十分に調べ、新規性・独自性のある考察ができれば単位認定基準をクリアできる。論文内においては、各ページにおける「注釈(引用文献)」および巻末における「参考文献」を明記し、学術論文としての体裁を整えること。	○	◎	
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	■「卒業研究」(経済・経営学科)は、「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」、「ゼミナールⅢ」及び「ゼミナールⅣ」の単位を修得し、「ゼミナールⅤ」を履修又は単位修得していなければ提出できません。担当教員の指導のもと、別に定める要領に従って提出してください。		○	◎	○
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	■「卒業研究」(経済・経営学科)は、「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」、「ゼミナールⅢ」及び「ゼミナールⅣ」の単位を修得し、「ゼミナールⅤ」を履修又は単位修得していなければ提出できません。担当教員の指導のもと、別に定める要領に従って提出してください。		○	◎	○
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	■「卒業研究」(経済・経営学科)は、「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」、「ゼミナールⅢ」及び「ゼミナールⅣ」の単位を修得し、「ゼミナールⅤ」を履修又は単位修得していなければ提出できません。担当教員の指導のもと、別に定める要領に従って提出してください。		○	◎	○
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	卒業論文を作成する。文章術を学ぶ。・論文を中心に文献購読から論文の構成を学ぶ。・データベース作り方を学習する。・講義においては、文章の基本スキルを学び、文章を書くための一定の型を覚える。キラヴァンツ北九州について問題提起し、課題を抽出したうえでデータを収集したのち、検討を加える。添削作業を繰り返しながら論文を磨いていく作業を行う。	論文を作成を目指す。論文のみならず、自分の考えが相手に伝わるような文章が書けるようになりたい。キラヴァンツ北九州の理解、スポーツの価値を対価に換える、北九州のスポーツ文化がkeywordとなりそれらを踏まえた上で自らの意見を持てるようになることを授業の目的としたい。		◎	
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2年生	前	経済の動きについて学ぶ。現代経済ではどんなことが問題になっているのか考える。	経済の動きについて過去から現在へ説明できる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2年生	前	テーマは「メディアと広告」です。日常に溢れる膨大な情報の信憑性の判断と正確な理解、そしてそれらの有効活用について、実際のニュース、広告、CM等を対象に、その内容や構造を、情報発信者・受信者双方の視点から批判的に検証します。とりわけ、広告ポスターやCMは、文学・絵画・映画等の芸術作品と同様に分析・解釈しながら、企業戦略や消費者動向との関連及び時代や社会との関連も考察します。また、情報の総合的読解力・分析力を基礎に、自ら情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションコンテンツ制作の実践もします。	1. 情報の背後に存在する伝達されなかった事実の演繹的理解ができる。 2. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる。 3. CM及びそこで用いられるキャッチコピーなどを、文学テキストの解釈と同様に、時代や社会との関連のなかで分析し解釈できる。 4. 既成概念や社会通念を批判的視座から再検証する柔軟な思考ができる。 5. 情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションを意図的に構築・実践できる。	○	◎	○

ゼミ ナール 科 目群	ゼミナール入門	2年生	前	・卒業までに到達できる目標(プロジェクト)を各自が立てて、実現していただきます。 ・ロジカルシンキング(LT)とプロジェクトマネジメント(PM)をもとに、各自のプロジェクトを実施していただきます。 ・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロジカル・シンキング(LT)や目的達成のためのプロジェクトマネジメント(PM)などを、各人の学習計画と実行に役立てます。	・ロジカルシンキング(LT)により計画を作成できる。 ・プロジェクトマネジメント(PM)により進捗を自己管理できる。 ・個別の目標達成に向けたPDCAを回すことができる。	○	◎	○
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナール入門	2年生	前	本演習では、創業から100年以上経過し「老舗」と呼ばれている企業を研究対象とする。グローバル化した現代において、長期的な視点で経営を考える機会とはほとんどなくなっている。こうした時代であるからこそ、長期にわたって存続してきた老舗企業に学び、継続することの意味を問い直す必要があるように思われる。ここでは、老舗企業を理解するうえで必要となる概念を学習する。	老舗企業の概要について理解し、説明することができる。	◎		○
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナール入門	2年生	前	教科書に基づいて、輪読します。発表者は要約(レジメ)を作成し、それ以外の学生は、複数の質問を用意して、発表者との間で質疑応答を行なってもらいます。	・卒論作成のために必要な基礎知識を修得することです。	◎	○	○
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナール入門	2年生	前	経営管理、マーケティングなど企業活動についての基礎知識を養うとともに、対象とする業界や企業に関する問題や課題、その取り組みについて考察を行います。業界や企業の活動状況を捉えることにより、企業活動について学習するとともに、データを分析する方法、研究結果から経営状態を読み取る力を身に付けることを目標とします。	・問題認識、データ収集、データ分析、レポート作成、発表などのスキルを身に付ける。 ・グループワークやディスカッションに参加することで自分の意見を伝えることができる。	○	○	◎
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナール入門	2年生	前	本授業では、複式簿記の構造について理解する。加えて、その応用として問題基盤型学習、サービスマーケティングなどを取り入れて実践を図り、地域連携・地域貢献活動を行う。前者では日商簿記検定試験合格などを手段として、複式簿記の構造について追究する。後者では産学官連携活動および域学連携活動を実施する。産学官連携活動では地方公共団体や公共性・公益性が高い企業と共に、域学連携活動では地域住民や商店街などと共に、調査・分析を行い、その結果について発表する。	1. 複式簿記の構造について、具体的に説明することができる。 2. 営利企業の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、解釈することができる。 3. アンケート調査をおこない、その結果をレポートにまとめ、発表することができる。 4. 地域社会の現状と課題について、経営学の観点から、具体的に述べる事ができる。 5. 地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。 6. 大学での学びを社会貢献活動と関係づけることができる。	○	◎	○
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナール入門	2年生	前	このゼミでは、地球環境と地球温暖化およびその緩和と政策・技術について学ぶ。 2030年が人類存続の分岐点であることは専門家による研究によって客観的に明らかにされ、それに基づいたNHKの特番によって一般市民に知られている。 2030年の地球平均気温が産業革命以前の地球平均気温より2℃以上上昇すると、地球の気温は不可逆的に上昇し続ける。この状況下において、幅広いグローバルな視点を養うのがこのゼミの目標である。 そのため幅広い内容の文献を輪読し、必要に応じて映像を視聴する。2年前期では、現在の地球環境問題の基礎を学ぶ。	地球環境が逼迫した状況であることを科学的知見に基づいて再認識する。 地球環境問題とくに地球温暖化のメカニズムについて理解する。 地球環境問題を緩和するための政策と技術の基礎を理解する。 地球環境問題を緩和するために先進国と新興国、発展途上国の国際的役割について考察する。 企業の環境への配慮について理解する。 世界の政治経済の動きを敏感に感じ取り、環境の観点からそれに対して自分の意見が持てる。 ISO14001環境マネジメント内部監査員の資格取得を可能とする知識と素養を身に付ける。 ISO9001品質マネジメント内部監査員の資格取得を可能とする知識と素養を身に付ける。	○	○	◎
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナール入門	2年生	前	「日本企業の経営戦略について知る・学ぶ」をテーマとした演習を行います。2年前期は、興味・関心のある企業を選んで簡易な企業レポートの作成に挑戦し、企業を理解しようとするとき、必ず注目すべき要点について学習します。2年後期は、『教科書(後日指定)』を主な題材としてレジュメ作成・購読・討論を行うことにより、企業分析の方法を理解すると共に、自分の主張を明確かつ論理的展開できるコミュニケーション能力の向上の向上を目指します。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。 ・卒業論文作成の前段階として、企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する基礎レベルのレポートを作成することができる。 ・グループの中で計画的かつ協力的に目的とする課題遂行に取り組む、その中でも自分の意見・主張を積極的に述べることができる。	◎	○	○
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナール入門	2年生	前	ゼミナール入門では、大学で学問を修めるための研究方法の基本について学びます。本ゼミでは「スポーツビジネス」の分野を主に研究の対象とし、個人研究及びグループ研究(ビジネススキルの修得)の双方を行います。個人研究の面では実際にスポーツビジネスに携わってきた経験を生かして、具体的なビジネスモデルの考案に関するサポートを行います。グループ研究では私の人脈を生かして外部の企業と繋がりながら社会人基礎力の向上を図るプロジェクトにチャレンジしていきます。	(1)スケジュールを管理することができる。(2)ビジネスのコンテンツとしてのスポーツについて説明できる。(3)スポーツに関わる仕事に就くというイメージを持つことができる。(4)スポーツイベントの運営を補助することができる。	◎	○	○
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナール入門	2年生	前	企業の脱税、粉飾決算、偽装表示といった事件を新聞やニュースで見聞きしたことがあると思いますが、なぜこのような違法行為を行う企業が後を絶たないのでしょうか。本ゼミでは、その原因やメカニズムを決算書や裁判例を基に分析し、会社法を中心とした企業法の観点から企業不祥事の防止について考えていきます。まず、分析するために必要な知識として、決算書が理解できるようになります。次に法的問題点について理解できるように企業法の基礎について学びます。	①ビジネスパーソンとして実践的な法律知識を学ぶことができる。 ②企業法に位置づけられる各法律の考え方や会計との関連性を理解することができる。 ③決算書より財務体質や法的問題点を読み取り問題解決力を身につけることができる。	◎	○	○

ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2年生	前	実務家教員として金融機関に管理職含め25年、税理士として15年(兼任)の経験を活かし理論と実践の融合を図る授業を展開する。会計は、①企業などの経済主体や、そのなかで働く人々の活動を一定のメカニズムに従ってさまざまな数値に写しとる行為である。②言語の存在しない世界はなく、企業や産業界には事業の言語としての会計が存在する。③企業の価値観や判断、戦略を映し出す鏡であり、それを可能にするのが、会計が柔軟な秩序システムを持っているからである。本ゼミでは、上記の3つを基本としてビジネスパーソンに必要な会計知識をテキスト、日経新聞、PBLなどから学んでいく。一方で、関連する資格取得(簿記やFPなど)の教育も行う。	1. 会計の理論や歴史から実務事例までを理解することができる。 2. 企業活動への影響を多面的にとらえることができる。 3. 会計の知識をいかに企業価値に向けて戦略的に活用できるかを説くことができる。 4. レジュー作成によるプレゼンテーション能力やディスカッション能力および協調性などの醸成を図ることができる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2年生	前	就職活動および公務員試験などに関する理解を深めるだけでなく、それらに対する対策演習を行っています。また、SPI対策などの演習を実施することで、問題慣れするとともに知識を深めてもらいます。なお、必要に応じて、個別面談や履歴書等の書類を作成・指導していきます。	①SPIに関する過去問などの演習問題に解答できるだけの知識を身につける。 ②就職活動などで必要なコミュニケーション能力を実践できるようにする。 ③就職活動の情報などを適切に分析・判断できる能力を身につける。 ④社会の問題点を見出し、それに対する解決方法を提案できるだけでなく実践力を習得する。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2年生	前	就職するため、仕事をするために役立つ資格に簿記検定があります。会社を見極めるために必要な知識として、2年生のうちから簿記検定を学習することはとても大切なことです。ゼミナール入門及びゼミナール1において、日商簿記検定2級の受験を目標とし、日商簿記検定2級向けの対策講義と演習を実施します。また、コミュニケーションスキルを身につけるため、発表会なども適宜実施します。日商簿記検定対策講義は、受験希望級に沿って3学年合同で実施します。	1.簿記の知識を身につけて、説明ができるようになる。 2.会社四季報に記載されている、財務諸表の内容が理解できるようになる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2年生	前	スポーツやイベントを通じた「人と人のコミュニケーションのあり方」について学び、体験して行く。教科書や書籍を通じて学ぶことも大切だが、カラダを動かすこと、学外の人と接すること、イベントを実際に運営することなど、地域や社会の中に学生の発想や活力を発信するような活動を行う。ゼミを通じて「自分の頭でしっかり考えること」「わからない事は、スマホの検索ではなくきちんと調べること」「ゼミのメンバーとはきちんとコミュニケーションを取ること」の三つを基本とする。	ゼミ生として社会で役に立つ「生きる力」を身につけられるようにする。 1. 基本の習得 ・社会人として必須の「読み、書き、そろばん(ITリテラシー)」を身につける。 ・自分の頭で考え、自分の言葉で文章を書いたり伝えたりできるようにする。 2. 授業での実践 ・スポーツの持つ力やイベントを通じた参加者同士、地域のつながりを体感できるようにする。 ・一つひとつのイベント企画や運営に対しても、知恵を使い、工夫をこらし、感動を生み出すことのできる実力をつけられるようにする。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2年生	前	(ゼミのテーマ)「プロスポーツビジネスの考察」(学習の内容) サッカーJ2リーグ、ギラヴァンツ北九州の取り組みを考察するとともに、新たな発展について検討することを目的とします。具体的にはギラヴァンツ北九州の経営理念と実際の経営活動について検証します。例えば、クラブと北九州市の連携がいかに行われているか。更に掘り下げれば、サッカースクール事業、地元小中学校との連携、小倉など地域の商店街とのつながり、広報活動の比較評価等であります。これらを検証していくことで新たな問題を提起します。	1)プロスポーツを理解できるようになる。 2)ギラヴァンツ北九州の取り組みから具体的な経営が理解できるようになる。		○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2年生	前	本ゼミナールでは私たちの生活と環境問題との関わりを考察しながら、環境問題が発生する原因とメカニズム、環境問題を解決するための基本的な考え方や環境政策手段についての基礎理論を学ぶ。環境経済学に関する文献を輪読することにより、その概念や専門用語を理解するとともに、経済発展と環境問題との関係や環境政策について学び、環境問題を経済学的なアプローチにより考察する。環境経済学に関連する文献の輪読を通じて、理論的・実践的にその内容を理解する能力を養い、環境問題の現状や課題等について検討する。	① 経済学的应用を通じて、環境・エネルギー問題の現状と課題、政策の意義・役割について理解できる。 ② 環境問題について多角的な視点から捉えることができる。 ③ 環境問題解決のための方策を自分なりに提言することができる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2年生	前	本講義のポイントは以下の4点です。①自己分析(SWOT分析)、自己紹介を行う。ゼミナールにおける役割を確認する。②リーディングレテラシーの技法(シカゴ・メソッド)を習得する。③公務員試験の文章理解の過去問で②の習得トレーニングを行う。④法学の基礎知識や法的思考(リーガルマインド)を習得する。担当教員は、長年、大手公務員試験専門学校(現)の主任講師を務め、また、法科大学院受験者の適性試験・論文作成指導の経験もある。これらの実務経験を活かした指導により、論理的思考能力を深める。	①自分自身や自分が置かれている環境を客観的に理解し説明できるようにする。 ②自分の考えを論理的に表現し、周囲に説明できるようにする。 ③論理的な文章を正確に読解できるようになる。 ④法学の基礎知識を法的な思考を用いて説明できるようにする。		○	◎

ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2年生	前	本講義では、学生生活の中で、自らデザインした人生へ向かうための方向性を見据えるため、自分の目標を小刻みに設定し到達していくプロセスを学ぶ。目標を「長期目標」「中期目標」「短期目標」に分け、「自分がいま何をすべきか？」を問い設計する。履歴書や論文など、自分の成果物の選捗具合をpptなどで報告し、様々な見識を養いながら、今後の方向性を検討する。複数回の発表を行い、自分のアイデアをブラッシュアップする。他者の表現からも、自分の学びについて吸収できるような機会とする。	①:自分自身の「大学時代の生活」を俯瞰的かつ戦略的にデザインし、その進捗状況を報告できるようになる。②:「ことば」(ppt、声)を使った表現を、積極的にこなすようになる。③:卒業までの成果物作成に対し、積極的姿勢を持てるようになる。④:他者の発表や表現について、建設的なコメントができるようになる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナール入門(春編留)	2年生	前	テーマは「メディアと広告」です。日常に溢れる膨大な情報の信憑性の判断と正確な理解、そしてそれらの有効活用法について、実際のニュース、広告、CM等を対象に、その内容や構造を、情報発信者・受信者双方の視点から批判的に検証します。とりわけ、広告ポスターやCMは、文学・絵画・映画等の芸術作品と同様に分析・解釈しながら、企業戦略や消費者動向との関連及び時代や社会との関連も考察します。また、情報の総合的読解力・分析力を基礎に、自ら情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションコンテンツ制作の実践もします。	1. 情報の背後に存在する伝達されなかった事実の演繹的理解ができる。 2. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる。 3. CM及びそこで用いられるキャッチコピーなどを、文学テキストの解釈と同様に、時代や社会との関連のなかで分析し解釈できる。4. 既成概念や社会通念を批判的視点から再検証する柔軟な思考ができる。5. 情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションを意図的に構築・実践できる。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナール入門(秋編留)	3年生	前	ヒト、モノ、カネ、情報が容易に国境を越えて移動するグローバル化という現象は、世界に大きな影響を及ぼし始めている。グローバル化は経済だけでなくあらゆる分野に変化を求めている。本演習では母国を離れて生活する留学生の皆さんが、日本の経済や文化などを多角的かつ客観的に検証しながら、母国と比較して考えていく。	グローバル化が、広い視野に立つて考えなければならない現象であるということを理解できる。また、グローバル化に対応するため、自分が最も関心のある専門分野だけでなく、外国語や外国の文化などにも関心を持ち、学習の幅を広げることができる。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2年生	後	「日本企業の経営戦略について知る・学ぶ」をテーマとした演習を行います。2年前期は、興味・関心のある企業を選んで簡易な企業レポートの作成に挑戦し、企業を理解しようとするとき、必ず注目すべき要点について学習します。2年後期は、『教科書(後日指定)』を主な題材としてレジュメ作成・購読・討論を行うことにより、企業分析の方法を理解すると共に、自分の主張を明確かつ論理的展開できるコミュニケーション能力の向上を目指します。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文作成の前段階として、企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する基礎レベルのレポートを作成することができる。・グループの中で計画的かつ協力的に目的とする課題遂行に取り組む、その中でも自分の意見・主張を積極的に述べることができる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2年生	後	企業の脱税、粉飾決算、偽装表示といった事件を新聞やニュースで見聞きしたことがあると思いますが、なぜこのような違法行為を行う企業が後を絶たないのでしょうか。本ゼミでは、その原因やメカニズムを決算書や裁判例を基に分析し、会社法を中心とした企業法の観点から企業不祥事の防止について考えていきます。ゼミナール入門で身に付けた知識を活かし、前半は事例や裁判例の検討を行っていきます。後半は、いよいよゼミ研究の準備に入ります。	①ビジネスパーソンとして実践的な法律知識を学ぶことができる。②企業法に位置づけられる各法律の考え方や会計との関連性を理解することができる。③決算書より財務体質や法的問題点を読み取り問題解決力を身につけることができる。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2年生	後	本授業では、複式簿記の構造について理解する。加えて、その応用として問題基盤型学習、サービスマーケティングなどを取り入れて実践を図り、地域連携・地域貢献活動を行う。前者では日商簿記検定試験合格などを手段として、複式簿記の構造について追究する。後者では産学官連携活動および域学連携活動を実施する。産学官連携活動では地方公共団体や公共性・公益性が高い企業と共に、域学連携活動では地域住民や商店街などと共に、調査・分析を行い、その結果について発表する。	1. 複式簿記の構造について、具体的に説明することができる。2. 営利企業の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、解釈することができる。3. アンケート調査をおこない、その結果をレポートにまとめ、発表することができる。4. 地域社会の現状と課題について、経営学の観点から、具体的に述べるることができる。5. 地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。6. 大学での学びを社会貢献活動と関係づけることができる。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2年生	後	本演習では、創業から100年以上経過し「老舗」と呼ばれている企業を研究対象とする。グローバル化した現代において、長期的な視点で経営を考える機会がほとんどなくなっている。こうした時代であるからこそ、長期にわたって存続してきた老舗企業に学び、継続することの意味を問い直す必要があるように思われる。ここでは、老舗企業の具体的な事例を考察する。	老舗企業の概要について理解し、説明することができる。		◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2年生	後	就職活動および公務員試験などに関する理解を深めるだけでなく、それらに対する対策演習を行っていきます。また、公務員試験(初級)対策などの演習を実施することで、問題に慣れるとともに知識を深めてもらいます。なお、必要に応じて、面談や履歴書等の書類を作成・指導していきます。	①公務員試験(初級)に関する過去問などの演習問題に解答できるだけの知識を身につける ②就職活動などで必要なコミュニケーション能力を実践できるようにする ③就職活動の情報などを適切に分析・判断できる能力を身につける ④社会の問題点を見出し、それに対する解決方法を提案できるだけでなく実践力を習得する。	◎	○	○

ゼミ ナル科 目群	ゼミナル I	2年生	後	経営管理、マーケティングなど企業活動についての基礎知識を養うとともに、対象とする業界や企業に関する問題や課題、その取り組みについて考察を行います。業界や企業の活動状況を捉えることにより、企業活動について学習するとともに、データを分析する方法、研究結果から経営状態を読み取る力を身に付けることを目標とします。	・問題認識、データ収集、データ分析、レポート作成、発表などのスキルを身に付ける。 ・グループワークやディスカッションに参加することで自分の意見を伝えることができる。	○	○	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナル I	2年生	後	このゼミでは、地球環境と地球温暖化およびその緩和政策・技術について学ぶ。2030年が人類存続の分岐点であることは専門家による研究によって客観的に明らかにされ、それに基づいたNHKの特番によって一般市民に知れ渡っている。2030年の地球平均気温が産業革命以前の地球平均気温より2℃以上上昇すると、地球の気温は不可逆的に上昇し続ける。この状況下において、幅広いグローバルな視点を養うのがこのゼミの目標である。そのため幅広い内容の文献を輪読し、必要に応じて映像を視聴する。2年後期では、現在の地球環境研究の最前線について概観する。	地球環境が逼迫した状況であることを科学的知見に基づいて再認識する。地球環境問題とくに地球温暖化のメカニズムについて理解する。地球環境問題を緩和するための政策と技術の基礎を理解する。地球環境問題を緩和するために先進国と新興国、発展途上国の国際的役割について考察する。企業の環境への配慮について理解する。世界の政治経済の動きを敏感に感じ取り、環境の観点からそれに対して自分の意見が持てる。ISO14001環境マネジメント内部監査員の資格取得を可能とする知識と素養を身に付ける。ISO9001品質マネジメント内部監査員の資格取得を可能とする知識と素養を身に付ける。	○	○	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナル I	2年生	後	ゼミナル I は、演習形式の授業です。前期から取り組んできたテーマに取り組みながら、社会人基礎力を高めていきます。指導教員は、民間企業や一般社団法人の経営に携わってきた経験を生かして、「どのような人材が今求められているか？」という視点から実践的なアドバイスをしていきます。特にITの活用が一般化されている今日における社会人基礎力とはどのようなものか？最新の情報を織り交ぜながら、就活にも役立つ実践的スキルを高めていきます。＊実際のテーマは個人面談により『ゼミナル入門』で決定し、学生研究報告会で発表してもらいます。	(1)成果目標を明確に設定し、目標達成のためにクリアしなければならない課題を見つけることができる。(2)それらの課題を解決する具体的な方法を立案できる。(3)計画的に行動を実践し、結果を出して報告することができる。(4)活動を振り返り、内容について考察を加えることができる。(5)上記の内容をプレゼンテーション資料にまとめ、人前で分かりやすくプレゼンテーションすることができる。	○	◎	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナル I	2年生	後	ゼミナル入門で得た知識や技能を活用しながら、スポーツビジネスやイベントについてさらに実践経験を積む。企画段階からプロジェクトに参加し、それぞれのイベントスタッフとして実施に当たる。福原学園の3幼稚園でのラグビー体験については、2年生が主体となって園側と交渉を行い、前期のプログラムを発展させた形で2回目の体験教室を開催する。適宜リモート講義を導入し、第一線で活躍する社会人からの刺激を受ける。	ゼミ生として社会で役に立つ『生きる力』を身につけられるようにする。1. 基本の習得 ・社会人として必須の「読み、書き、そろばん(ITリテラシー)」を実践的に身に付ける。 ・個人発表やプレゼンテーションの機会を増やし、自分の言葉で文章を書いたり、資料をまとめ訓練とする。2. 授業での実践 ・スポーツの持つ力やイベントを通じた参加者同士、地域のつながりを体感できるようにする。 ・一つひとつのイベント企画や運営に対しても、これまでの経験を生かし、さらに知恵と工夫によって感動を生み出すことのできる実力をつけられるようにする。	○	○	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナル I	2年生	後	実務家教員として金融機関に管理職含め25年、税理士として15年(兼任)の経験を活かし理論と実践の融合を図る授業を展開する。会計は、①企業などの経済主体や、そのなかで働く人々の活動を一定のメカニズムに従ってさまざまな数値に写しとる行為である。②言語の存在しない世界はなく、企業や産業社会には事業の言語としての会計が存在する。③企業の価値観や判断、戦略を映し出す鏡であり、それを可能にするのが、会計が柔軟な秩序システムを持っているからである。本ゼミでは、上記の3つを基本としてビジネスパーソンに必要な会計知識をテキスト、日経新聞、PBLなどから学んでいく。一方で、関連する資格取得(簿記やFPなど)の教育も行う。	1. 会計の理論や歴史から実務事例までを理解することができる。2. 企業活動への影響を多面的にとらえることができる。3. 会計の知識をいかに企業価値に向けて戦略的に活用できるかを説くことができる。4. レジュー作成によるプレゼンテーション能力やディスカッション能力および協調性などの醸成を図ることができる。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナル I	2年生	後	(ゼミのテーマ)「プロスポーツビジネスの考察」(学習の内容)サッカーJ2リーグ、ギラヴァンツ北九州の取り組みを考察するとともに、新たな発展について検討することを目的とします。具体的にはギラヴァンツ北九州の経営理念と実際の経営活動について検証します。例えば、クラブと北九州市の連携がいかに行われているか、更に掘り下げていけば、サッカースクール事業、地元小中学校との連携、小倉など地域の商店街とのつながり、広報活動の比較評価等であります。これらを検証していくことで新たな問題を提起します。	1)プロスポーツを理解できるようになる 2)ギラヴァンツ北九州の取り組みから具体的な経営が理解できるようになる		○	◎



ゼミナール科目群	ゼミナール I	2年生	後	就職するため、仕事をするために役立つ資格に簿記検定があります。会社を見極めるために必要な知識として、2年生のうちから簿記検定を学習することはとても大切なことです。ゼミナール入門及びゼミナール I において、日商簿記検定2級を受験を目標とし、日商簿記検定2級向けの対策講義と演習を実施します。また、コミュニケーションスキルを身につけるため、発表会なども適宜実施します。日商簿記検定対策講義は、受験希望級に沿って3学年合同で実施します。	1.簿記の知識を身につけて、説明ができるようになる。2.会社四季報に記載されている、財務諸表の内容が理解できるようになる。3.2月実施の日商簿記検定2級を受験をできるレベルまで知識を深める。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2年生	後	本講義では、大学生活の学びをより豊かにするために、学問のフレームワークの習得を目標とする。自身の成果物作成の進捗状況を俯瞰的に把握するため、出席者による発表を行う。他者からのフィードバックを参考に、自らの方向性を見定める。また、他者の発表に対して、積極的に建設的に意見をすることで、表現力やコミュニケーション力を高める。	①:pptを使用して、視覚的要素を意識しながらの発表力が習得できる。②:他者の発表にコメントするためのコミュニケーション力を身につける。③:自分自身の研究テーマや構成を、より具体的に設定できる。④:卒業までの成果物作成に対し、積極的姿勢を持てるようになる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2年生	後	・自ら、3年間かけて到達する目標を立てて、実現することを目指していただきます。・自らが立てた計画に基づいて進めてもらいます。社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけてもらうこともゼミの目的です。・そのためにロジカルシンキングとプロジェクトマネジメントの基本スキルを身に付けていただきます。・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロジカル・シンキングや目的達成のためのプロジェクト管理技法などを、各人の学習計画と実行に役立てます。	・分析可能な具体的なテーマを設定することができる。・必要な分析フローや採用すべき分析手法など計画することができる。・チーム内でコミュニケーションを取りながら、責任をもって担当を遂行することができる。・チーム別に活動を通じて個別の目標達成に向けたPDCAを回せるようになる。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2年生	後	本ゼミナールでは、環境保全と経済活動の密接な関係や様々な環境問題を分析するために必要とされる経済学的手法を学ぶ。ここでは環境経済学の課題を幅広く理解し、実践に活かせる問題解決能力を養う。様々な環境問題と私たちの生活や社会との関わりを考察しながら、環境問題が発生する原因とメカニズム、環境問題を解決するための基本的な考え方や環境政策手段についての基礎理論を学ぶ。環境経済学に関連する文献の輪読やフィールドワークなどを通じて、理論的・実践的にその内容を理解する能力を養い、環境問題の現状や課題等について検討する。	① 経済学的应用を通じて、環境・エネルギー問題の現状と課題、政策の意義・役割について理解できる。② 環境問題について多角的な視点から捉えることができる。③ 環境問題解決のための方策を自分なりに提言することができる。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2年生	後	ゼミナール入門に引き続き、憲法の基本論点について、解説を行っていきます。特に、現代社会において注目されている課題について取り上げ、各テーマの該当判例についても解説していきます。担当教員は、長年にわたり民間企業(金融機関含む)の取締役、複数の地方自治体の専門委員、大手公務員受験指導専門学校における主任講師を務めた経験を有しており、履修者のニーズに合った教育内容の提供および相談対応を行うことができます。	①基礎文献の内容を正確に理解し、他のゼミ生との議論の中で、発展的に説明できるようになる。②広く現代社会の法的問題に関心を持ち、自己の意見を持ち、意見を述べるようになる。③ケーススタディに取り組み、資料をプレゼン資料にまとめ、効果的に説明できるようになる。	◎	○	
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2年生	後	テーマは「メディアと広告」です。日常に溢れる膨大な情報の信憑性の判断と正確な理解、そしてそれらの有効活用法について、実際のニュース、広告、CM等を対象に、その内容や構造を、情報発信者・受信者双方の視点から批判的に検証します。とりわけ、広告ポスターやCMは、文学・絵画・映画等の芸術作品と同様に分析・解釈しながら、企業戦略や消費者動向との関連及び時代や社会との連関も考察します。また、情報の総合的読解力・分析力を基礎に、自ら情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションコンテツ制作の実践もします。	1. 情報の背後に存在する伝達されなかった事実の演繹的理解ができる。2. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる。3. CM及びそこで用いられるキャッチコピーなどを、文学テキストの解釈と同様に、時代や社会との連関のなかで分析し解釈できる。4. 既成概念や社会通念を批判的視座から再検証する柔軟な思考ができる。5. 情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションを意図的に構築・実践できる。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナール I	2年生	後	現代経済の流れを大きく理解する。現代経済の問題は何か、理解する。	経済の動きについて、過去から現在へ説明できる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナール I (春編留)	2年生	後	テーマは「メディアと広告」です。日常に溢れる膨大な情報の信憑性の判断と正確な理解、そしてそれらの有効活用法について、実際のニュース、広告、CM等を対象に、その内容や構造を、情報発信者・受信者双方の視点から批判的に検証します。とりわけ、広告ポスターやCMは、文学・絵画・映画等の芸術作品と同様に分析・解釈しながら、企業戦略や消費者動向との関連及び時代や社会との連関も考察します。また、情報の総合的読解力・分析力を基礎に、自ら情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションコンテツ制作の実践もします。	1. 情報の背後に存在する伝達されなかった事実の演繹的理解ができる。2. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる。3. CM及びそこで用いられるキャッチコピーなどを、文学テキストの解釈と同様に、時代や社会との連関のなかで分析し解釈できる。4. 既成概念や社会通念を批判的視座から再検証する柔軟な思考ができる。5. 情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションを意図的に構築・実践できる。	○	◎	○

ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3年生	前	ゼミナールでは、経営学とその応用した分野についての学習と研究をします。その手始めとして、産業界の現状や経営学理論から、自分にとって興味があるテーマを決めてもらいます。その際、関連の先行研究を学習することにより、問題意識(自分の問い)と研究の焦点を明確にします。また、各自の研究の焦点についての学習と研究を深めたのち、最終的には、卒業論文もしくはゼミ研究レポートを作成していきます。	1.企業や業界の現状について理解できる。2.経営学の知識を応用することができる。3.レポートの書き方がわかる。4.文章記述や発表能力を高めることができる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3年生	前	実務家教員として金融機関に管理職兼め25年、税理士として15年(兼任)の経験を活かし理論と実践の融合を図る授業を展開する。会計は、①企業などの経済主体や、そのなかで働く人々の活動を一定のメカニズムに従ってさまざまな数値に写しとる行為である。②言語の存在しない世界はなく、企業や産業社会には事業の言語としての会計が存在する。③企業の価値観や判断、戦略を映し出す鏡であり、それを可能にするのが、会計が柔軟な秩序システムを持っているからである。本ゼミでは、上記の3つを基本としてビジネスパーソンに必要な会計知識をテキスト、日経新聞、PBLなどから学んでいく。一方で、関連する資格取得(簿記やFPなど)の教育も行う。	1. 会計の理論や歴史から実務事例までを理解することができる。2. 企業活動への影響を多面的にとらえることができる。3. 会計の知識をいかに企業価値に向けて戦略的に活用することかを説くことができる。4. レジュメ作成によるプレゼンテーション能力やディスカッション能力および協調性などの醸成を図ることができる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3年生	前	卒論構想の発表者は要約(レジメ)を作成し、それ以外の学生は発表を聞いて、その場で質問をしてもらいます。発表者は、その質問にその場で回答を行なってもらいます。	・その場で質問をすることを通じて、何が重要であるのかを理解する能力を修得できます。・発表者は十分な準備を行なうことの重要性を体得できます。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3年生	前	本授業では、複式簿記の構造について理解する。加えて、その応用として問題基盤型学習、サービスマーケティングなどを取り入れて実践を図り、地域連携・地域貢献活動を行う。前者では日商簿記検定試験合格などを手段として、複式簿記の構造について追究する。後者では産学官連携活動および域学連携活動を実施する。産学官連携活動では地方公共団体や公共性・公益性が高い企業と共に、域学連携活動では地域住民や商店街など共に、調査・分析を行い、その結果について発表する。	1. 複式簿記の構造について、具体的に説明することができる。2. 営利企業の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、解釈することができる。3. アンケート調査をおこない、その結果をレポートにまとめ、発表することができる。4. 地域社会の現状と課題について、経営学の観点から、具体的に述べることができる。5. 地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。6. 大学での学びを社会貢献活動と関係づけることができる。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3年生	前	経営管理、マーケティングなど企業活動についての基礎知識を養うとともに、対象とする業界や企業に関する問題や課題、その取り組みについて考察を行います。業界や企業の活動状況を捉えることにより、企業活動について学習するとともに、データを分析する方法、研究結果から経営状態を読み取る力を身につけることを目標とします。本ゼミナールでは、企業経営において必要な会計と税金の関わりについて学び、税務会計の基礎知識を身につけるためにグループワークを通して研究・発表を行います。	・問題認識、データ収集、データ分析、レポート作成、発表などのスキルを身につける。・グループワークやディスカッションに参加することで自分の意見を伝えることができる。・企業経営に必要な税務会計の基礎知識を身につける。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3年生	前	・金融基礎理論チーム、資格取得チーム、および実践学習チームに分けてゼミ活動を行う。・金融基礎チームはテキストおよび各種資料(統計/ニュース・記事等)を通じて学ぶ。・資格取得チームは学習方法について検討を行ったあと、実践的な学習内容に入る。・実践学習チームは、社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけてもらいます。・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロジカル・シンキングや目的達成のためのプロジェクト管理技法などを、各人の学習計画と実行に役立てます。	・プライベート・ファイナンス・チームは、FPの全体像について理解したうえで、各細分野の重点事項を深いレベルで理解できることを目的とする。・金融基礎チームは、理論とデータ、世の中の現実から金融現象を観察する力を養うこと、を目的とする。・実践学習チームは活動を通じてプロジェクト・マネジメントの基礎を習得し、PDCAを回せるようになる。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3年生	前	本演習では、ゼミナールⅠに引き続き、老舗企業を研究対象とする。長期にわたって存続してきた秘訣を探りつつ、企業にとって継続することの意味を考える。ここでは、老舗企業の具体的な事例を考察する。	老舗企業が存続できた要因を理解し、そこから各自の見方・考え方を形づけることができる。		◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3年生	前	企業の脱税、粉飾決算、偽装表示といった事件を新聞やニュースで見聞きしたことがあると思いますが、なぜこのような違法行為を行う企業が後を絶たないのでしょうか。本ゼミでは、その原因やメカニズムを決算書や裁判例を基に分析し、会社法を中心とした企業法の観点から企業不祥事の防止について考えていきます。ゼミナールⅠで身につけた法律や決算書の読み方に関する知識に基づいて、研究に入っていきます。	①ビジネスパーソンとして実践的な法律知識を学ぶことができる。②企業法に位置づけられる各法律の考え方や会計との関連性を理解することができる。③決算書より財務体質や法的問題点を読み取り問題解決力を身につけることができる。④プレゼンテーション能力を身につけることができる。	○	◎	○

ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3年生	前	本演習では、「日本企業の経営戦略分析レポート」の作成をおこないます。3年次配当の本演習では、2年前期におこなった戦略の「簡易分析」をグレードアップさせる形で日本の「今現在の」優良企業／話題の企業について経営戦略、あるいは経営現象についての分析を行います。3年前期に行う企業・経営研究は、3年後期に行われる「学生研究報告会」での発表を旨とします。また、3年後期はこれまでの学習成果を基に各自『卒業論文』の作成準備・執筆に着手していきます。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文作成の前段階として、企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する基礎レベルのレポートを作成することができる。・グループの中で計画的かつ協力的に目的とする課題遂行に取り組む、その中でも自分の意見・主張を積極的に述べることができる。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3年生	前	就職活動および公務員試験などに関する理解を深めるだけでなく、それらに対する対策演習を行います。また、毎回、就職試験対策などの演習を実施することで、問題慣れするとともに知識を深めてもらいます。なお、必要に応じて、個別面談や履歴書等の書類を作成・指導していきます。	①就職活動などで必要なコミュニケーション能力を実践できるようにする ②就職活動の情報などを適切に分析・判断できる能力を身につける ③社会の問題点を見出し、それに対する解決方法を提案できるだけでなく実践力を習得する。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3年生	前	このゼミでは、地球環境と地球温暖化およびその緩和政策・技術について学ぶ。2030年が人類存続の分岐点であることは専門家による研究によって客観的に明らかにされ、それに基づいたNHKの特番によって一般市民に知れ渡っている。2030年の地球平均気温が産業革命以前の地球平均気温より2℃以上上昇すると、地球の気温は不可逆的に上昇し続ける。この状況下において、幅広いグローバルな視点を養うのがこのゼミの目標である。そのため幅広い内容の文献を輪読し、必要に応じて映像を視聴する。2年後期では、現在の地球環境研究の最前線について概観する。	地球環境が逼迫した状況であることを科学的知見に基づいて再認識する。地球環境問題とくに地球温暖化のメカニズムについて理解する。地球環境問題を緩和するための政策と技術の基礎を理解する。地球環境問題を緩和するために先進国と新興国、発展途上国の国際的役割について考察する。企業の環境への配慮について理解する。世界の政治経済の動きを敏感に感じ取り、環境の観点からそれに対して自分の意見が持てる。ISO14001環境マネジメント内部監査員の資格取得を可能とする知識と素養を身につける。ISO9001品質マネジメント内部監査員の資格取得を可能とする知識と素養を身につける。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3年生	前	2年生でのゼミナール入門、ゼミナールⅠでの学修内容、経験を生かし、さらに広い範囲を視野に入れつつ、活動の深掘りもできるようにする。コミュニケーション能力の向上に力を入れ、色んな場面での発信力のスキルアップを図る。就職活動に役立つ面接練習やプレゼンテーションの精度も高め、社会人になっても通用するスキルとして習得する。「はじめてのラグビー体験」は2年生に引継ぎを行う。	スポーツのチームや施設について自主的に学び、関連するイベントについても企画、運営できるようにする。ゼミ内はもちろん、ゼミ外、学外のコミュニケーションについても、円滑に行えるようにする。グループワークやプレゼンテーションを通じて、考える力、伝える力を身につける。実践的な面接やグループワークに対応できる力をつける。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3年生	前	新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐための学内外の措置により、ここ3年間はほぼ全てのスポーツイベントが中止となりました。この遅れを取り戻すために、今年は現在取り組んでいる個人課題の解決に向けて学外の各種コンテスト(ビジネスプランコンテスト、社会人基礎力育成GP、エッセイ・フォトコンテスト等)に積極的にチャレンジしていきます。これまでにやってきたベンチャーGPの審査員や企業・個人のコンサルティング経験を生かして皆さんのチャレンジを具体的にサポートします。	(1)スポーツをコンテンツとしたビジネスの可能性について論じることができる。(2)スポーツビジネスの身近な事例を具体的に3つ以上説明できる。(3)スポーツに関わる仕事を視野に入れて企業研究ができる。(4)授業で紹介された実際のスポーツビジネスの事例をより深く理解するための質問を最低3つ考えることができる。(5)スポーツをコンテンツとしたビジネス案件を1件以上担当する。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ	3年生	前	自身の就職目標に必要な資格やスキルを身につけてもらいます。就職活動で必須となる会社分析を行うため、会社四季報を読み取れるようになるよう指導します。企業分析を行った結果、興味のある業界について発表をしていただきます。日商簿記検定やFP検定などの資格取得は積極的に行っていただきます。また、履歴書を使用した面接練習などの就職活動に向けたトレーニングも実施します。日商簿記検定対策講義は、受験希望級に沿って3学年合同で実施します。	1.資格取得ができるように、知識を身につける。2.会社四季報の内容を理解し、企業の比較ができるようになる。3.個人で発表ができるような、プレゼンテーションスキルを身につける。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ(春編留/秋編留)	3年生	前	ヒト、モノ、カネ、情報が容易に国境を越えて移動するグローバル化という現象は、世界に大きな影響を及ぼし始めている。グローバル化は経済だけでなくあらゆる分野に変化を求めている。本演習では母国を離れて生活する留学生の皆さんが、日本の経済や文化などを多角的かつ客観的に検証しながら、母国と比較して考えていく。	グローバル化が、広い視野に立って考えなければならない現象であるということを理解できる。また、グローバル化に対応できるため、自分が最も関心のある専門分野だけでなく、外国語や外国の文化などにも関心を持ち、学習の幅を広げることができる。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅡ(春編留)	3年生	前	・就職活動、進学準備はいずれもプロジェクトです。卒業後に社会人として必要になるスキルであるプロジェクト計画/実施/改善スキルを身につけてもらいます。・大学院進学チームは、受験勉強ならびに研究計画作成を行います。・実践学習チームは、社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけてもらいます。・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロジカル・シンキングや目的達成のためのプロジェクト管理技法などを、各人の学習計画と実行に役立てます。	・論理的な考えを構築し、文章や資料としてまとめることができる。・プレゼンテーションを効果的に行うことができる。・大学院進学チームは、研究基礎力・研究マネジメント力を身につける。・実践学習チームは活動を通じてプロジェクト・マネジメントの基礎を習得し、PDCAを回せるようになる。	○	◎	○

ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールⅡ	3年生	前	(ゼミのテーマ)「プロスポーツビジネスの考察」(学習の内容)サッカーJ2リーグ、ギラヴァンツ北九州の取り組みを考察するとともに、新たな発展について検討することを目的とします。具体的にはギラヴァンツ北九州の経営理念と実際の経営活動について検証します。例えば、クラブと北九州市の連携がいかに行われているか。更に掘り下げていけば、サッカースクール事業、地元小中学校との連携、小倉など地域の商店街とのつながり、広報活動の比較評価等であります。これらを検証していくことで新たな問題を提起します。	1)プロスポーツを理解できるようになる 2)ギラヴァンツ北九州の取り組みから具体的な経営が理解できるようになる		○	◎
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールⅡ	3年生	前	憲法の統治機構及び行政法の基本論点について、解説し議論していきます。現代行政国家における基本テーマを中心に扱います。公務員試験をはじめとした就職試験の土台となる文章作成力養成プログラムを実施します。担当教員は、長年にわたり民間企業(金融機関含む)の取締役、複数の地方自治体の行政委員、大手公務員受験指導専門学校における主任講師を務めた経験を有しており、履修者のニーズに合った教育内容の提供および相談対応を行うことができます。	①文献を正確に理解し、他のゼミ生との議論の中で発展的に説明できるようになる。②広く現代社会の法的問題に関心を持ち、自分なりの考えを持ち、意見を述べるようになる。③基礎的なライティングリテラシーを習得し、公務員試験をはじめとした就職試験に対応できるようになる。		◎	○
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールⅡ(春編留)	3年生	前	「グローバル化」「ボーダレス化」が一般化した今日でも、留学生の皆さんは毎日のように「異文化」の存在を強烈に意識させられる場面に遭遇するはず。本演習では、皆さん各人が日々体験する「日本という異文化」を、多角的かつ客観的に検証しながら、そもそも「異文化」とは何であるかという問題にアプローチしていきます。そして皆さんが、このことを自国の文化を外側から再認識するための契機としてほしいと考えています。	1. 自分のなかにすでに構築されていた日本のイメージと現実のギャップを客観化して文章にまとめることができる。2. 出身国と日本の文化的相違を認識し、相互理解のために有効な情報の発見と当該情報の文章による伝達ができる。3. 日本語に含まれる修辭的技法を理解し、行間に入れられた筆者(作者)の意図の読解ができる。		○	◎
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールⅡ(春編留)	3年生	前	本演習では、「日本企業の経営戦略分析レポート」の作成をおこないます。3年次配当の本演習では、日本の「今現在の」優良企業/話題の企業の経営戦略、あるいは一般的な経営現象(ビジネスモデル等)についての分析を行っていきます。3年前期に行う企業・経営研究は、3年後期に行われる「学生研究報告会」での発表を目指します。また、3年後期はこれまでの学習成果を基に各自『卒業論文』の作成準備・執筆に着手していきます。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文作成の前段階として、企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する基礎レベルのレポートを作成することができる。・グループの中で計画的かつ協力的に目的とする課題遂行に取り組む、その中でも自分の意見・主張を積極的に述べることができる。		○	◎
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールⅡ	3年生	前	各自でライフデザインおよびキャリアデザインをイメージし、必要とされる能力を養う。ビジネス社会で必要とされている「ビジネスマナー」について理解する。コミュニケーション能力(聞く/話す)を高める。	社会人基礎力を高め、自己PRにつなげられる。コミュニケーション能力に自信が持てるようになる。ライフデザイン・キャリアデザインが明確になる。		○	◎
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールⅡ	3年生	前	本講義では、学生生活の中で、自らデザインした人生へ向かうための方向性を見据えるため、自分の目標を小刻みに設定し到達していくプロセスを学ぶ。目標を「長期目標」「中期目標」「短期目標」に分け、「自分がいま何をすべきか?」を問い設計する。履歴書や論文など、自分の成果物の進捗具合をpptなどで報告し、様々な見識を養いながら、今後の方向性を検討する。複数回の発表を行い、自分のアイデアをブラッシュアップする。他者の表現からも、自分の学びについて吸収できるような機会とする。	①:自分自身の「大学時代の生活」を俯瞰的かつ戦略的にデザインし、その進捗状況を報告できるようになる。②:「ことば」(ppt、声)を使った表現を、積極的に伝えるようになる。③:卒業までの成果物作成に対し、積極的な姿勢を持てるようになる。④:他者の発表や表現について、建設的なコメントができるようになる。		◎	○
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールⅢ	3年生	後	実務家教員として金融機関に管理職含め25年、税理士として15年(兼任)の経験を活かし理論と実践の融合を図る授業を展開する。会計は、①企業などの経済主体や、そのなかで働く人々の活動を一定のメカニズムに従ってさまざまな数値に写しとる行為である。②言語の存在しない世界はなく、企業や産業社会には事業の言語としての会計が存在する。③企業の価値観や判断、戦略を映し出す鏡であり、それを可能にするのが、会計が柔軟な秩序システムを持っているからである。本ゼミでは、上記の3つを基本としてビジネスパーソンに必要な会計知識をテキスト、日経新聞、PBLなどから学んでいく。一方で、関連する資格取得(簿記やFPなど)の教育も行う。	1. 会計の理論や歴史から実務事例までを理解することができる。2. 企業活動への影響を多面的にとらえることができる。3. 会計の知識をいかに企業価値に向けて戦略的に活用するかを説くことができる。4. レジュー作成によるプレゼンテーション能力やディスカッション能力および協調性などの醸成を図ることができる。5. 卒論のテーマを決め、その問題意識と目的を発表し、卒論執筆の準備ができる。		○	◎

ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3年生	後	ゼミナールでは、経営学とその応用した分野についての学習と研究をします。その手始めとして、産業界の現状や経営学理論から、自分にとって興味があるテーマを決めてもらいます。その際、関連の先行研究を学習することにより、問題意識(自分の問い)と研究の焦点を明確にします。また、各自の研究の焦点についての学習と研究を深めたのち、最終的には、卒業論文もしくはゼミ研究レポートを作成していきます。	1.企業や業界の現状について理解できる。2.経営学の知識を応用することができる。3.レポートの書き方がわかる。4.文章記述や発表能力を高めることができる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3年生	後	卒論第1次草稿の発表者は、発表原稿を作成し、それ以外の学生は発表を聞いて、その場で質問を行ないます。発表者はその場で、質問者との間で質疑応答を行なってもらいます。	卒論第1次草稿作成能力を習得できること。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3年生	後	経営管理、マーケティングなど企業活動についての基礎知識を養うとともに、対象とする業界や企業に関する問題や課題、その取り組みについて考察を行います。業界や企業の活動状況を捉えることにより、企業活動について学習するとともに、データを分析する方法、研究結果から経営状態を読み取る力を身に付けることを目標とします。本ゼミナールでは、企業経営において必要な会計と税金の関わりについて学び、税務会計の基礎知識を身につけるためにグループワークを通して研究・発表を行います。	・問題認識、データ収集、データ分析、レポート作成、発表などのスキルを身につける。 ・グループワークやディスカッションに参加することで自分の意見を伝えることができる。 ・企業経営に必要な税務会計の基礎知識を身につける。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3年生	後	自身の就職目標に必要な資格やスキルを身につけてもらいます。就職活動で必須となる会社分析を行うため、会社四季報を読み取れるようになるよう指導します。企業分析を行った結果、興味のある業界について発表をしていただきます。日商簿記検定やFP検定などの資格取得は積極的に進めていただきます。また、履歴書を使用した面接練習などの就職活動に向けたトレーニングも実施します。日商簿記検定対策講義は、受験希望級に沿って3学年合同で実施します。	1.資格取得ができるように、知識を身につける。2.会社四季報の内容を理解し、企業の比較ができるようになる。3.個人で発表ができるような、プレゼンテーションスキルを身につける。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3年生	後	企業の脱税、粉飾決算、偽装表示といった事件を新聞やニュースで見聞きしたことがあると思いますが、なぜこのような違法行為を行う企業が後を絶たないのでしょうか。本ゼミでは、その原因やメカニズムを決算書や裁判例を基に分析し、会社法を中心とした企業法の観点から企業不祥事の防止について考えていきます。ゼミナールⅡに引き続き、研究を進めていきます。	①ビジネスパーソンとして実践的な法律知識を学ぶことができる。②企業法に位置づけられる各法律の考え方や会計との関連性を理解することができる。③決算書より財務体質や法的問題点を読み取り問題解決力を身につけることができる。④プレゼンテーション能力を身につけることができる。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3年生	後	本授業では、複式簿記の構造について理解する。加えて、その応用として問題基盤型学習、サービスマーケティングなどを取り入れて実践を図り、地域連携・地域貢献活動を行う。前者では日商簿記検定試験合格などを手段として、複式簿記の構造について追究する。後者では産学官連携活動および地域連携活動を実施する。産学官連携活動では地方公共団体や公共性・公益性が高い企業と共に、地域連携活動では地域住民や商店街などと共に、調査・分析を行い、その結果について発表する。	1.複式簿記の構造について、具体的に説明することができる。2.営利企業の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、解釈することができる。3.アンケート調査をおこない、その結果をレポートにまとめ、発表することができる。4.地域社会の現状と課題について、経営学の観点から、具体的に述べることができる。5.地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。6.大学での学びを社会貢献活動と関係づけることができる。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3年生	後	金融基礎理論チーム/プライベート・ファイナンス・チーム(資格)および実践学習チームに分けてゼミ活動を行う。・金融基礎理論チームはテキストおよび各種資料(統計/ニュース/記事等)を通じて学ぶ。・資格取得チームは学習方法について検討を行ったあと、実践的な学習内容に入る。・実践学習チームは、社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけてもらいます。・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロジカルシンキングや目的達成のためのプロジェクト管理技法などを、各人の学習計画と実行に役立てます。	・プライベート・ファイナンス・チームは、FPの全体像について理解したうえで、各細分野の重点事項を深いレベルで理解できることを目的とする。・金融基礎理論チームは、理論とデータ、世の中の現実から金融現象を観察する力を養うことを目的とする。・資格取得チームは、就職活動開始を想定し、受験および同合格を達成する。・実践学習チームは活動を通じてプロジェクト・マネジメントの基礎を習得し、PDCAを回せるようになる。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅢ	3年生	後	就職活動および公務員試験などに関する理解を深めるだけでなく、それらに対する対策演習を行っています。また、就職試験対策などの演習を実施することで、報告慣れするとともにプレゼンテーション能力を高めてもらいます。なお、必要に応じて、個別面談や履歴書等の指導を行います。卒業論文に向けた準備を始めて、資料収集の方法などを習得してもらいます。また、必要に応じて、個別指導を行います。	①就職活動などで必要なコミュニケーション能力を実践できるようにする ②就職活動の情報などを適切に分析・判断できる能力を身につける ③卒業論文に向けた課題を探すとともに、資料収集の方法を習得する。	○	○	◎

ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールⅢ	3年生	後	本演習では、ゼミナールⅡに引き続き、老舗企業を研究対象とする。長期にわたって存続してきた秘訣を探りつつ、企業にとって継続することの意味を考える。ここでは、各自が対象とする企業を選んでその事例研究を行う。	老舗企業が存続できた要因を理解し、そこから各自の見方・考え方を形づくることことができる。			◎	○
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールⅢ	3年生	後	本演習では、「日本企業の経営戦略分析レポート」の作成をおこないます。3年次配当の本演習では、2年前期におこなった戦略の「簡易分析」をグレードアップさせる形で日本の「今現在の」優良企業／話題の企業について経営戦略、あるいは経営現象についての分析を行います。3年前期に行う企業・経営研究は、3年後期に行われる「学生研究報告会」での発表を旨とします。また、3年後期はこれまでの学習成果を基に各自「卒業論文」の作成準備・執筆に着手していきます。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文作成の前段階として、企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する基礎レベルのレポートを作成することができる。・グループの中で計画的かつ協力的に目的とする課題遂行に取り組む、その中でも自分の意見・主張を積極的に述べることができる。	○			◎
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールⅢ（春編留／秋編留）	3年生	後	ヒト、モノ、カネ、情報が容易に国境を越えて移動するグローバル化という現象は、世界に大きな影響を及ぼし始めている。グローバル化は経済だけでなくあらゆる分野に変化を求めている。本演習では母国を離れて生活する留学生の皆さんが、日本の経済や文化などを多角的かつ客観的に検証しながら、母国と比較して考えていく。	グローバル化が、広い視野に立って考えなければならない現象であるということを理解できる。また、グローバル化に対応するため、自分が最も関心のある専門分野だけでなく、外国語や外国の文化などにも関心を持ち、学習の幅を広げることができる。	○		○	◎
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールⅢ	3年生	後	環境・産業を主体とするゼミに配属された学生としての自覚を持つ。地球環境とエネルギー問題の基礎を学ぶ。エコ検定に対応できる知識を持つ。グローバル社会に対応できる素養を身に付けるために、幅広い内容の文献を輪読する。	ISO14001環境マネジメント内部監査員に相応しい素養を身に付ける。地球環境問題を緩和するための政策の基礎を理解する。地球環境問題を緩和するための技術の基礎を理解する。環境に配慮する企業努力を理解する基礎的能力を身に付ける。エコ検定に出題される最も基本的な知識を身に付ける。世界の政治経済の動きを敏感に感じ取り環境の観点からそれに対して自分の意見が持てる。	○		○	◎
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールⅢ	3年生	後	ゼミナールⅢでは、教員がスポーツビジネス関連の企業経営に長年携わってきた経験を生かして、皆さんが解決すべき課題のサポートができる外部企業の人脈も紹介していきます。就活に先立つこの段階から人脈を広げて、ゼミ活動をレベルアップさせます。社会人基礎力育成GP、大学発ビジネスプランコンテスト、地域創生系イベントへの出場を最低1つ以上行い、学外の人達と繋ぐことも楽しめるようになります。そのために自分達の取り組みを発信する力を伸ばす必要があります。スポーツ×ビジネス、スポーツ×地域をテーマに個人課題、グループ課題に取り組みながら社会人基礎力をグングン高めいきましょう。	(1)成果目標を明確に設定し、目標達成のためにクリアしなければならない課題を見つけることができる。(2)それらの課題を解決する具体的な方法を立案できる。(3)計画的に行動を実践し、結果を出して報告することができる。(4)活動を振り返り、内容について考察を加えることができる。(5)上記の内容をプレゼンテーション資料にまとめ、人前で分かりやすくプレゼンテーションすることができる。	○		○	◎
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールⅢ	3年生	後	2年生でのゼミ、前期のゼミⅡの学習内容、経験を生かし、活動を深掘りしながら、レビューをしたり、報告・発表をする能力を高めていく。社会に出ても通用するコミュニケーション能力の向上に力を入れ、自分らしさの演出や発信力のスキルアップをさらに図る。就職活動に向けては、エントリーシートの記入、面接、グループワークなど、実践的な場をもうけ、入社だけでなく社会に出た後も自分のスキルとなるように習得を図る。	・ゼミ内、ゼミ外のコミュニケーションを通じて、自分の視野や人脈を広げ、さらに2年生との交流を通じて、企画・運営能力を共有できるようにする。ゼミ生の自主的な判断で、就職活動に向けた模擬面接やグループワークが行えるようにする。・イベントを自主的に企画し、様々な環境に配慮して運営できる力を身につけられる。・心を豊かにする時間を持ち、勉強やスポーツ以外の自分の趣味を見つけれられる。・社会で通用するスピーチ力、文章力を身につけられる	○		○	◎
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールⅢ（春編留／秋編留）	3年生	後	・就職活動、進学準備はいずれもプロジェクトです。卒業後に社会人として必要になるスキルであるプロジェクト計画/実施/改善スキルを身につけてもらいます。・大学院進学チームは、受験勉強ならびに研究計画作成を行います。・実践学習チームは、社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけてもらいます。・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロジカル・シンキングや目的達成のためのプロジェクト管理技法などを、各人の学習計画と実行に役立てます。	・論理的な考えを構築し、文章や資料としてまとめることができる。・プレゼンテーションを効果的に行うことができる。・大学院進学チームは、研究基礎力・研究マネジメント力を身につけることができる。・実践学習チームは活動を通じてプロジェクト・マネジメントの基礎を習得し、PDCAを回すことができる。	◎		○	○
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールⅢ	3年生	後	憲法の統治機構(国家の仕組み)及び行政法の基本論点について解説し、公務員試験の過去問演習を通じて理解を深めます。並行してライティングリテラシー養成プログラムを実施し、就職試験の論文試験対策を行うとともに、卒業論文の作成能力を培います。担当教員は、長年にわたり民間企業(金融機関含む)の取締役、複数の地方自治体の行政委員、大手公務員受験指導専門学校における主任講師を務めた経験を有しており、履修者のニーズに合った教育内容の提供および相談対応を行うことができます。	①文献を正確に理解し、他のゼミ生との議論の中で発展的な説明を行うことができるようになる。②広く現代社会における法的・政治的問題に関心を持ち、自分自身の考えを持ち、意見を述べることができるようになる。③法律・政治・論文作成の各領域の公務員試験問題に対応できるようになる。	◎		○	
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールⅢ	3年生	後	スポーツビジネスに必要な価値や倫理観について検討する。現在、ギラヴァンツ北九州が積極的に取り組んでいるSDGsを調査し、グループディスカッションを通して考察する。	プロスポーツビジネスを理解する。スポーツビジネスを多角的に分析する。現場で起こる問題を抽出しグループワーク、ディスカッションを通して課題解決を目指す。			○	◎

ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅢ〈春編留〉	3年生	後	「グローバル化」「ボーダレス化」が一般化した今日でも、留学生の皆さんは毎日のように「異文化」の存在を強烈に意識させられる場面に遭遇するはず。本演習では、皆さん各人が日々体験する「日本という異文化」を、多角的かつ客観的に検証しながら、そもそも「異文化」とは何であるかという問題にアプローチしていきます。そして皆さんが、このことを自国の文化を外側から再認識するための契機としてほしいと考えています。	1. 自分のなかすでに構築されていた日本のイメージと現実のギャップを客観的に文章にまとめることができる。 2. 出身国と日本の文化的相違を認識し、相互理解のために有効情報の発見と当該情報の文章による伝達ができる。 3. 日本語に含まれる修辭的技法を理解し、行間に込められた筆者(作者)の意図の読解ができる。	○	◎	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅢ〈春編留〉	3年生	後	本演習では、「日本企業の経営戦略分析レポート」の作成をおこないます。3年次配当の本演習では、日本の「今現在の」優良企業／話題の企業の経営戦略、あるいは一般的な経営現象(ビジネスモデル等)についての分析を行います。3年前期に行う企業・経営研究は、3年後期に行われる「学生研究報告会」での発表を目指します。また、3年後期はこれまでの学習成果を基に各自『卒業論文』の作成準備・執筆に着手していきます。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文作成の前段階として、企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する基礎レベルのレポートを作成することができる。・グループの中で計画的かつ協力的に目的とする課題遂行に取り組む、その中でも自分の意見・主張を積極的に述べることができる。	○	○	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅢ	3年生	後	各自でライフデザインおよびキャリアデザインをイメージし、必要とされる能力を養う。 ビジネス社会で必要とされている「ビジネスマナー」について理解する。 コミュニケーション能力(聞く・話す)を高める。	社会人基礎力を高め、自己PRにつなげられる。 コミュニケーション能力に自信が持てるようになる。 ライフデザイン・キャリアデザインが明確になる。	○	○	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅢ	3年生	後	本講義では、大学生生活の学びをより豊かにするために、学問のフレームワークの習得を目標とする。自身の成果物作成の進捗状況を俯瞰的に把握するため、出席者による発表を行う。他者からのフィードバックを参考に、自らの方向性を見定める。また、他者の発表に対して、積極的に建設的に意見をすることで、表現力やコミュニケーション力を高める。	①:pptを使用して、視覚的要素を意識しながらの発表力が習得できる。 ②:他者の発表にコメントするためのコミュニケーション力を身につける。 ③:自分自身の研究テーマや構成を、より具体的に設定できる。 ④:卒業までの成果物作成に対し、積極的姿勢を持てるようになる。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅢ	3年生	後	卒業までのゼミナルにおける一貫したテーマとして、①経済・社会に関する?般常識の習得、②要点把握能力の向上、③プレゼンテーション能力の向上、④レポート作成能力の向上に本格的に取り組む。3年次後期は、文献購読中級編と位置づけ、経済・社会に関する見識を深めるため、各種文献を購読する。	・これまで学んだ経済学の専門知識を生かして、日本経済の構造と課題について、説明できる。・これまで学んだ経済学の専門知識を生かして、日本財政の構造と課題について、説明できる。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅣ	4年生	前	スミス、マルクス、ケインズ、シュンペーターについて理解する。 現状の経済経営を考えつつ、それら経済学者について理解する。	スミス、マルクス、ケインズ、シュンペーターの考え方を理解する。 現状の経済を過去から未来へ語るができる。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅣ	4年生	前	社会人になった後も活かせるように、ゼミナル最終年次のテーマとして、①経済・社会に関する一般常識、②要点把握能力、③プレゼンテーション能力、④レポート作成能力の確認を行う。特に、文献購読や例題取組を通じて、エントリーシートや面接で求められる書類作成能力と自己紹介能力を鍛錬する。レポート作成に必要なExcelの実践的な利用やPowerPointによる資料作成・プレゼンテーションにも取り組み、経済の現状について第三者に説明できるようにする。	・適切な表現と適切な構成で、目的に応じた200字程度の短文を作成することができる。・既存文献の要約をPowerPointプレゼンテーションシートにまとめることができる。・PowerPointを用いたプレゼンテーションを行うことができる。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅣ	4年生	前	ゼミナルでは、経営学とその応用した分野についての学習と研究をします。その手始めとして、産業界の現状や経営学理論から、自分にとって興味があるテーマを決めてもらいます。その際、関連の先行研究を学習することにより、問題意識(自分の問い)と研究の焦点を明確にします。また、各自の研究の焦点についての学習と研究を深めたのち、最終的には、卒業論文もしくはゼミ研究レポートを作成していきます。	1.企業や業界の現状について理解できる。 2.経営学の知識を応用することができる。 3.レポートや卒論の書き方がわかる。 4.文章記述や発表能力を高めることができる。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅣ	4年生	前	卒論第2次草稿の発表者は、発表原稿を作成し、それ以外の学生は発表を聞いて、その場で質問を行なう。発表者はその場で、質問者との間で質疑応答を行なってもらう。	卒論第2次草稿作成・完成できること。	○	◎	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅣ	4年生	前	テーマは「メディアと広告」です。日常に溢れる膨大な情報の信憑性の判断と正確な理解、そしてそれらの有効活用法について、実際のニュース、広告、CM等を対象に、その内容や構造を、情報発信者・受信者双方の視点から批判的に検証します。とりわけ、広告ポスターやCMは、文学・絵画・映画等の芸術作品と同様に分析・解釈しながら、企業戦略や消費者動向との関連及び時代や社会との連関も考察します。また、情報の総合的読解力・分析力を基礎に、自ら情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションコンテンツ制作の実践もします。	1. 情報の背後に存在する伝達されなかった事実の演繹的理解ができる。 2. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる。 3. CM及びそこで用いられるキャッチコピーなどを、文学テキストの解釈と同様に、時代や社会との連関のなかで分析し解釈できる。 4. 既成概念や社会通念を批判的視座から再検証する柔軟な思考ができる。 5. 情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションを意図的に構築・実践できる。	○	◎	○

ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4年生	前	本ゼミナールでは、日本の企業と経営について関連した演習課題を各自設定し、研究成果を発表することを通して、自ら課題を設定し解決することのできる能力の育成を目指します。業界や企業の活動状況を捉えることにより、企業活動について学習するとともに、データを分析する方法、研究結果から経営状態を読み取る力を身に付けることを目標とします。興味を持った企業の創業理念や経営戦略等について調べ、その研究結果の発表を行います。	・問題認識、データ収集、データ分析、レポート作成、発表などのスキルを身に付ける。 ・グループワークやディスカッションに参加することで自分の意見を伝えることができる。 ・経営学に関する基礎知識を身に付ける。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4年生	前	本授業では、複式簿記の構造について理解する。加えて、その応用として問題基盤型学習、サービスマーケティングなどを取り入れて実践を図り、地域連携・地域貢献活動を行う。前者では日商簿記検定試験合格などを手段として、複式簿記の構造について追究する。後者では産学官連携活動および域学連携活動を実施する。産学官連携活動では地方公共団体や公共性・公益性が高い企業と共に、域学連携活動では地域住民や商店街などと共に、調査・分析を行い、その結果について発表する。	1. 複式簿記の構造について、具体的に説明することができる。 2. 営利企業の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、解釈することができる。 3. アンケート調査をおこない、その結果をレポートにまとめ、発表することができる。 4. 地域社会の現状と課題について、経営学の観点から、具体的に述べる事ができる。 5. 地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。 6. 大学での学びを社会貢献活動と関係づけることができる。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4年生	前	・実践学習チームは、卒業論文の作成を行う。・就職や進学等を考慮した論文または学習の指導を行う。・卒論作成、就職活動、進学準備はいずれもプロジェクトです。卒業後に社会人として必要になるスキルであるプロジェクト計画/実施/改善スキルを身につけてもらいます。・資格取得チームは学習方法について検討を行ったあと、実践的な学習内容に入る。・実践学習チームは、社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけてもらいます(実務経験)。・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロジカル・シンキングや目的達成のためのプロジェクト管理技法などを、各人の学習計画と実行に役立てます。	・論理的な考えを構築し、文章や資料としてまとめることができる。・プレゼンテーションを効果的に行うことができる。・卒業論文を作成する。・実践学習チームは活動を通じてプロジェクト・マネジメントの基礎を習得し、PDCAを回せるようになる。・資格取得チームは、卒業後を想定し、受験および同合格を果たす。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4年生	前	本演習では、ゼミ研究・卒業研究の指導および卒業後の進路に対する相談指導を行います。3年時の研究テーマをもとに研究を拡大深化させていき、ゼミ研究としてあるいは卒業研究として完成を目指します。また、随時進学・就活支援を行いますので、積極的に取り組んでいきましょう。	①論文の書き方を理解する。②ゼミ研究・卒業研究を完成させる。③プレゼンテーション能力を身につけることができる。④卒業後の進路を決定する。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4年生	前	本演習では、卒業論文またはゼミ論文作成のための指導とともに、随時、就職指導も行う。	研究の総括として、卒業論文またはゼミ論文を完成させる。その過程で、自らの見方・考え方を提示することができる。		◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4年生	前	就職活動および公務員試験などに関する理解を深めるだけでなく、それらに対する対策演習を行っていきます。また、就職試験対策などの演習を実施することで、報告慣れするとともにプレゼンテーション能力を高めてもらいます。なお、必要に応じて、個別面談や履歴書等の指導を行います。卒業研究に向けた研究計画書の作成方法と卒業研究の執筆を実践してもらいます。なお、資料収集の方法や分析方法などを、必要に応じて、個別指導していく予定です。	①就職活動などで必要なコミュニケーション能力を実践できるようにする ②就職活動の情報などを適切に分析・判断できる能力を身につける ③社会の問題点を見出し、それに対する解決方法を提案できるだけなく実践力を習得する。④卒業研究に向けた課題を探すとともに、資料収集の方法を習得する。⑤研究計画書を作成し、分析手法などを身につけた上で、卒業研究を執筆する。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4年生	前	本演習では、2年後期-3年次に自分の興味・関心のある企業あるいは特定の経営現象をテーマとして個人・グループでの研究を行ってきた。4年次では、就職活動および大学院進学などの進路に関する指導と並行して、3年後期から取り組んでいる「卒業論文」の作成が中心となる。卒論提出は4年後期の末(1月)になるが、可能な限り12月の学生研究報告会等での発表も目指してほしい。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文の準備・作成を通じて企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する社会人レベルのレポートを作成することができる。・これまでの学習成果に基づいて、自分の意見・主張を卒業論文として、またプレゼンテーションの場において、論理的かつ主体的に述べる事ができる。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4年生	前	環境・産業を主体とするゼミに配属された学生としての自覚を持つ。地球環境とエネルギー問題の基礎を学ぶ。エコ検定に対応できる知識を持つ。グローバル社会に対応できる素養を身に着けるために、幅広い内容の文獻を輪読する。	ISO14001環境マネジメント内部監査員に相応しい素養を身に付ける。地球環境問題を緩和するための政策の基礎を理解する。地球環境問題を緩和するための技術の基礎を理解する。環境に配慮する企業努力を理解する。基礎的能力を身に付ける。エコ検定に出題される最も基本的な知識を身に付ける。世界の政治経済の動きを敏感に感じ取り環境の観点からそれに対して自分の意見が持てる。	○	○	◎



ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4年生	前	最終学年としてゼミナールを完成させていくことにします。大学入学後～ゼミに入る前まで、入ゼミ後～現在まで、就職活動について、という3つの括りの中で個人的にまた自分以外のメンバーと絡んで、何のために、何を、どう、取り組んできたのか？についてまとめていきます。取り組んだ全体を100%として、スポーツビジネスに関することは何%を占めるのかについてジャッジを行い、その根拠についてまとめていきます。多くの経営者を育成してきた経験を生かして皆さんの努力が形(具体的な業績)として残るようなサポートを行います。	(1)主体的に取り組んだ案件の報告書を正確にまとめることができる。(2)レポートの作成に写真や図表を組み込んで視覚化できる。(3)まとめた資料を用いて分かりやすくプレゼンテーションできる。(4)後輩に仕事を引き継ぐことができる。(5)後輩の相談を担当することができる。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ(春編留)	4年生	前	・卒論作成、就職活動、進学準備はいずれもプロジェクトです。卒業後に社会人として必要になるスキルであるプロジェクト計画/実施/改善スキルを身につけてもらいます。・大学院進学チームは、受験勉強ならびに卒論の作成を行う。・実践学習チームは、社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけてもらいます。・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロジカル・シンキングや目的達成のためのプロジェクト管理技法などを、各人の学習計画と実行に役立てます。	・論理的な考えを構築し、文章や資料としてまとめることができる。・プレゼンテーションを効果的に行うことができる。・卒業論文を作成する。・大学院進学チームは、研究基礎力・研究マネジメント力を身につけることができる。・実践学習チームは活動を通じてプロジェクト・マネジメントの基礎を習得し、PDCAを回せるようになる。	◎	○	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4年生	前	ゼミナールⅢまでの活動をもとに、実際のビジネスの現場での即戦力に近づけるように、さらに知識・技能のレベルを上げていく。読み・書き・パソコンそれぞれのスキルを点検し、自分の言葉で文章を書くこと、自分の言葉で資料を作成しわかりやすくプレゼンテーションを行う訓練を行う。就職活動の進展に合わせて、ES指導、模擬面接、グループディスカッションなどを多く経験できるようにする。	・大学4年間の総仕上げとして、自分ができること、できないことについて把握することができる。・これまでのゼミナール(Ⅰ～Ⅲ)で、自分が何に取り組んで来たかを分かり易く説明することができる。・就職活動に向かうにあたり、エントリーシートの記入や、面接に対して前向きに準備ができる。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4年生	前	就職活動および資格試験などに関する理解を深めるだけでなく、それらに対する対策演習を行っています。また、金融機関および税理士(兼任)としての実務家教員の観点から面接や業界に関するキャリア支援を実施することで、人間力やプレゼンテーション能力を向上します。くわえて、卒業論文を執筆・報告してもらいます。また、各自の研究に応じた分析方法などを実践してその結果をまとめてもらいます。さらに、適宜、個別指導も行います。	(1)就職活動や資格取得などで必要な人間力やコミュニケーション能力を実践できる。(2)会計に関する問題意識をもち、それに対する目的・背景・現状を明確にし、解決方法を提案ならびに実践力を習得できる。(3)卒業論文に向けた課題を探すとともに、その参考文献の収集方法を習得できる。(4)卒業論文を完成させるために、プレゼン資料を作成し、そのプレゼン能力を身につけることができる。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ(春編留/秋編留)	4年生	前	ヒト、モノ、カネ、情報が容易に国境を越えて移動するグローバル化という現象は、世界に大きな影響を及ぼし始めている。グローバル化は経済だけでなくあらゆる分野に変化を求めている。本演習では母国を離れて生活する留学生の皆さんが、日本の経済や文化などを多角的かつ客観的に検証しながら、母国と比較して考えていく。	グローバル化が、広い視野に立つて考えなければならない現象であるということを理解できる。また、グローバル化に対応できるため、自分が最も関心のある専門分野だけでなく、外国語や外国の文化などにも関心を持ち、学習の幅を広げることができる。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4年生	前	就職に役立つ資格として、簿記検定があります。近年の試験制度の改定により、ネット受験も可能になることで合格判定も当日発表されるようになった。合格後、履歴書に記入することが出来るため積極的に受験することを推奨するとともに対策講義を実施する。就職活動に向けての個人面談や新聞や雑誌から気になる記事を取り上げて、スピーチを実施してもらいます。また、コミュニケーションスキルを身につけるため、発表会なども適宜実施します。日商簿記検定対策講義は、受験希望級に沿って3学年合同で実施します。	1.簿記の知識を身につけて、説明ができるようになる。2.会社四季報に記載されている、財務諸表の内容が理解できるようになる。3.就職活動に向けた最新の時事に対して自身の意見を述べられるようになる。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4年生	前	憲法・行政法・行政学の基本論点について、解説し議論していきます。現代行政国家における基本テーマを中心に取り扱います。公務員試験をはじめとした就職試験に必要なコミュニケーション能力を構築するためにグループディスカッション・トレーニング及び面接トレーニングを実施します。ゼミ生の関心に応じた卒業論文の作成指導を行う。担当教員は、長年にわたり民間企業(金融機関含む)の取締役、複数の地方自治体の行政委員、大手公務員受験指導専門学校における主任講師を務めた経験を有しており、履修者のニーズに合った教育内容の提供および相談対応を行うことができます。	①文献を正確に理解し、他のゼミ生との議論の中で発見的に説明できるようになる。②広く現代社会の法的問題に関心を持ち、自分なりの考えを持ち、意見を述べることができるようになる。③基礎的なコミュニケーションスキルを習得し、公務員試験をはじめとした就職試験に対応できるようになる。④卒業論文に関するテーマサーベイを行い、研究テーマを設定し、研究計画を作成・実践できるようになる。		○	◎

ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ	4年生	前	プロスポーツビジネスと社会問題 社会問題に対してギラヴァンツ北九州の取り組みを中心に他の組織と比較検討し問題を明らかにしていく。授業形態・グループワーク(調査、発表、ディスカッション、ディベート)3人組を作りグループで課題に取り組む。問題提起して調査活動を行い、それらについて解決策を見出す能力を身に着ける。	ソーシャルビジネスとプロスポーツビジネスの関係について具体的にわかることを目標としたい。これまでリーグチームのいろいろな取り組みについて見てきたが、それについてyes、noなど評価をしていなかった。これからは必要な取り組み、必要ではない取り組みという判断ができるようになりたい。そして今後発展する取り組みとは何か提言することを試みる。これらの取り組みを通して論文作成に向け、自分自身の意見を持てるようになり、敷いては一つの意見をもって大学卒業を目指したい。それが到達目標である。			◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅣ(秋編留)	3年生	前	当ゼミナールの目的は、経済学部への編入留学生在が、①経済学の基礎知識の習得、②日本の経済・社会に関する見識の習得、③日本語資料の要点把握能力の向上、④日本語によるプレゼンテーション能力の向上、⑤日本語によるレポート作成能力の向上を2年間という短い期間の中で果たすことである。具体的には、「経済財政白書」や「通商白書」の購読、経済学における基礎理論の修得に取り組む。	・購読した日本語文献について、経済学的な論理に注意を払いながら、概要を理解することができる。・購読した日本語文献について、日本語で要約することができる。・自らが作成した要約資料を日本語で説明することができる。			◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅤ	4年生	後	現代経済の流れを大きく理解する。経済学の専門用語を理解する。	経済の動きについて過去から未来へと考えを述べることができる。			○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅤ	4年生	後	社会人になった後も活かせるように、ゼミナール最終年次のテーマとして、①経済・社会に関する一般常識、②要点把握能力、③プレゼンテーション能力、④レポート作成能力の向上に取り組む。4年次後期は、前期に引き続いて、文献講読上級編と位置づける。特に、経済・社会に関する一般常識の再確認という観点から各種文献を講読する。また、受講者の要望も踏まえて、必要に応じて、Excelの実践的な利用やPowerPointによる資料作成・プレゼンテーションにも取り組む。	・経済学部出身者としての見識を問われる場面を想定して、経済に詳しくない人に対して、日本経済の構造と課題を説明することができる。・経済学部出身者としての見識を問われる場面を想定して、財政に詳しくない人に対して、日本財政の構造と課題を説明することができる。			◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅤ	4年生	後	ゼミナールでは、経営学とその応用した分野についての学習と研究をします。その手始めとして、産業界の現状や経営学理論から、自分にとって興味があるテーマを決めてもらいます。その際、関連の先行研究を学習することにより、問題意識(自分の問い)と研究の焦点を明確にします。また、各自の研究の焦点についての学習と研究を深めたのち、最終的には、卒業論文もしくはゼミ研究レポートを作成していきます。	1.企業や業界の現状について理解できる。2.経営学の知識を応用することができる。3.レポートや卒業論文の書き方がわかる。4.文章記述や発表能力を高めることができる。			◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールⅤ	4年生	後	コメントと卒論修正を繰り返すことで、卒論を完成させる。	卒論の完成版を作成できること。			○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅤ	4年生	後	テーマは「メディアと広告」です。日常に溢れる膨大な情報の信憑性の判断と正確な理解、そしてそれらの有効活用法について、実際のニュース、広告、CM等を対象に、その内容や構造を、情報発信者・受信者双方の視点から批判的に検証します。とりわけ、広告ポスターやCMは、文学・絵画・映画等の芸術作品と同様に分析・解釈しながら、企業戦略や消費者動向との関連及び時代や社会との連関も考察します。また、情報の総合的読解力・分析力を基礎に、自ら情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションコンテンツ制作の実践もします。	1.情報の背後に存在する伝達されなかった事実の演繹的理解ができる。2.情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる。3. CM及びそこで用いられるキャッチコピーなどを、文学テキストの解釈と同様に、時代や社会との連関のなかで分析し解釈できる。4. 既成概念や社会通念を批判的視座から再検証する柔軟な思考ができる。5. 情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションを意図的に構築・実践できる。			○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールⅤ	4年生	後	本ゼミナールでは、日本の企業と経営について関連した演習課題を各自設定し、研究成果を発表することを通して、自ら課題を設定し解決することのできる能力の育成を目指します。業界や企業の活動状況を捉えることにより、企業活動について学習するとともに、データを分析する方法、研究結果から経営状態を読み取る力を身に付けることを目標とします。興味を持った企業の創業理念や経営戦略等について調べ、その研究結果の発表を行います。	・問題認識、データ収集、データ分析、レポート作成、発表などのスキルを身に付ける。・グループワークやディスカッションに参加することで自分の意見を伝えることができる。・経営学に関する基礎知識を身につける。			○	◎

ゼミナール科目群	ゼミナールV	4年生	後	就職活動および資格試験などに関する理解を深めるだけでなく、それらに対する対策演習を行っていきます。また、金融機関および税理士(兼任)としての実務家教員の観点から面接や業界に関するキャリア支援を実施することで、人間力やプレゼンテーション能力を向上します。くわえて、卒業論文を執筆・報告してもらいます。また、各自の研究に応じた分析方法などを実践してその結果をまとめてもらいます。さらに、適宜、個別指導も行います。	(1)就職活動や資格取得などで必要な人間力やコミュニケーション能力を実践できる。(2)会計に関する問題意識をもち、それに対する目的・背景・現状を明確にし、解決方法を提案ならびに実践力を習得できる。(3)卒業論文に向けた課題を探すとともに、その参考文献の収集方法を習得できる。(4)卒業論文を完成させるとともに、プレゼン資料を作成し、そのプレゼン能力を身につけることができる。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4年生	後	本授業では、複式簿記の構造について理解する。加えて、その応用として問題基盤型学習、サービスラーニングなどを取り入れて実践を図り、地域連携・地域貢献活動を行う。前者では日商簿記検定試験合格などを手段として、複式簿記の構造について追究する。後者では産学官連携活動および域学連携活動を実施する。産学官連携活動では地方公共団体や公共性・公益性が高い企業と共に、域学連携活動では地域住民や商店街などと共に、調査・分析を行い、その結果について発表する。	1.複式簿記の構造について、具体的に説明することができる。2.営利企業の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、解釈することができる。3.アンケート調査をおこない、その結果をレポートにまとめ、発表することができる。4.地域社会の現状と課題について、経営学の観点から、具体的に述べる事ができる。5.地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。6.大学での学びを社会貢献活動と関係づけることができる。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4年生	後	・卒業論文の作成を行う。・就職や進学等を考慮した論文または学習の指導を行う。・卒論作成、就職活動、進学準備はいずれもプロジェクトです。卒業後に社会人として必要になるスキルである プロジェクト計画/実施/改善スキルを身につけてもらいます。・資格取得チームは学習方法について検討を行ったあと、実践的な学習内容に入る。・実践学習チームは、社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけてもらいます。・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロジカル・シンキングや目的達成のためのプロジェクト管理技法などを、各人の学習計画と実行に役立てます。	・論理的な考えを構築し、文章や資料としてまとめることができる。・プレゼンテーションを効果的に行うことができる。・卒業論文を作成する。・実践学習チームは活動を通じてプロジェクト・マネジメントの基礎を習得し、PDCAを回せるようになる。・資格取得チームは目標資格を取得する。・大学4年間の学習に自信をつける。	○	◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4年生	後	本科目では、ゼミナールⅣに引き続き、ゼミ研究・卒業研究の指導および卒業後の進路に対する相談指導を行うとともに、社会人としてのルールやマナーをアドバイスします。3年時の研究テーマをもとに研究を拡大深化させていき、ゼミ研究としてあるいは卒業研究として完成を目指します。また、随時進学・就活支援を行いますので、積極的に取り組んでいきましょう。	①論文の書き方を理解する。②ゼミ研究・卒業研究を完成させる。③プレゼンテーション能力を身につけることができる。④卒業後の進路を決定する。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4年生	後	本演習では、卒業論文またはゼミ論文作成のための指導とともに、随時、就職指導も行う。	研究の総括として、卒業論文またはゼミ論文を完成させる。その過程で、自らの見方・考え方を提示することができる。		◎	○
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4年生	後	就職活動および公務員試験などに関する理解を深めるだけでなく、それらに対する対策演習を行っていきます。また、就職試験対策などの演習を実施することで、報告慣れするとともにプレゼンテーション能力を高めてもらいます。なお、必要に応じて、個別面談や履歴書等の指導を行います。卒業論文を執筆・報告してもらいます。また、各自の研究に応じた分析方法などを実践してその結果をまとめてもらいます。なお、必要に応じて、個別指導を行います。	①就職活動などで必要なコミュニケーション能力を実践できるようにする ②就職活動の情報などを適切に分析・判断できる能力を身につける ③社会の問題点を見出し、それに対する解決方法を提案できるだけでなく実践力を習得する。④卒業論文に向けた課題を探すとともに、資料収集の方法を習得する。⑤卒業論文を完成させるだけでなく、文書作成能力や分析手法などを身につける。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4年生	後	本演習では、2年後期-3年次に自分の興味・関心のある企業あるいは特定の経営現象をテーマとして個人・グループでの研究を行ってきた。4年次では、就職活動および大学院進学などの進路に関する指導と並行して、3年後期から取り組んでいる「卒業論文」の作成が中心となる。卒論提出は4年後期の末(1月)になるが、可能な限り12月の学生研究報告会等での発表も目指してほしい。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文の準備・作成を通じて企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する社会人レベルのレポートを作成することができる。・これまでの学習成果に基づいて、自分の意見・主張を卒業論文として、またプレゼンテーションの場において、論理的かつ主体的に述べる事ができる。	○	○	◎
ゼミナール科目群	ゼミナールV	4年生	後	就職に役立つ資格として、簿記検定があります。近年の試験制度の改定により、ネット受験も可能になることで合否判定も当日発表されるようになった。合格後、履歴書に記入することが出来るため積極的に受験することを推奨するとともに対策講義を実施する。就職活動で必須となる会社分析を行うため、会社四季報を読み取れるようになるよう指導します。また、就職活動の進捗状況に応じて面談等の個別対応を実施します。日商簿記検定対策講義は、受験希望級に沿って3学年合同で実施します。	1.資格取得ができるように、知識を身につける。2.会社四季報の内容を理解し、企業の比較ができるようになる。3.個人で発表ができるような、プレゼンテーションスキルを身につける。	◎	○	○

ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールV	4年生	後	環境・産業を主体とするゼミに配属された学生としての自覚を持つ。地球環境とエネルギー問題の基礎を学ぶ。エコ検定に対応できる知識を持つ。グローバル社会に対応できる素養を身に付けるために、幅広い内容の文献を輪読する。最終的には、2年生から始まったゼミの集大成として、卒業論文またはゼミ論文を作成する。	ISO14001環境マネジメント内部監査員に相応しい素養を身に付ける。地球環境問題を緩和するための政策の基礎を理解する。地球環境問題を緩和するための技術の基礎を理解する。環境に配慮する企業努力を理解する。基礎的能力を身に付ける。エコ検定に出題される最も基本的な知識を身に付ける。世界の政治経済の動きを敏感に感じ取り環境の観点からそれに対して自分の意見が持てる。卒業論文やゼミ論文の作成を通して、4年間の集大成として研究分野を総括する。	○	○	◎
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールV	4年生	後	ゼミナールVでは、どのようなアウトカムを残すことができたか？という成果が求められます。指導教員は長年スポーツビジネスに関する企業経営に携わってきた経験を生かして、実際の企業ではどのように社員に対して関わっているのかという視点から、実践的なアドバイスをを行いながら、皆さんの成果実現をサポートします。「スポーツ×ビジネス」を主とした各自のテーマについて「まとめの制作」を行ってください。*テーマは個別面談により決定します。個別LINE・グループLINEも活用します。	(1)成果目標を明確に設定し、目標達成のためにクリアしなければならない課題を見つけることができる。(2)それらの課題を解決する具体的な方法を立案できる。(3)計画的に行動を実践し、結果を出して報告することができる。(4)活動を振り返り、内容について考察を加えることができる。(5)上記の内容をプレゼンテーション資料にまとめ、人前で分かりやすくプレゼンテーションすることができる。	○	○	◎
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールV〈春編留〉	4年生	後	・卒論作成、就職活動、進学準備はいずれもプロジェクトです。卒業後に社会人として必要になるスキルであるプロジェクト計画/実施/改善スキルを身に付けてもらいます。・大学院進学チームは、受験勉強ならびに卒論の作成を行う。・実践学習チームは、社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身に付けてもらいます。・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロジカル・シンキングや目的達成のためのプロジェクト管理技法などを、各人の学習計画と実行に役立てます。	・論理的な考えを構築し、文章や資料としてまとめることができる。・プレゼンテーションを効果的に行うことができる。・卒業論文を作成する。・大学院進学チームは、研究基礎力・研究マネジメント力を身に付ける。・実践学習チームは活動を通してプロジェクト・マネジメントの基礎を習得し、PDCAを回せるようになる。	○	◎	○
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールV	4年生	後	就職活動中の学生は、内定を目指してパフォーマンスを高めることに専念する。4年間の大学生活、3年間のゼミ活動の集大成として、報告書の仕上げとスポーツビジネスコースの縦のつながりを意識した引継ぎマニュアルの作成を行う。社会人としての第一歩を踏み出す準備を行う。	・ゼミの後輩にスポーツビジネス領域の活動を引き継ぐことができる。・自分のこれまでの大学生活、ゼミ活動をまとめることができる。・社会人としての生活の準備ができる。	○	◎	○
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールV	4年生	後	卒業論文の作成・修正指導を行う。そのために毎週、プレゼン担当者を決め、発表の後、ゼミ生同士で議論を行い、その結果を卒業論文にフィードバックし、次の発表に活かしていく。自ら作成・発表の計画を立て、資料を調査し、まとめるという作業を実践していく。担当教員は、長年にわたり民間企業(金融機関含む)の取締役、複数の地方自治体の行政委員、大手公務員受験指導専門学校における主任講師を務めた経験を有しており、履修者のニーズに合った教育内容の提供および相談対応を行うことができます。	①自らが設定した卒業論文のテーマについて理解を深め、他者に説明できるようになる。②説得力のある論旨にしていけるために多くの資料を収集・考察することができるようになる。③他のゼミ生を説得できるような効果的なまとめ方やプレゼンの方法・技術について習得できるようになる。	○	◎	
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールV〈春編留/秋編留〉	4年生	後	ヒト、モノ、カネ、情報が容易に国境を越えて移動するグローバル化という現象は、世界に大きな影響を及ぼし始めている。グローバル化は経済だけでなくあらゆる分野に変化を求めている。本演習では母国を離れて生活する留学生の皆さんが、日本の経済や文化などを多角的かつ客観的に検証しながら、母国と比較して考えていく。	グローバル化が、広い視野に立つて考えなければならない現象であるということを理解できる。また、グローバル化に対応できるため、自分が最も関心のある専門分野だけでなく、外国語や外国の文化などにも関心を持ち、学習の幅を広げることができる。	○	○	◎
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールV	4年生	後	現在のトレンドであるボランタリー経済に着目し、リーグチームの新たな可能性について検討を試みながら進む。コロナ禍で社会が新たな可能性に気付き動き始めた現代においてリーグチームはどのような取り組みをしていけばよいのだろうか。経済、社会が情報通信革命によってネットワーク社会の構造の中、スポーツという共通の価値を共有することで組織間の共鳴を深め、相互作用で創出された新しい価値を生み出すことはできないだろうか。本授業は学生たちの活発な議論によってこの新たな可能性について議論をしながら進めるものである。	ボランタリー経済を理解し、スポーツの世界に限らずビジネスチャンスの可能性について検討できるようになることを目的としたい。授業は講義、グループディスカッション、発表、レポート作成をメインに進める。更にグループ同士でのディベートができるよう知見を深め、白熱した議論ができるような授業の雰囲気をつくるのが望ましい。最終的にリーグチーム、ギラヴァンツ北九州の取り組みにおいてボランタリー経済の中での在り方を検討し、北九州のスポーツ文化としてのシンボルとしてギラヴァンツ北九州がなるにはどうすればよいのか意見が持てるようになることを到達の目標としたい。	○	◎	○
ゼミ ナール 科 目群	ゼミナールV〈秋編留〉	3年生	後	経済学部への編入留学生向けゼミナールの最終学期のテーマとして、①経済学の基礎知識の習得、②日本の経済・社会に関する見識の習得、③日本語資料の要点把握能力の向上、④日本語によるプレゼンテーション能力の向上、⑤日本語によるレポート作成能力の向上に取り組む。大学院への進学と日本国内での就職の両方の可能性を考慮して、各種文献を購読する。教員が最適と考える教材を提示したうえで、受講者の要望を十分踏まえる。	・日本経済の構造と課題について、日本語で口頭説明できる。・日本財政の構造と課題について、日本語で口頭説明できる。	◎	○	

ゼミ ナール 科目 目群	ゼミナール V	4年生	前	ゼミナールでは、経営学とその応用した分野についての学習と研究をします。その手始めとして、産業界の現状や経営学理論から、自分にとって興味があるテーマを決めてもらいます。その際、関連の先行研究を学習することにより、問題意識(自分の問い)と研究の焦点を明確にします。また、各自の研究の焦点についての学習と研究を深めたのち、最終的には、卒業論文もしくはゼミ研究レポートを作成していきます。	1.企業や業界の現状について理解できる。 2.経営学の知識を応用することができる。 3.レポートや卒業論文の書き方がわかる。 4.文章記述や発表能力を高めることができる。	◎	○	○
-----------------------	---------	-----	---	--	---	---	---	---